

男女共同参画に関する市民意識調査
及び事業所意識調査

結 果 報 告 書

令和8年3月

高 梁 市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の趣旨	
2. 調査の対象	
3. 有効回収数	
4. 報告書の見方	
II 調査結果	
(1) 市民意識調査	
<調査対象者の属性>	3
1. 男女の地位の平等について	
・ 各分野・社会全体における男女の地位の平等感	6
・ 社会全体でみた場合、男性の方が優遇されていると思う原因	15
2. 家庭生活などに関する男女の役割分担意識について	
・ 「男は仕事、女は家庭」という考え方	16
・ 家庭での役割分担<現状と希望>	18
3. 男女の社会参画について	
・ 今後女性が増える方がよいと思う役職	33
・ 政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由	34
・ 役職への就任や公職への立候補の依頼に対する考え方	35
・ 依頼を断る(断った)理由	36
4. 就労について	
・ 女性が職業をもつことについての考え方	38
・ 現代の社会は女性が働きやすい状況にあるかどうか	39
・ 女性が働きやすい状況にない理由	40
・ 仕事をやめたり、中断したり、転職した経験の有無	41
・ 仕事をやめたり、中断したり、転職した理由	42
・ 管理職の経験の有無	44
・ 管理職になってよかったと感じる(感じた)こと	45
・ 管理職になってよくなかったと感じる(感じた)こと	46
・ 育児休業取得の経験の有無	47
・ 育児休業を取得することについての考え方	48
5. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	
・ 日常生活における優先度<現実・現状と希望>	49
・ ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと	50
・ 最近参加した地域活動	51
・ 地域活動に参加しなかった理由	52
6. 男女平等教育について	
・ 男女平等教育を推進していくために学校で行うとよいこと	53
7. 防災について	
・ 性別の違いに気を配った防災・災害対応のために必要なこと	54

8. 個人としての尊厳を害する暴力について

- ・ 配偶者・パートナーや交際相手から暴力行為を受けた経験の有無 55
- ・ 配偶者・パートナーや交際相手からの暴力行為についての相談先 61
- ・ 相談しなかった（できなかった）理由 62
- ・ 配偶者・パートナーや交際相手からの暴力行為で悩んでいる人からの相談経験の有無 63
- ・ 個人としての尊厳を害する暴力への取り組みで必要なこと 64
- ・ メディアの性別による固定的な役割分担表現や女性に対する暴力、性の表現に対する考え方 ... 65

9. 高梁市における男女共同参画の推進について

- ・ 男女共同参画社会の実現のために高梁市が力を入れていくべきこと 66
- ・ 高梁市でのパートナーシップ宣誓制度等の導入の必要性 67

自由記述意見 68

(2) 事業所意識調査

〈調査対象事業所の属性〉 71

1. 女性の活躍推進の取り組みについて

- ・ 女性の活躍推進に向けて取り組んでいること 73
- ・ 管理職への女性の登用についての考え方 73
- ・ 管理職への女性の登用について課題となっていること 74

2. 育児や介護休業制度の状況について

- ・ 近年の育児休業の取得状況 75
- ・ 男性従業員の育児休業取得を進めるうえで課題となっていること 75
- ・ 近年の介護休業の取得状況 76
- ・ 男性従業員の介護休業取得を進めるうえで課題となっていること 76

3. ハラスメントへの取り組みについて

- ・ 職場のハラスメント防止のため取り組んでいること 77
- ・ LGBTQ などの性的マイノリティへの配慮、差別防止のために取り組んでいること 77

4. 男女がともに働きやすい環境づくりについて

- ・ 従業員のワーク・ライフ・バランス推進や育児・介護支援のために取り組んでいること 78
- ・ すべての人が性別等にかかわらず多様な働き方を実現するために力を入れていくべきこと 79
- ・ 企業認定等の制度の認知度 80
- ・ 誰もが活躍できる職場環境や多様な働き方を実現するために行うべき高梁市の施策 81

自由記述意見 82

I 調査概要

1. 調査の趣旨

この調査は、高梁市における男女共同参画推進の基本方針となる「高梁市男女共同参画基本計画」の改訂及び推進のための具体的な施策を検討するための基礎資料とするために、市民及び市内事業所に対して実施した。

2. 調査の対象

(1) 市民意識調査

- ①調査区域 高梁市全域
- ②調査対象 市内に住む満 18 歳以上の男女 1,000 人
- ③抽出方法 住民基本台帳より 2 階層（性別・年齢別）無作為抽出
- ④調査方法 郵送により調査票を配付し、郵送またはオンライン回答により回収
- ⑤調査時期 令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月

(2) 事業所意識調査

- ①調査地域 高梁市全域
- ②調査対象 正規従業者数が概ね 10 名以上の市内事業所 288 社
(令和 3 年経済センサス調査結果に基づき抽出)
- ③調査方法 郵送により調査票を配付し、郵送またはオンライン回答により回収
- ④調査時期 令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月

3. 有効回収数

(1) 市民意識調査

標本数（率） 1,000
有効回収数（率） 370（37.0%） うち男性 167（45.1%） うち女性 194（52.4%）

(2) 事業所意識調査

標本数（率） 288
有効回収数（率） 101（35.1%）

4. 報告書の見方

(1) 集計は小数点未満を四捨五入して算出した。したがって、比率の数値合計が 100% ちょうどにならない場合がある。

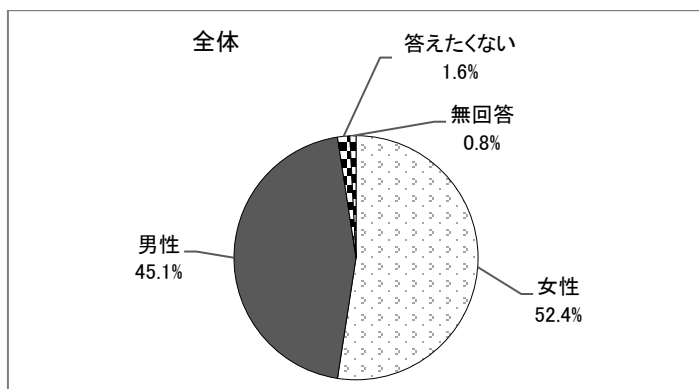
(2) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると 100% を超えることがある。

Ⅱ 調查結果

(1) 市民意識調査

<調査対象者の属性>

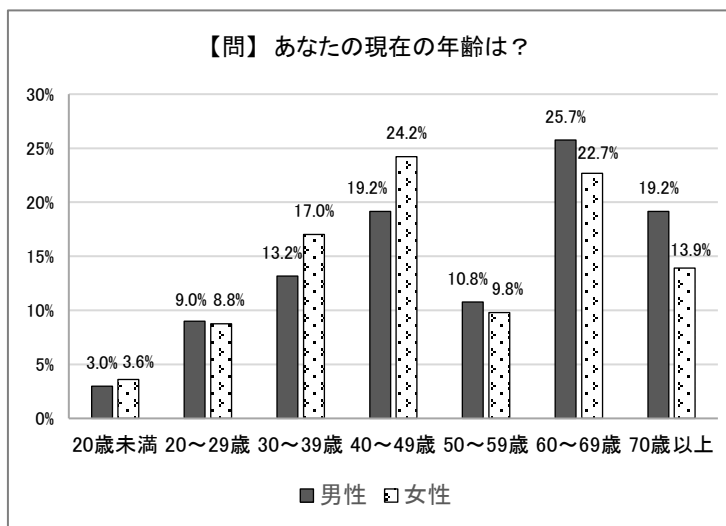
1. 性別



(単位:人)

性別	人数
男性	167
女性	194
答えたくない	6
無回答	3
	370

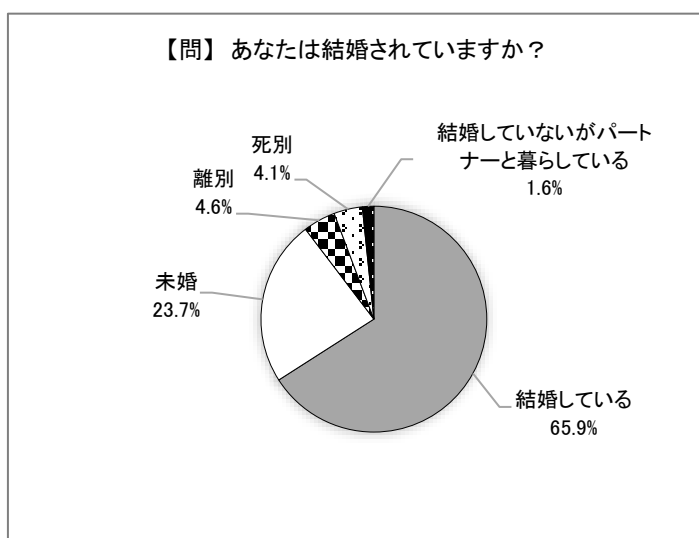
2. 年齢



(単位:人)

	男性	女性	全体
20歳未満	5	7	12
20～29歳	15	17	32
30～39歳	22	33	55
40～49歳	32	47	79
50～59歳	18	19	37
60～69歳	43	44	87
70歳以上	32	27	59
	167	194	361

3. 未既婚の区分

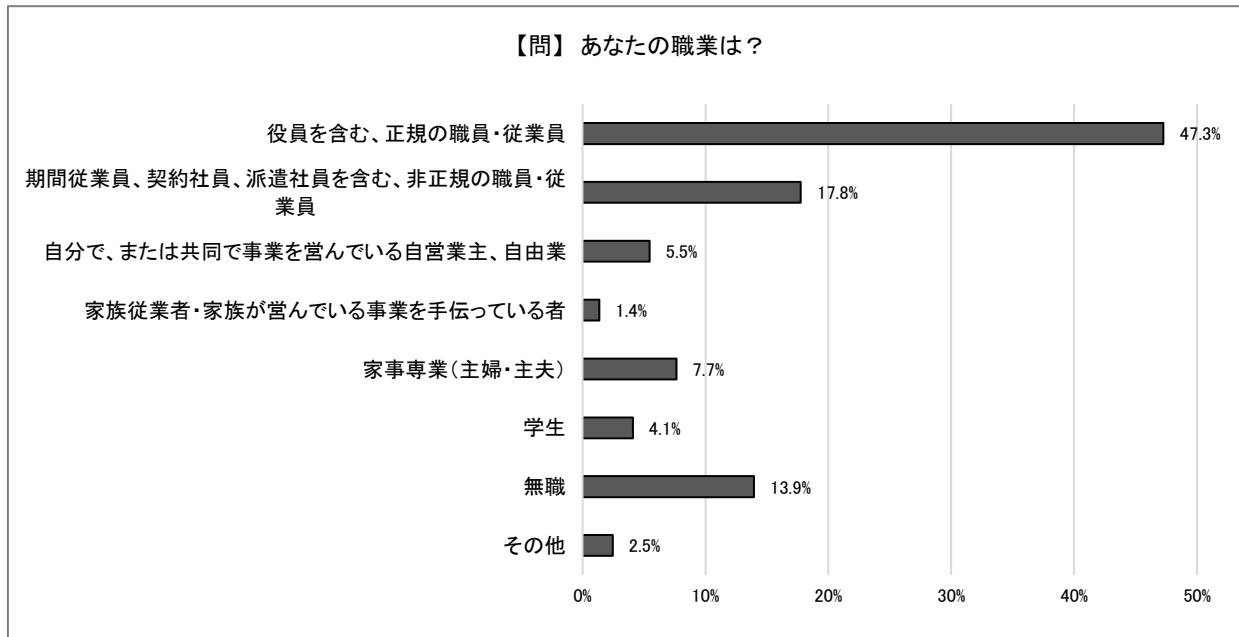


(単位:人)

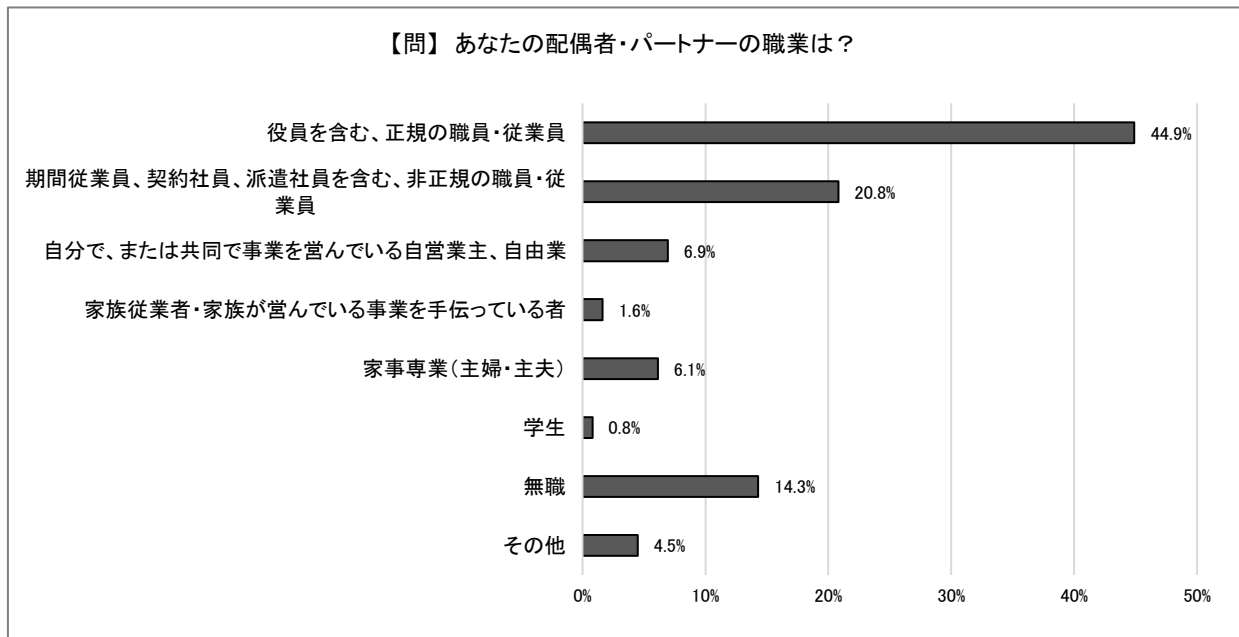
結婚している	242
未婚	87
離婚	17
死別	15
結婚していないがパートナーと暮らしている	6
	367

4. 職業

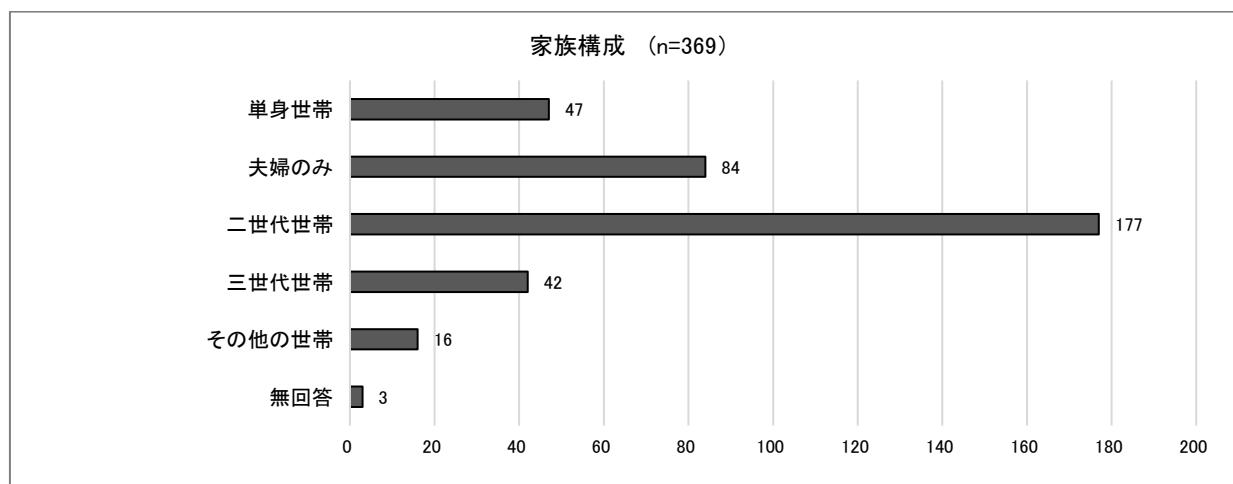
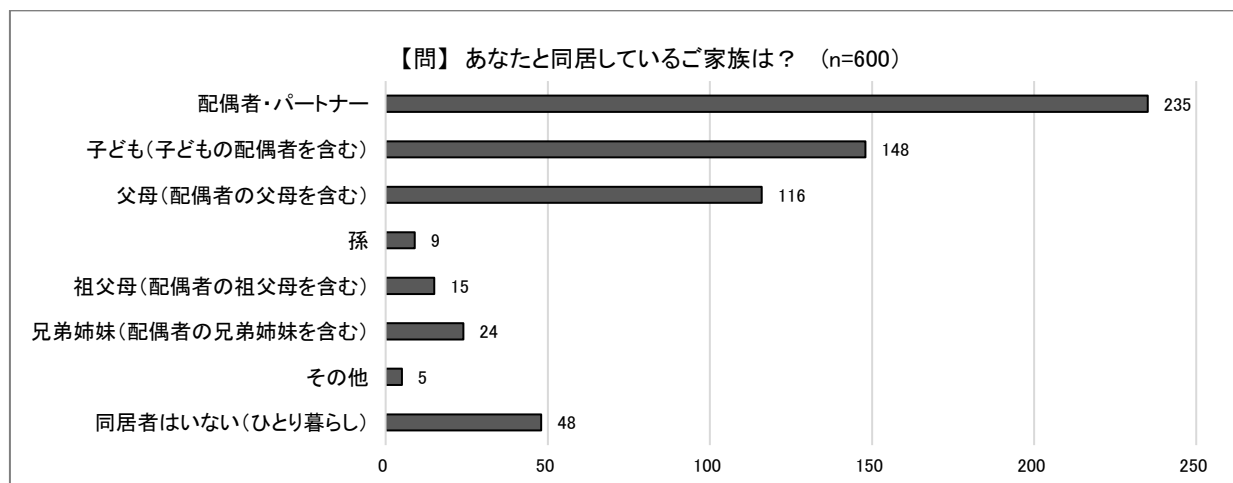
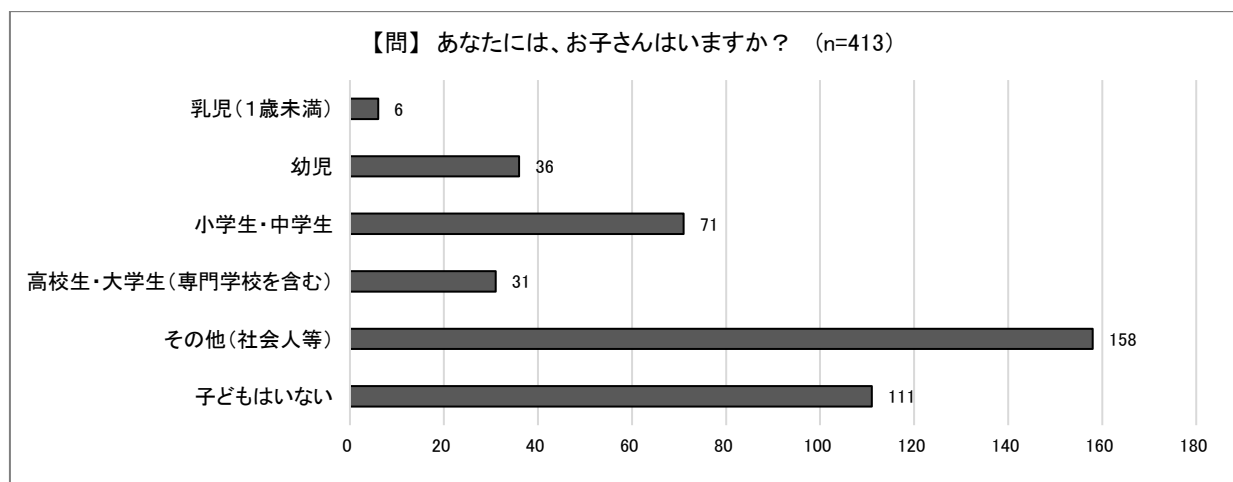
① 回答者の職業



② 配偶者・パートナーの職業



5. 家族構成



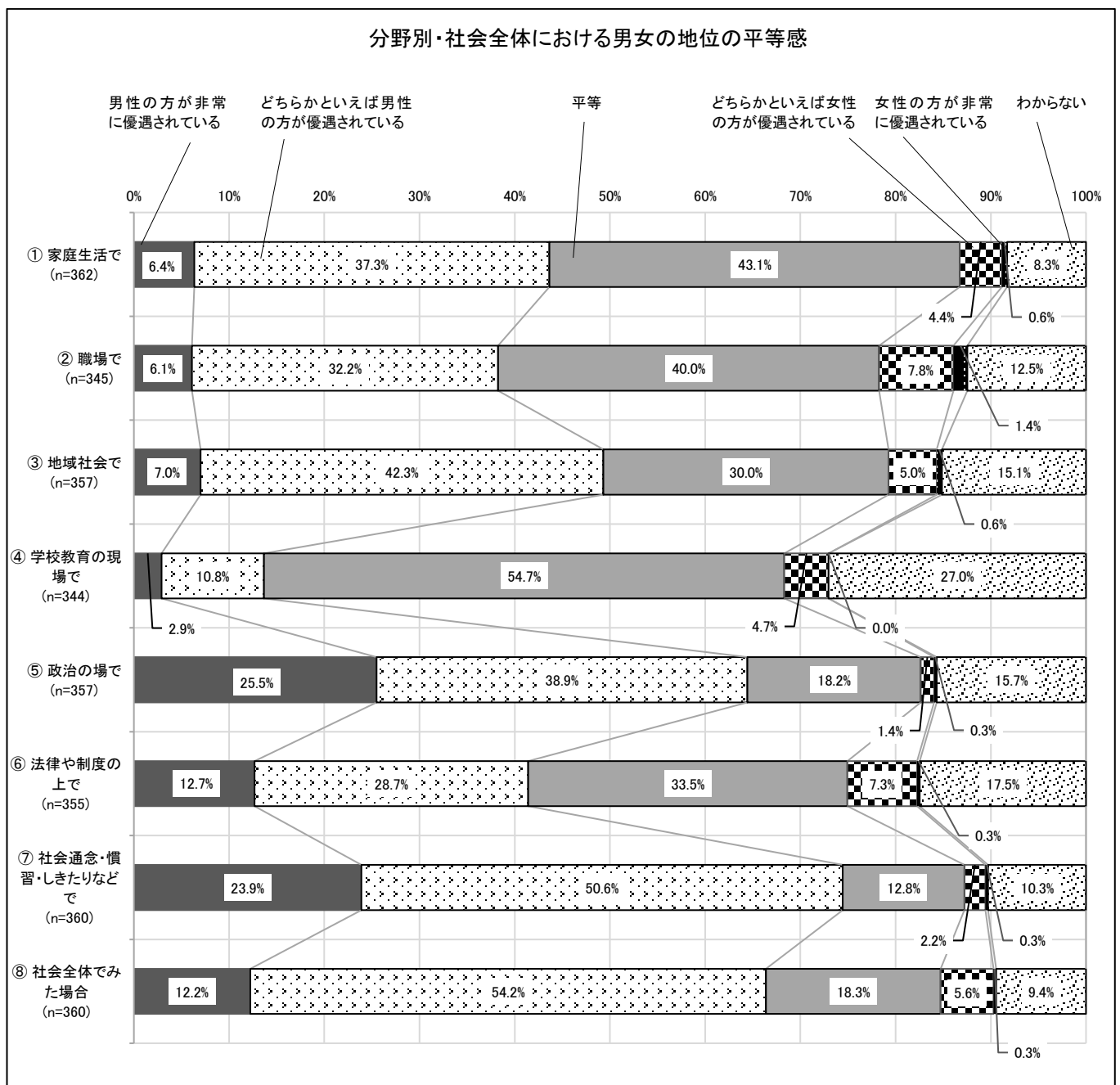
1. 男女の地位の平等について

【問】 あなたは、次にあげる①～⑧の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお答えください。(①～⑧でそれぞれ1つだけ選択)

◆『男性が優遇』と感じている割合は「社会通念・慣習・しきたりなど」が最も高い

分野別・社会全体における男女の地位の平等感について、『男性が優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）と感じている割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が 74.5%で最も高く、次いで「社会全体でみた場合」（66.4%）、「政治の場」（64.4%）などの順となっている。

「平等」は、「学校教育の現場で」が 54.7%で最も高い。また、『女性が優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）は、いずれの分野も 1 割未満となっている。

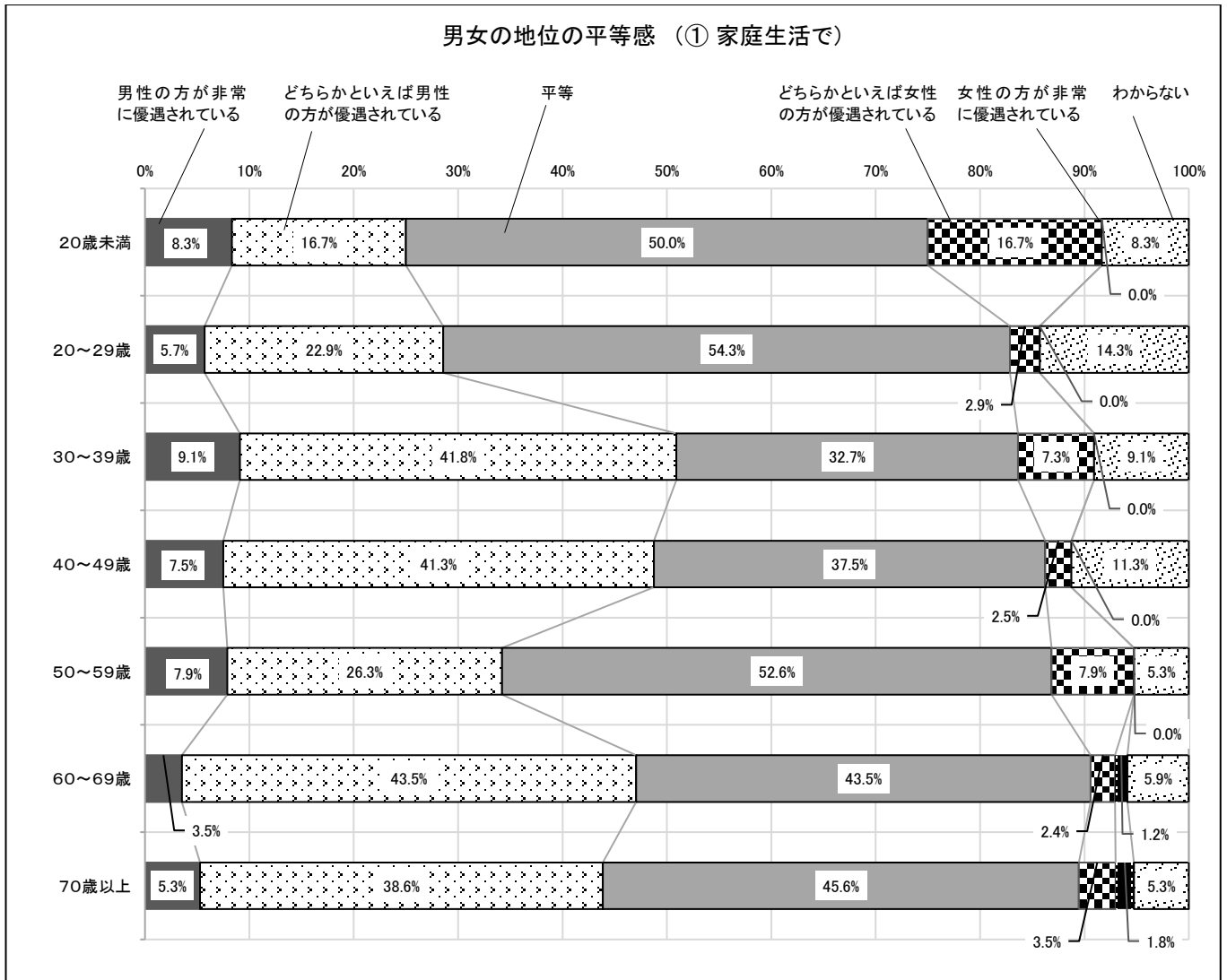


① 家庭生活上

<年代別>

20歳未満と20代の若年層では、「平等」と感じている割合が5割以上、『男性が優遇』が2割となっているが、結婚や育児などのライフイベントに直面する中心層となる30～40代では、『男性が優遇』が5割前後に増加し、「平等」は3割台に低下している。

50歳代以上では、『男性が優位』が3～4割台、「平等」が4～5割台となっている。

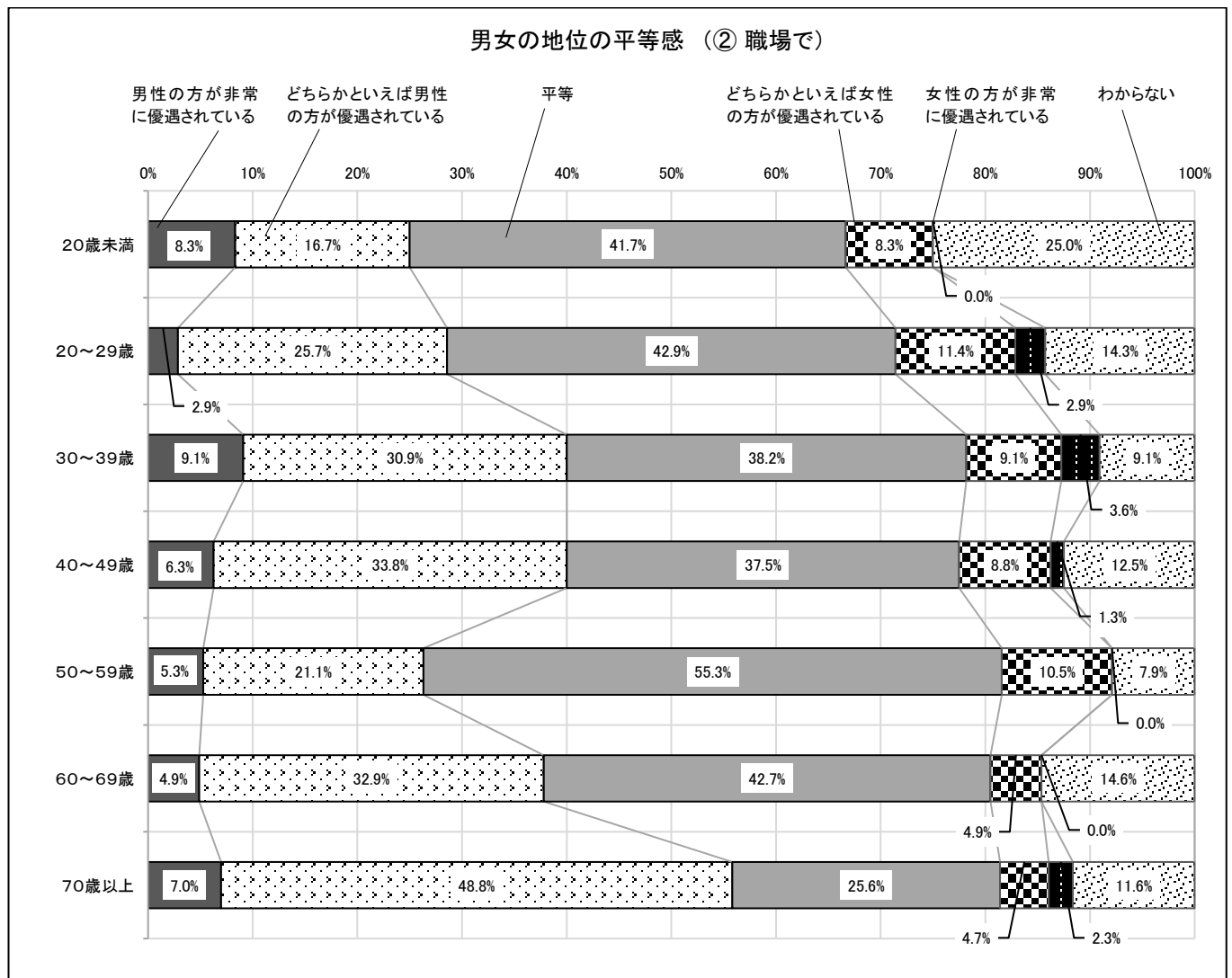


② 職場で

<年代別>

20歳未満と20代、また50～60代では、「平等」と感じている割合が4～5割台で、『男性が優遇』の2～3割台を上回っている。昇進やライフイベントが重なりキャリア形成の中心期となる30～40代では、『男性が優遇』が4割に達し、「平等」は4割弱となり逆転している。

70歳以上は、「平等」が2割半ばと全年代の中で最も低く、『男性が優遇』が5割半ばと全年代の中で最も高くなっている。

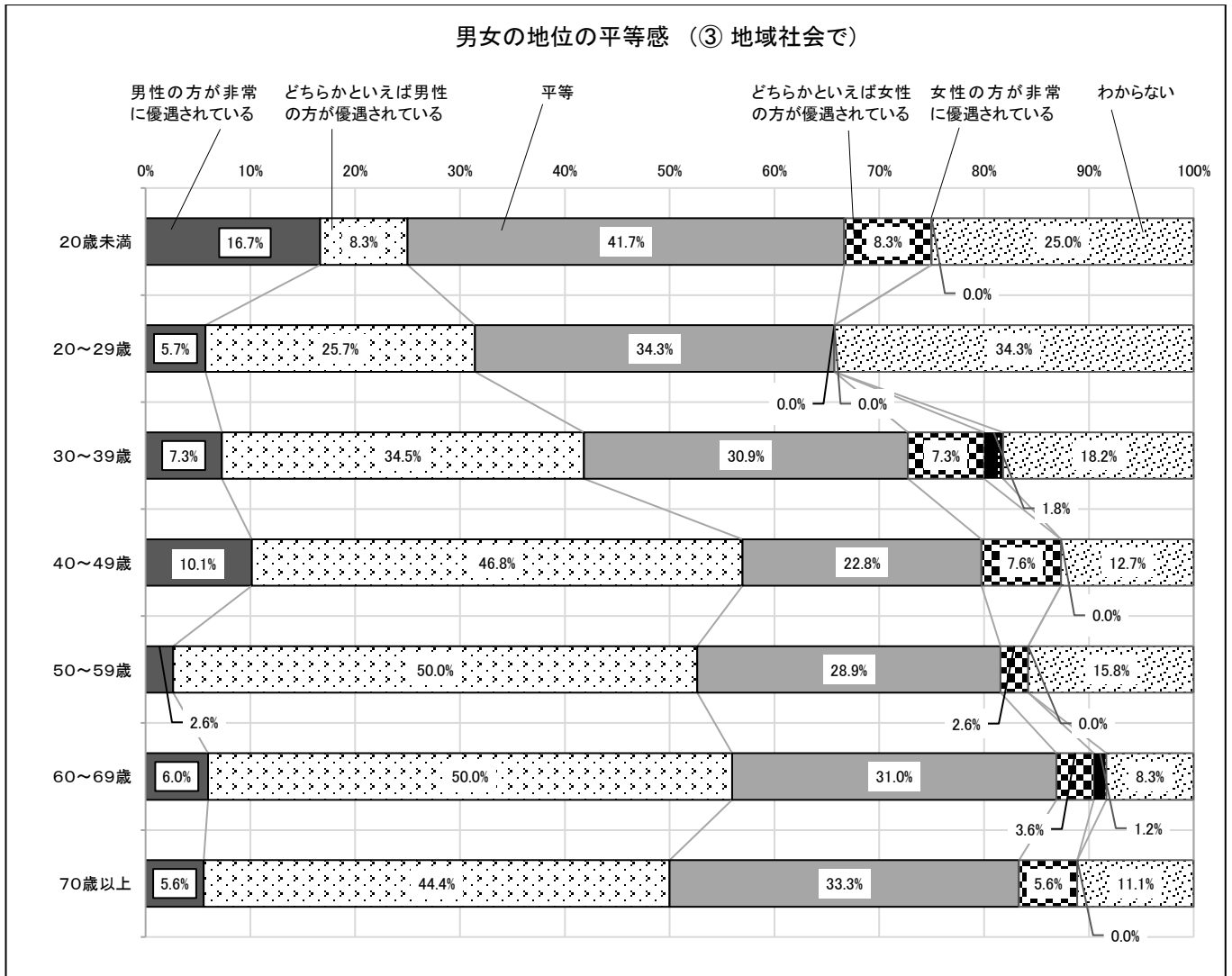


③ 地域社会で

<年代別>

年代が上がるにつれて『男性が優遇』と感じる割合が増え、40代以上の年代で5割以上となっている。また、町内会などの地域活動への参加が本格化してくる30代以降の年代では、「平等」は2〜3割となっている。

20歳未満と20代では、「平等」は3〜4割台となっているが、「わからない」が2〜3割台と他の年代に比べ割合が高くなっている。

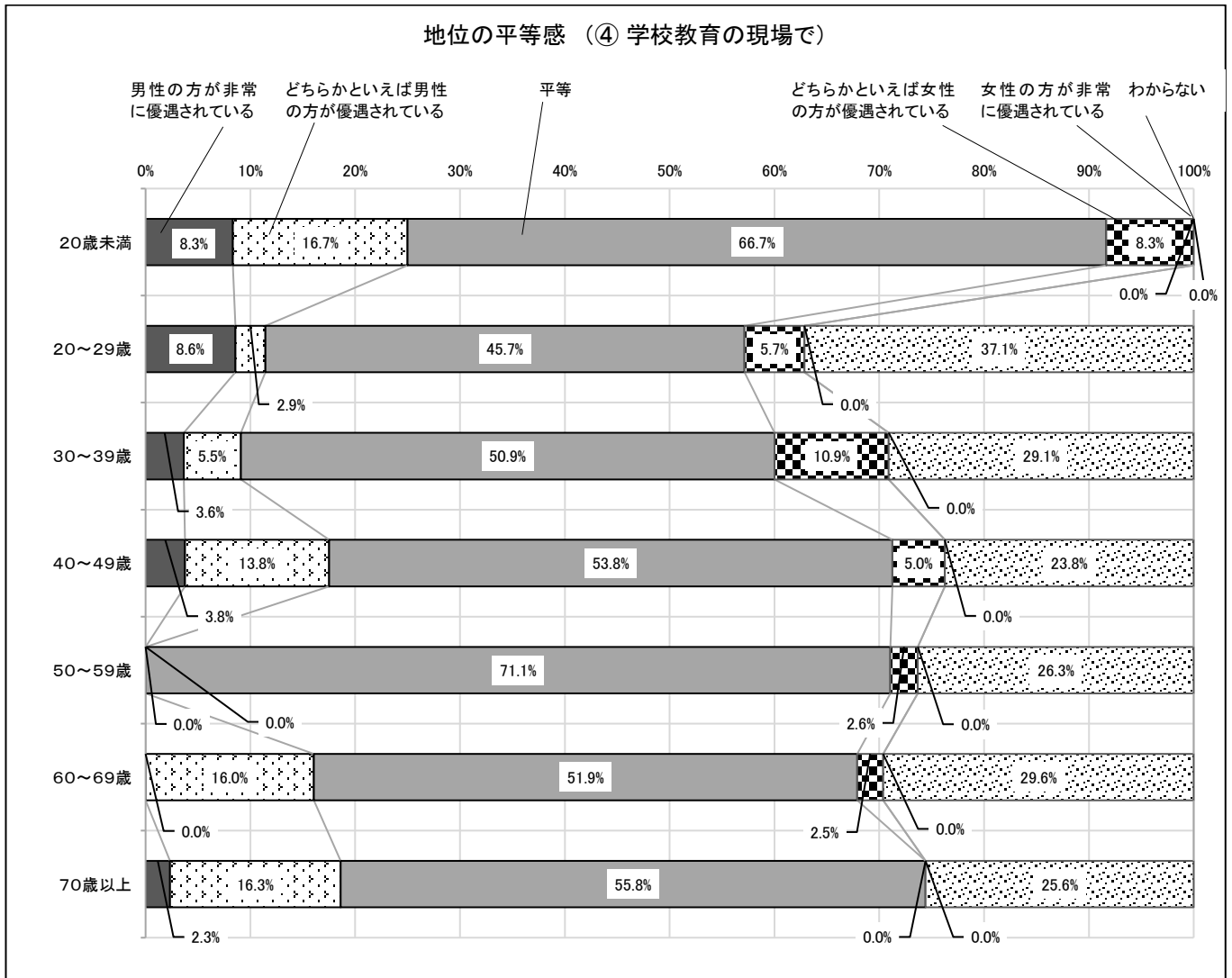


④ 学校教育の現場で

<年代別>

全ての年代で、「平等」と感じている割合が最も高く 4～7 割台となっており、『男性が優遇』や『女性が優遇』の 0～2 割台を大きく上回っている。

一方で、20 代以上の年代では、2～4 割弱の人が「わからない」とも回答している。

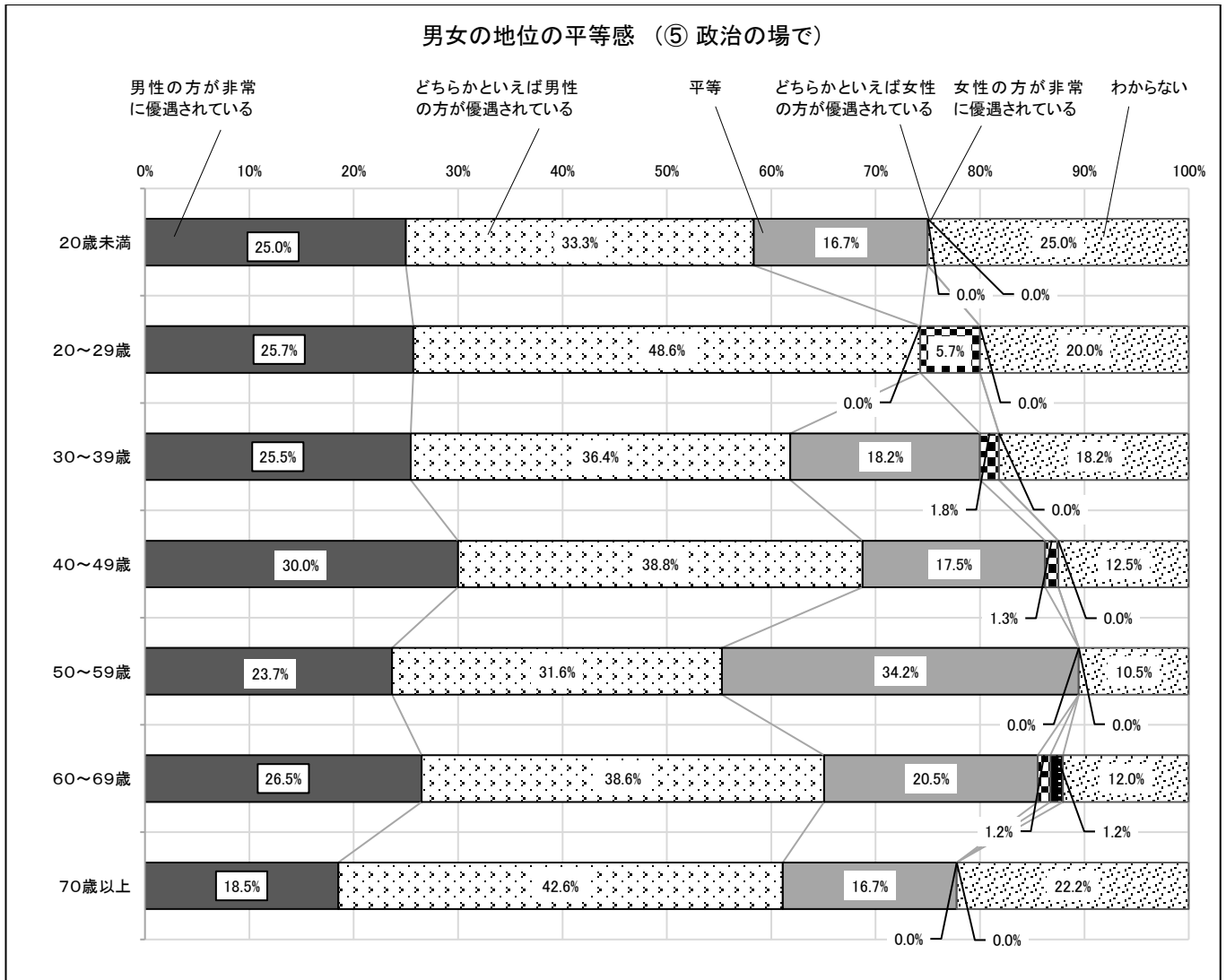


⑤ 政治の場で

<年代別>

全ての年代で、『男性が優遇』と感じている割合が最も高く、5～7割台となっている。一方、全ての年代で、『女性が優遇』と感じている割合が0～1割未満と最も低くなっている。

「平等」は、50代で3割半ばとなっているが、20代では0、他の年代でも2割前後となっている。また、各年代で、1～2割の人が「わからない」と回答している。



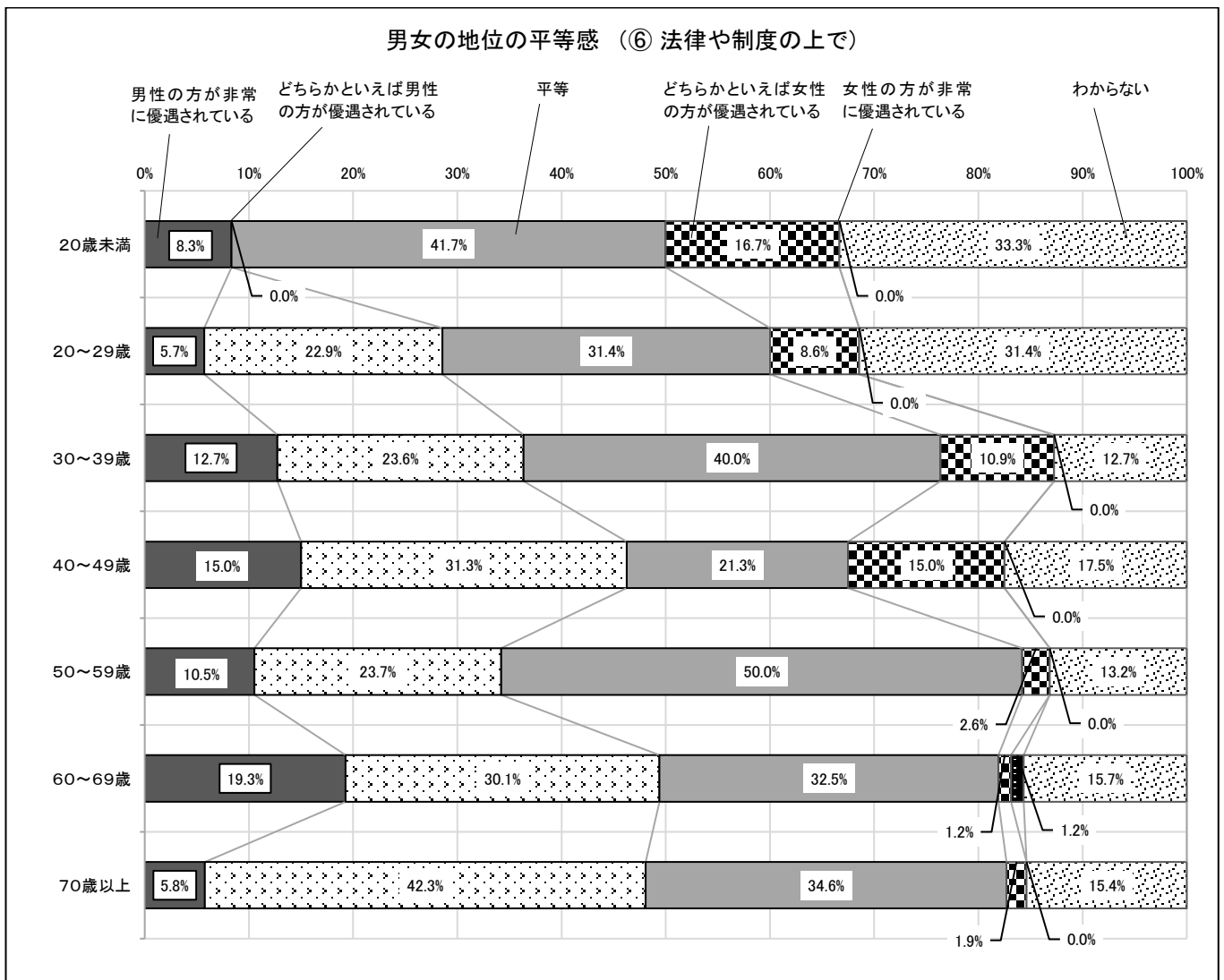
⑥ 法律や制度の上で

<年代別>

「平等」と感じている人の割合は、40代が2割、20代と60代以上が3割台、20歳未満と30代が4割、50代で5割となっている。

『男性が優遇』は、20歳未満では1割未満であるが、その他の年代では3割弱～5割となっている。一方で、『女性が優遇』は、20歳未満から40代までの世代で1割前後、50代以上は1割未満となっている。

また、20歳未満と20代では、3割強の人が「わからない」とも回答している。

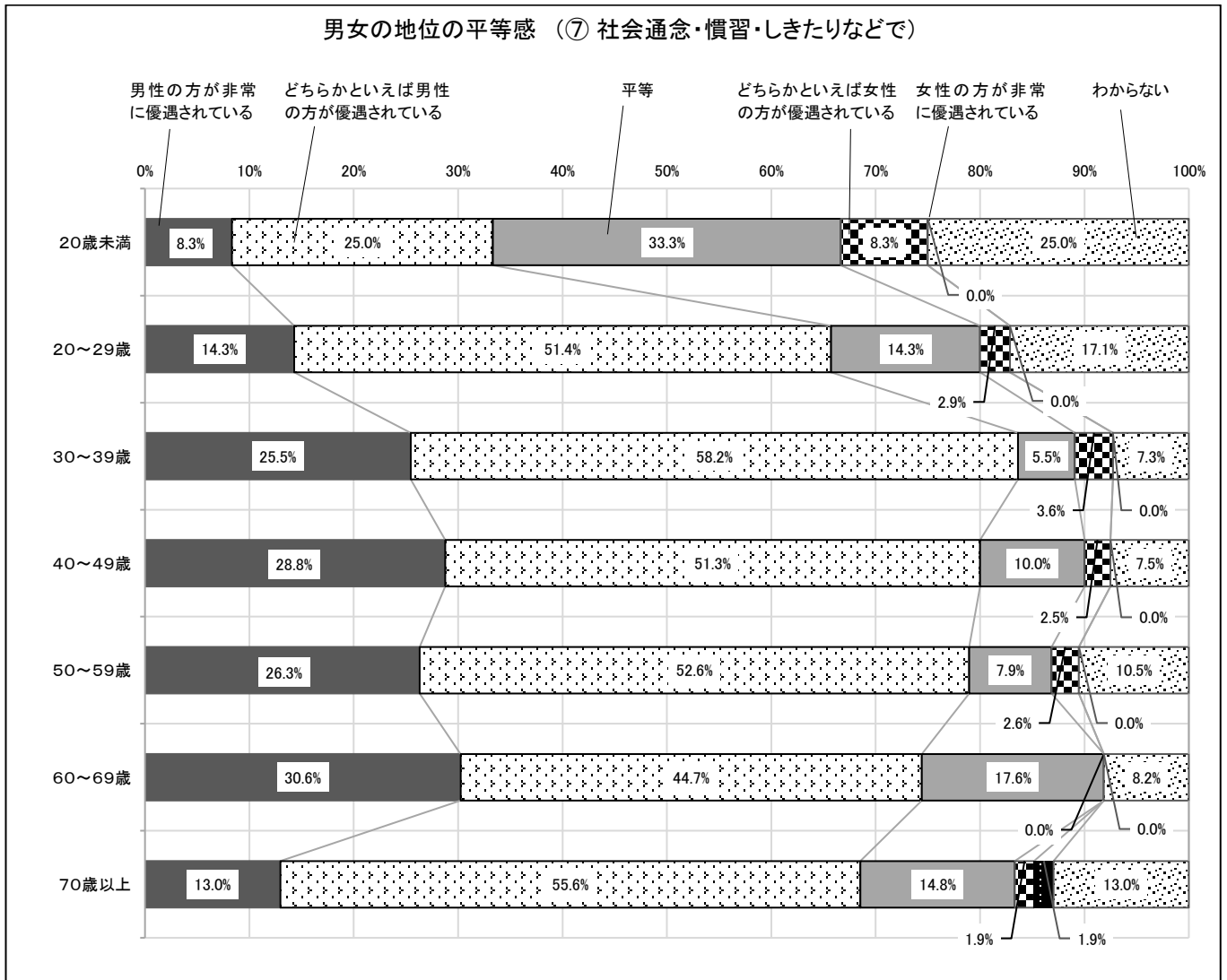


⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで

<年代別>

20歳未満は、「平等」と『男性が優遇』の割合がともに3割となっているが、「わからない」も2割半ばとなっている。

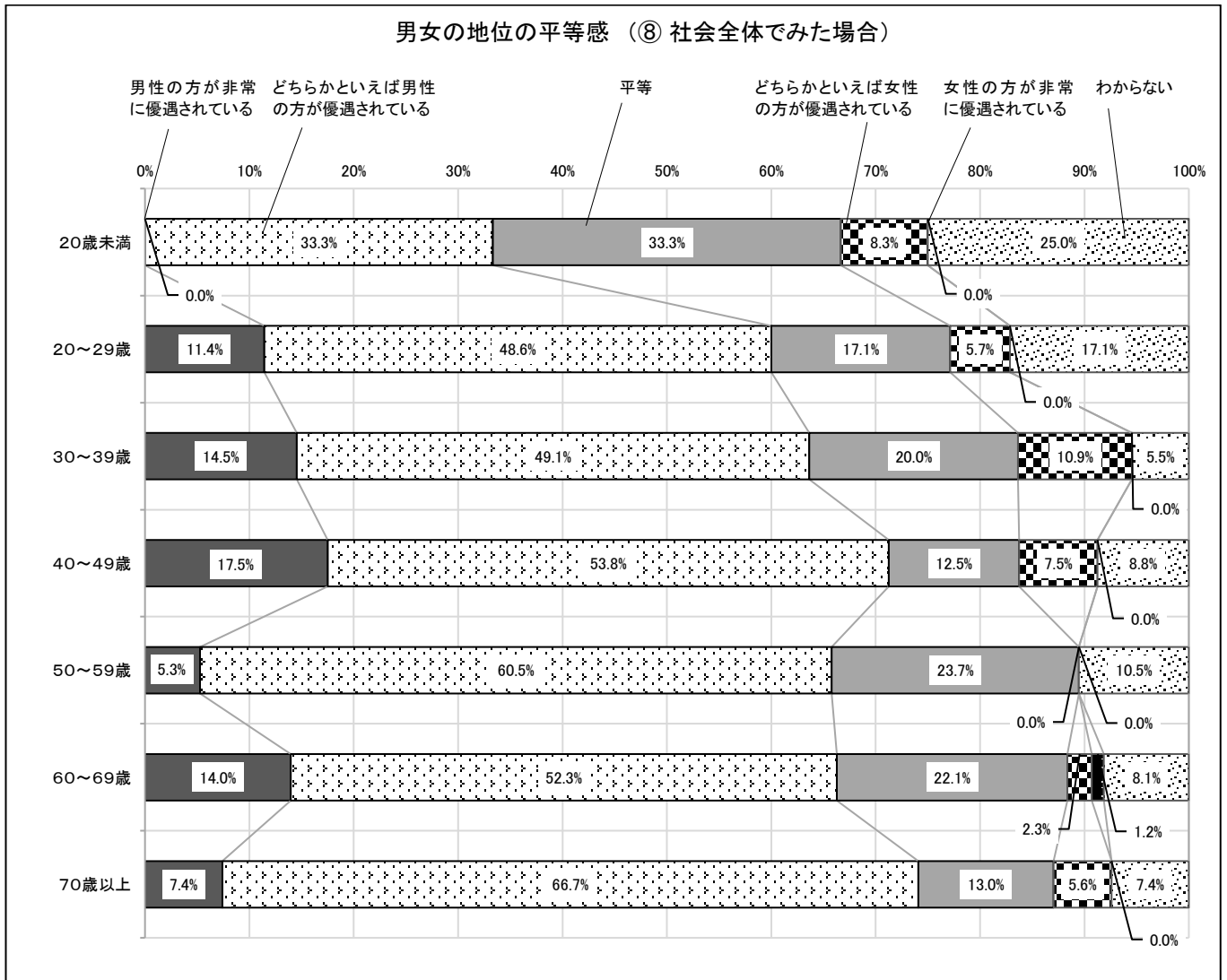
20代以上の年代では、『男性が優遇』の割合が6割半ば～8割となっており、「平等」の1割未満～2割弱、『女性が優遇』の0～1割未満を大きく上回っている。



⑧ 社会全体でみた場合

<年代別>

20歳未満は、「平等」と『男性が優遇』の割合がともに3割となっているが、「わからない」も2割半ばとなっている。
 20代以上の年代では、『男性が優遇』の割合が6～7割半ばとなっており、「平等」の1～2割、『女性が優遇』の0～1割を大きく上回っている。



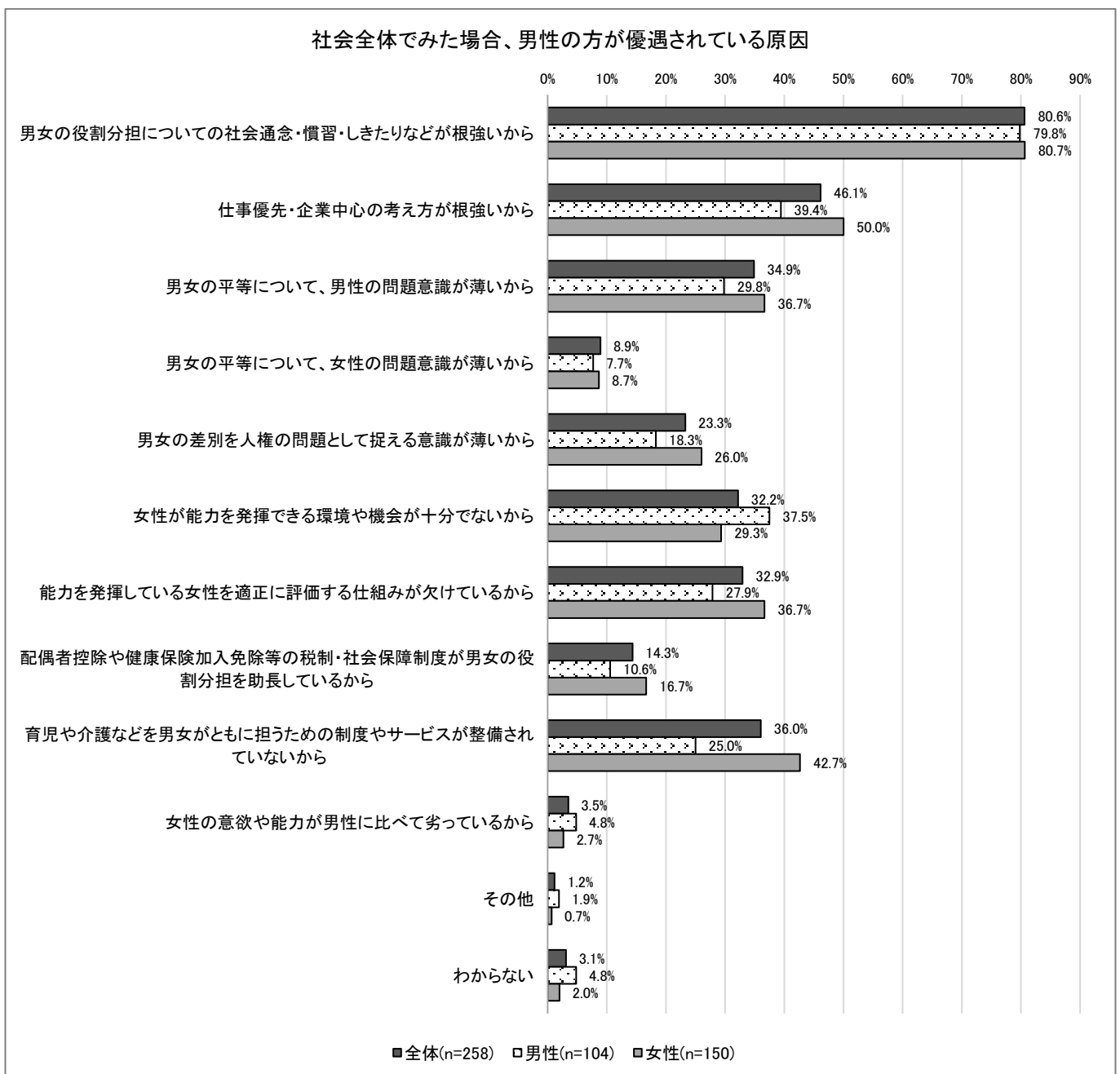
「⑧社会全体でみた場合」で、「男性の方が非常に優遇されている」、または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を選択した方のみ

【問】 社会全体でみた場合、男性の方が優遇されている原因は何だと思いますか。（選択はいくつでも）

◆「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が最も高い

「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりなどが根強いから」が 80.6%で最も高く、次いで「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」（46.1%）、「育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから」（36.0%）などの順となっている。

性別でみると、「育児や介護などを男女がともに担うための制度やサービスが整備されていないから」は女性（42.7%）が男性（25.0%）を 17.7 ポイント、「仕事優先・企業中心の考え方が根強いから」は女性（50.0%）が男性（39.4%）を 10.6 ポイント上回っている。一方、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分でないから」は男性（37.5%）が女性（29.3%）を 8.2 ポイント上回っている。



2. 家庭生活などに関する男女の役割分担意識について

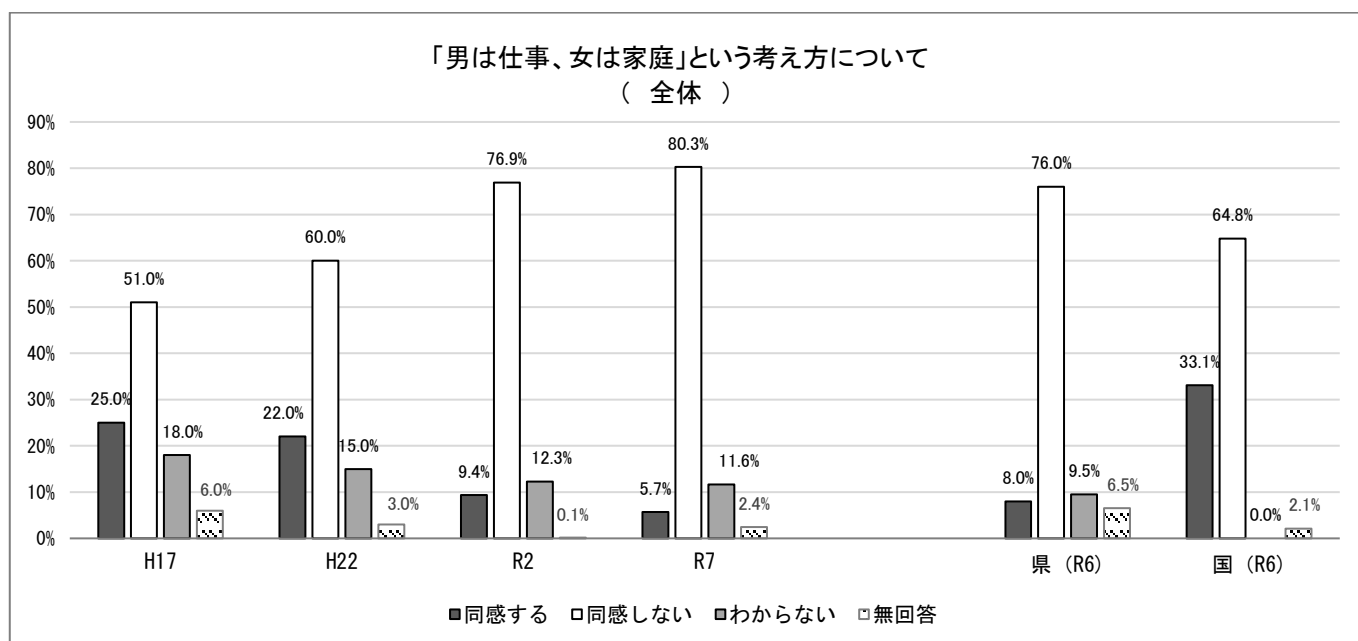
【問】「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。（1つだけ選択）

◆「同感しない」が8割を超え、前回調査よりも増加している

「同感しない」が80.3%と最も高く、次いで「わからない」（11.6%）、「同感しない」（5.7%）などとなっている。

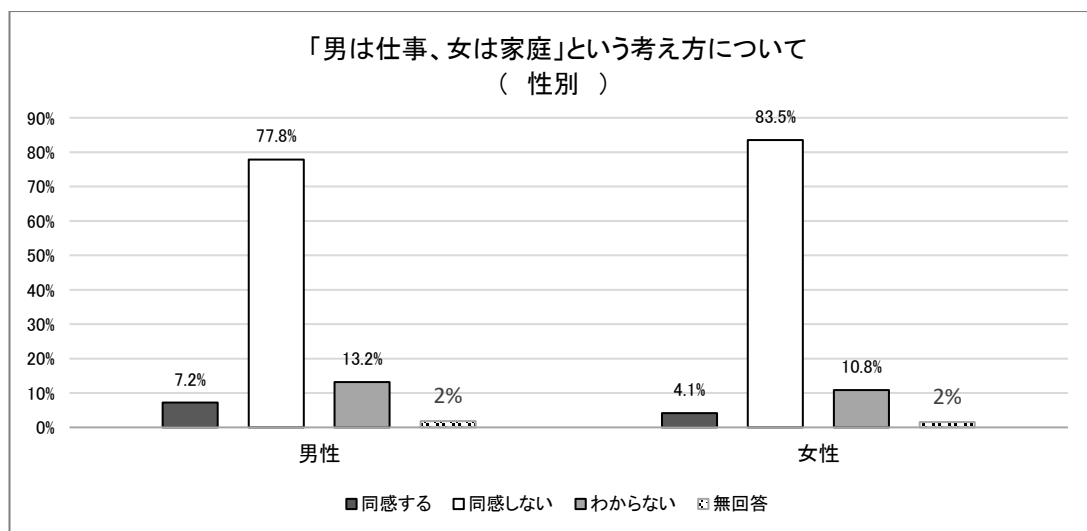
経年比較でみると、「同感しない」は増加傾向となっており、前回調査（R2）よりも3.4ポイント増加している。「同感する」は減少傾向にあり、前回調査よりも3.7ポイント減少している。

国、県の調査結果と比べても、高梁市は「同感しない」の割合が高く、「同感する」の割合が低い。



<性別>

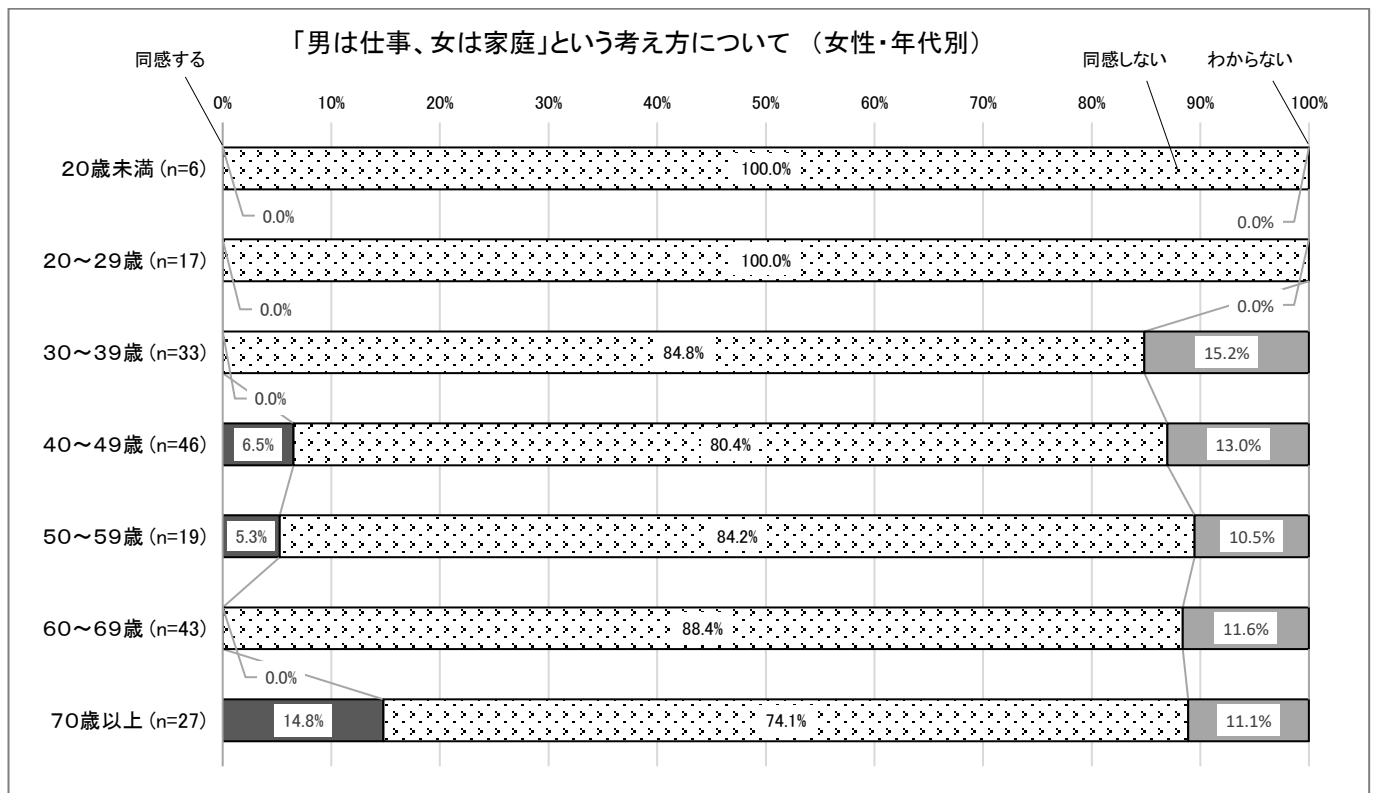
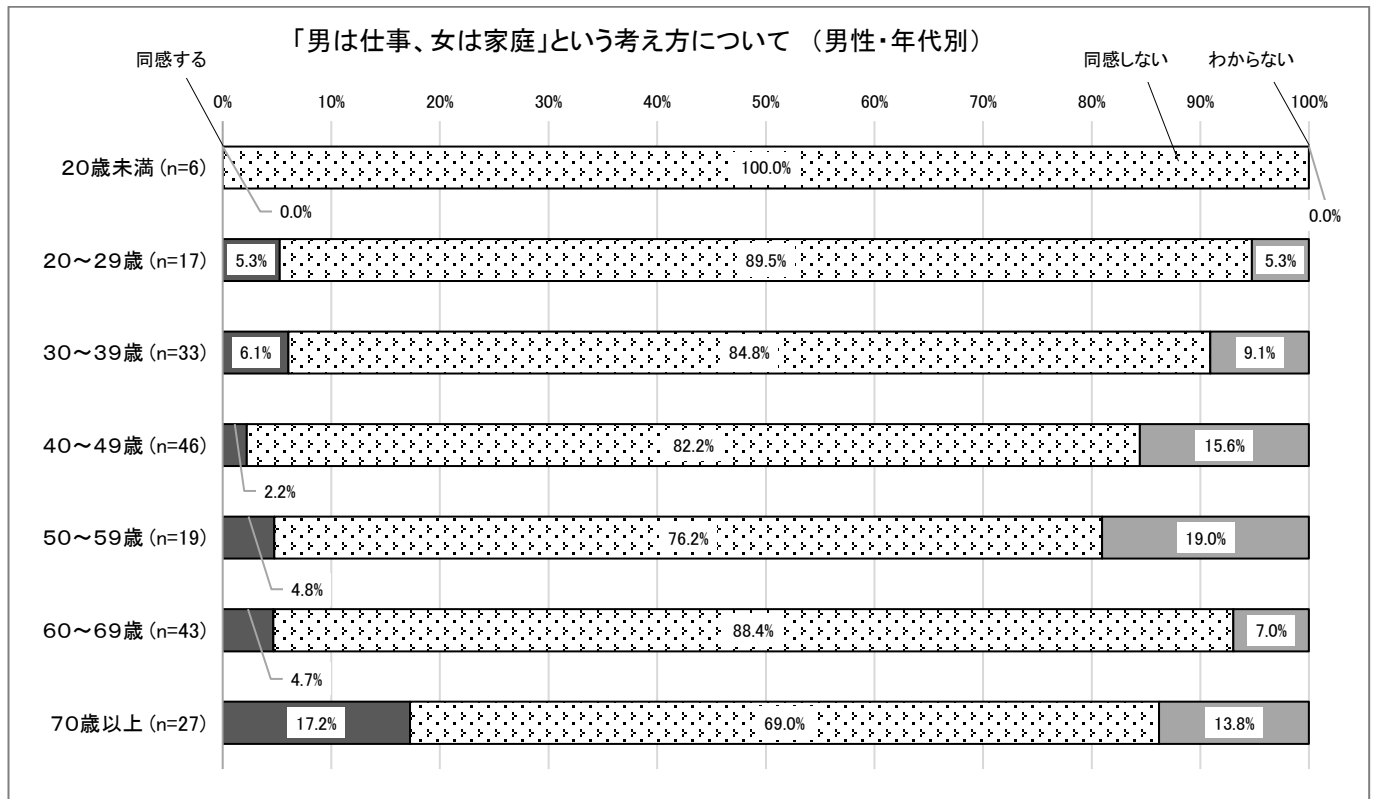
性別でみると、「同感しない」は女性（83.5%）が男性（77.8%）を5.7ポイント上回っており、「同感する」は男性（7.2%）が女性（4.1%）を3.1ポイント上回っている。



<性年代別>

性年代別でみると、全ての年代で、「同感しない」が「同感する」を上回っている。

「同感する」と回答した人の割合について、20歳未満は男女ともに0%であったが、70歳以上は男性17.2%、女性14.8%と全年代の中で最も割合が高くなっている。



【問】 家庭での役割について、あなたの家庭では現状として、男女でどのように分担していますか。

【問】 家庭での役割について、あなたの希望としては、男女でどのように分担したいと思いますか。

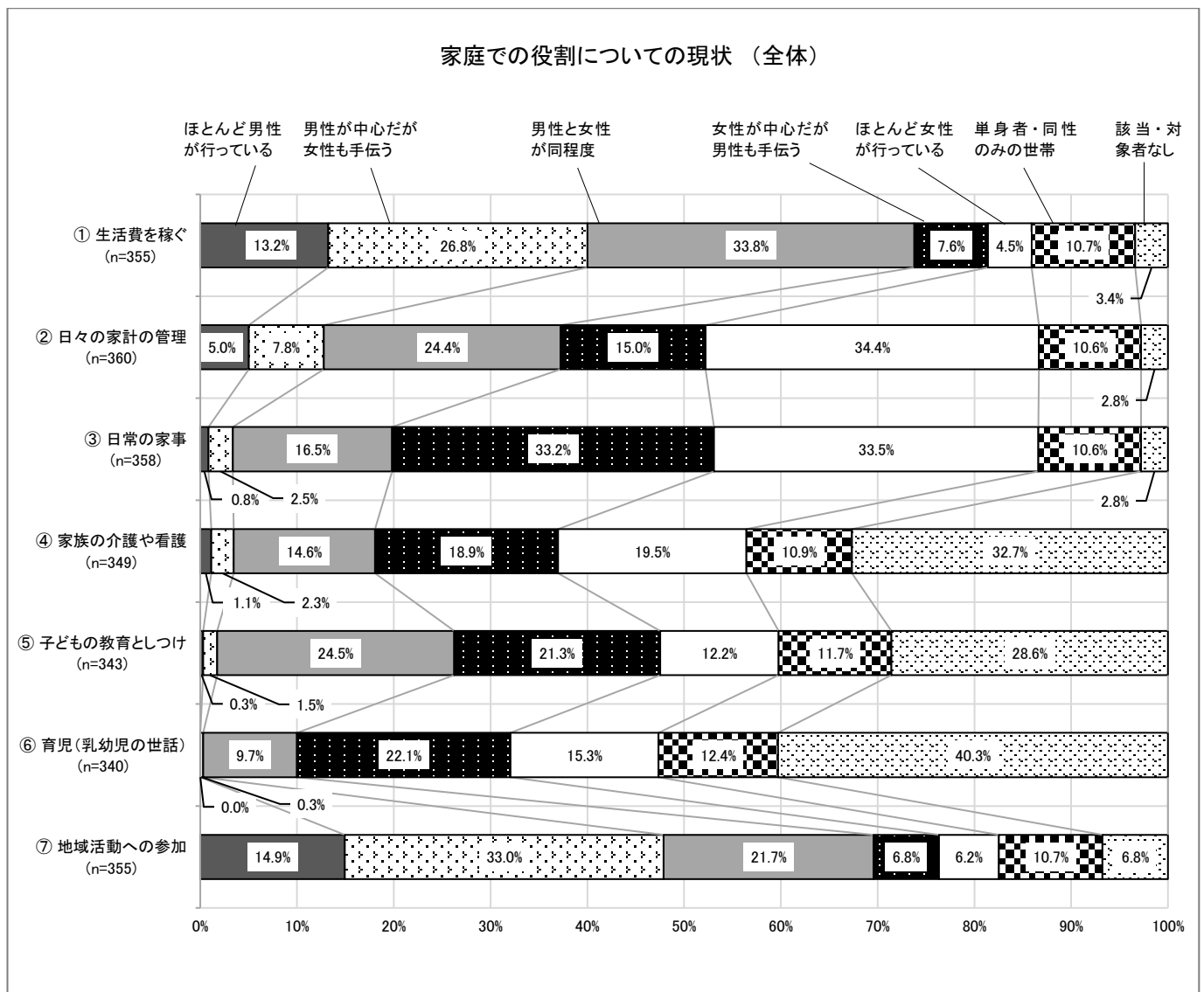
(①～⑦でそれぞれ1つだけ選択)

◆現状において、「地域活動への参加」については主に男性が行っており、「日常の家事」については主に女性が行っている。

「地域活動への参加」の現状においては、『主に男性』（「ほとんど男性が行っている」+「男性が中心だが女性も手伝う」の計）と感じている人が5割弱、『主に女性』（「ほとんど女性が行っている」+「女性が中心だが男性も手伝う」の計）は1割強となっている。

「日常の家事」の現状においては、『主に女性』と感じている人が6割半ばとなっており、『主に男性』の1割未満を大きく上回っている。また、「日々の家計の管理」についても、『主に女性』が5割、『主に男性』の1割強となっている。このほか、「育児（乳幼児の世話）」、「子どもの教育やしつけ」、「家族の介護や看護」についても、『主に女性』と感じている人の割合が3割台（それぞれ37.4%、33.5%、38.4%）となっており、『主に男性』の割合（それぞれ0.3%、1.8%、3.4%）を上回っている。

「生活費を稼ぐ」の現状においては、『主に男性』が4割、「男性と女性が同程度」が3割強となっている。



「単身者・同性のみの世帯」、「該当・対象者なし」を除いて各項目別にみていくと、次の結果となった。

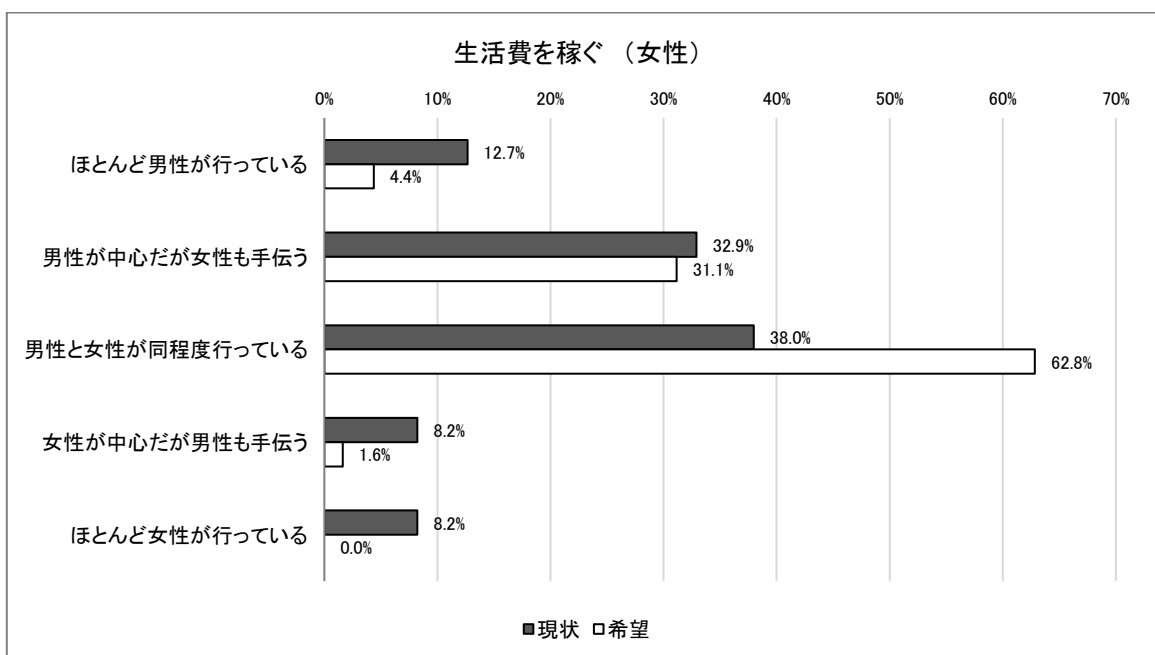
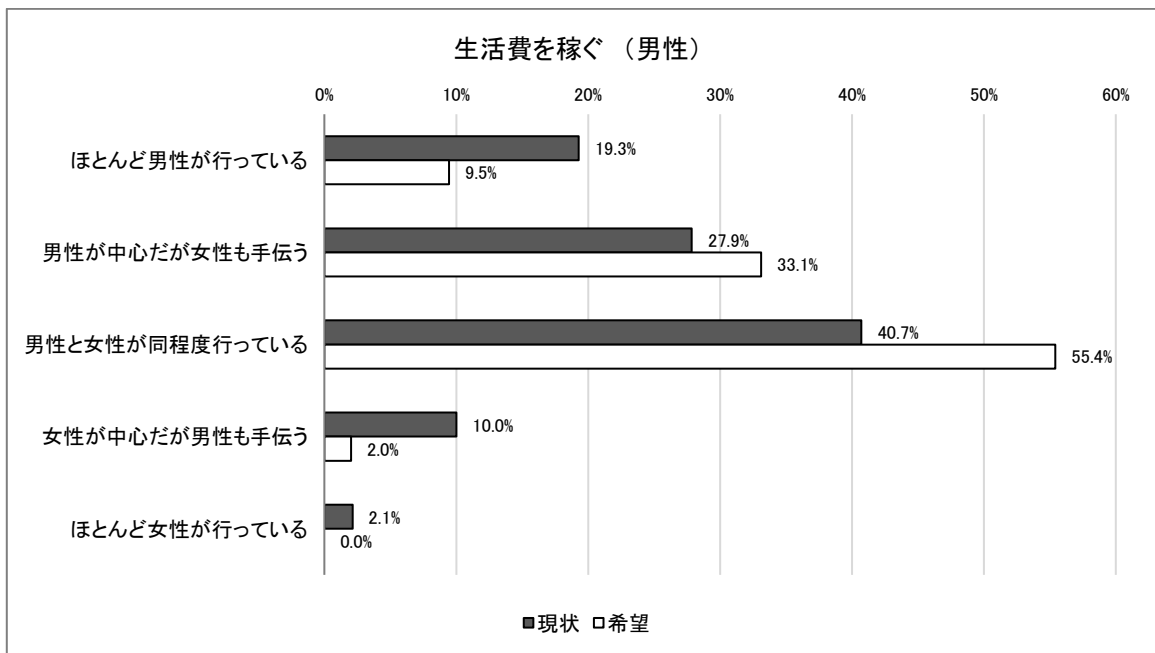
なお、現状と希望の比較において、現状の「男性と女性が同程度行っている」と、希望の「男性と女性が分担して行う」は、同等の選択肢として扱い比較・分析を行っている。

① 生活費を稼ぐ

<性別>

現状においては、『主に男性』と感じている割合は、男性（47.2%）が女性（45.6%）を 1.6 ポイント上回っている。また、「男性と女性が同程度」は、男性（40.7%）が女性（38.0%）を 2.7 ポイント上回っている。

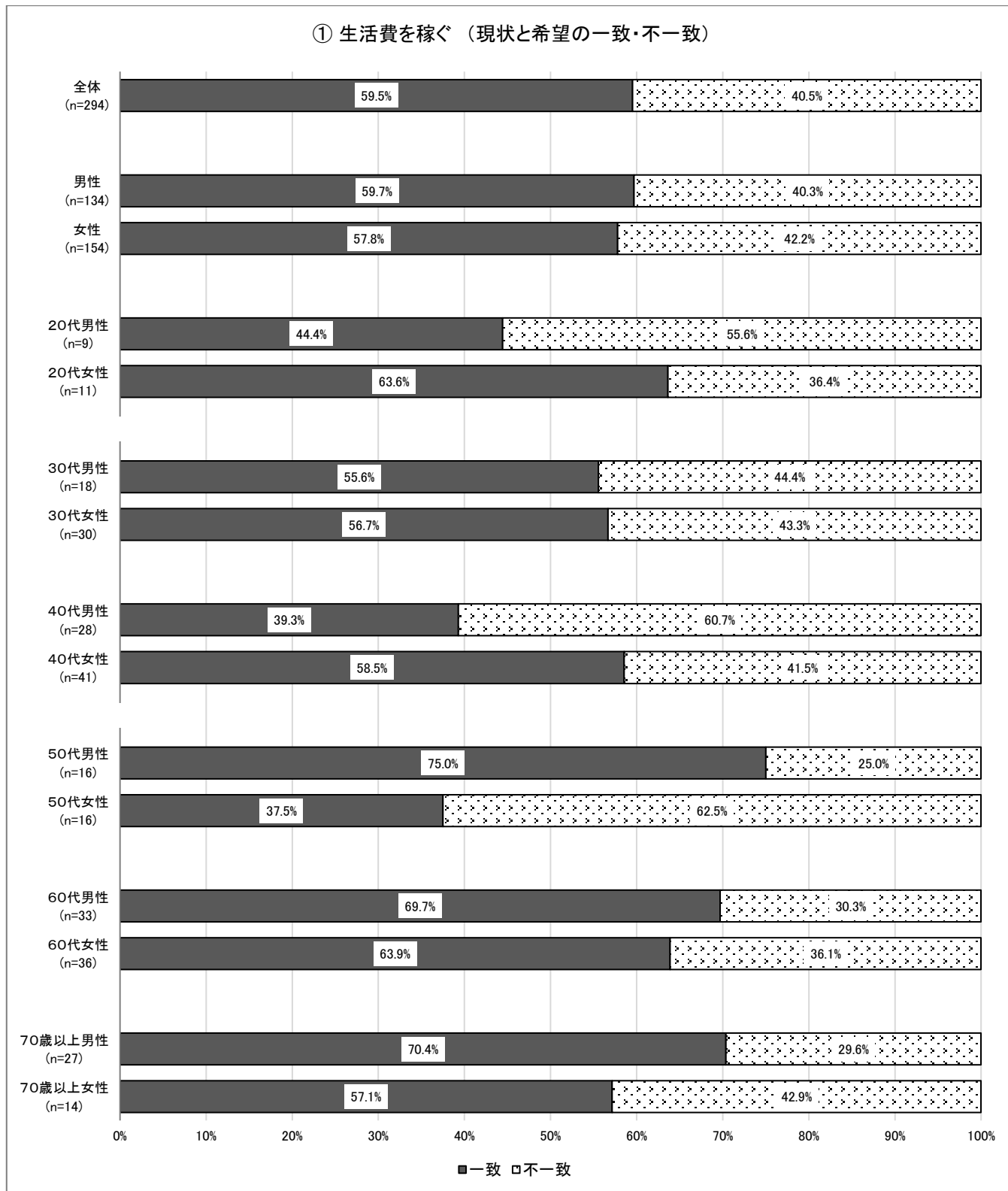
希望においては、男性では「男性と女性が同程度」が 55.4%で最も高く、次いで「男性が中心だが女性も手伝う」が 33.1%となっている。また、女性では「男性と女性が同程度」が 62.8%で最も高く、次いで「男性が中心だが女性も手伝う」が 31.1%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「生活費を稼ぐ」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では一致（59.5%）が不一致（40.5%）を上回っている。

性年代別でも、20代と40代男性、50代女性を除いて、現状と希望が一致している割合は5割を超えている。

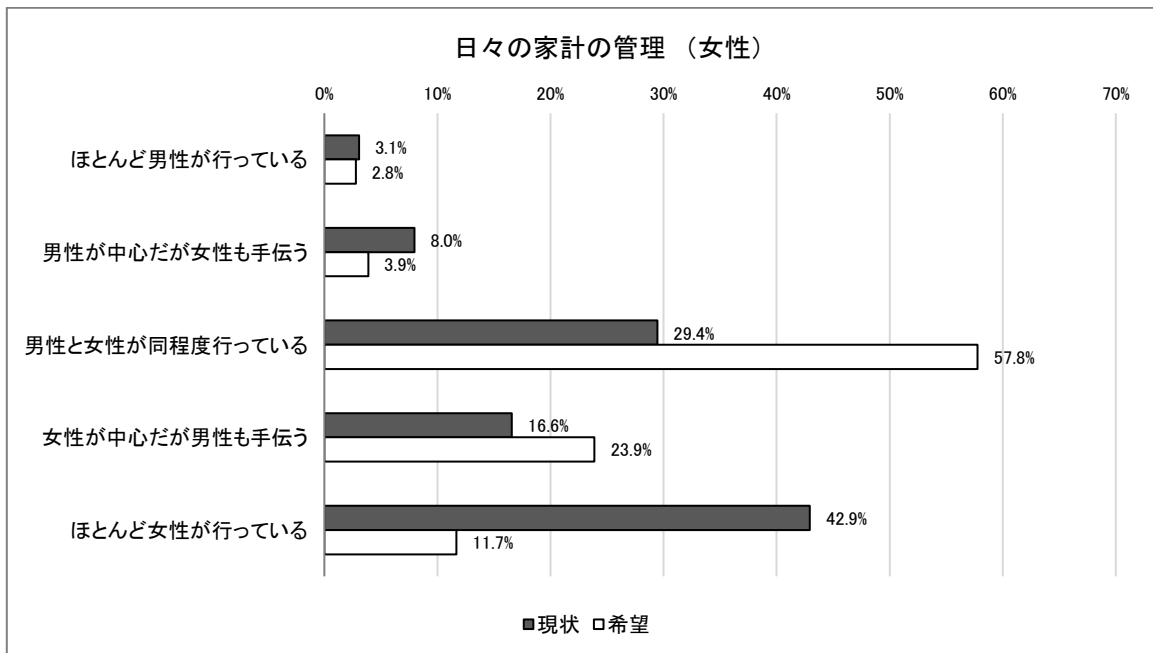
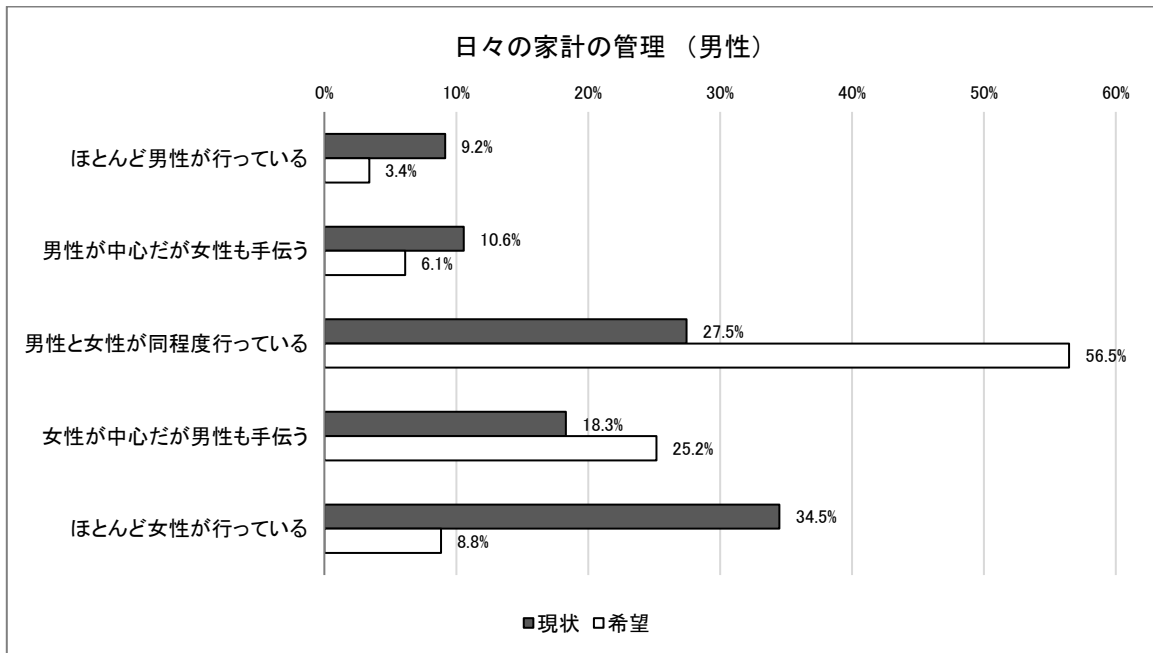


② 日々の家計の管理

<性別>

現状においては、『主に女性』と感じている割合は、女性（59.5%）が男性（52.8%）を 6.7 ポイント上回っているが、男女ともに 5 割を超え『主に女性』と感じている割合が高い。

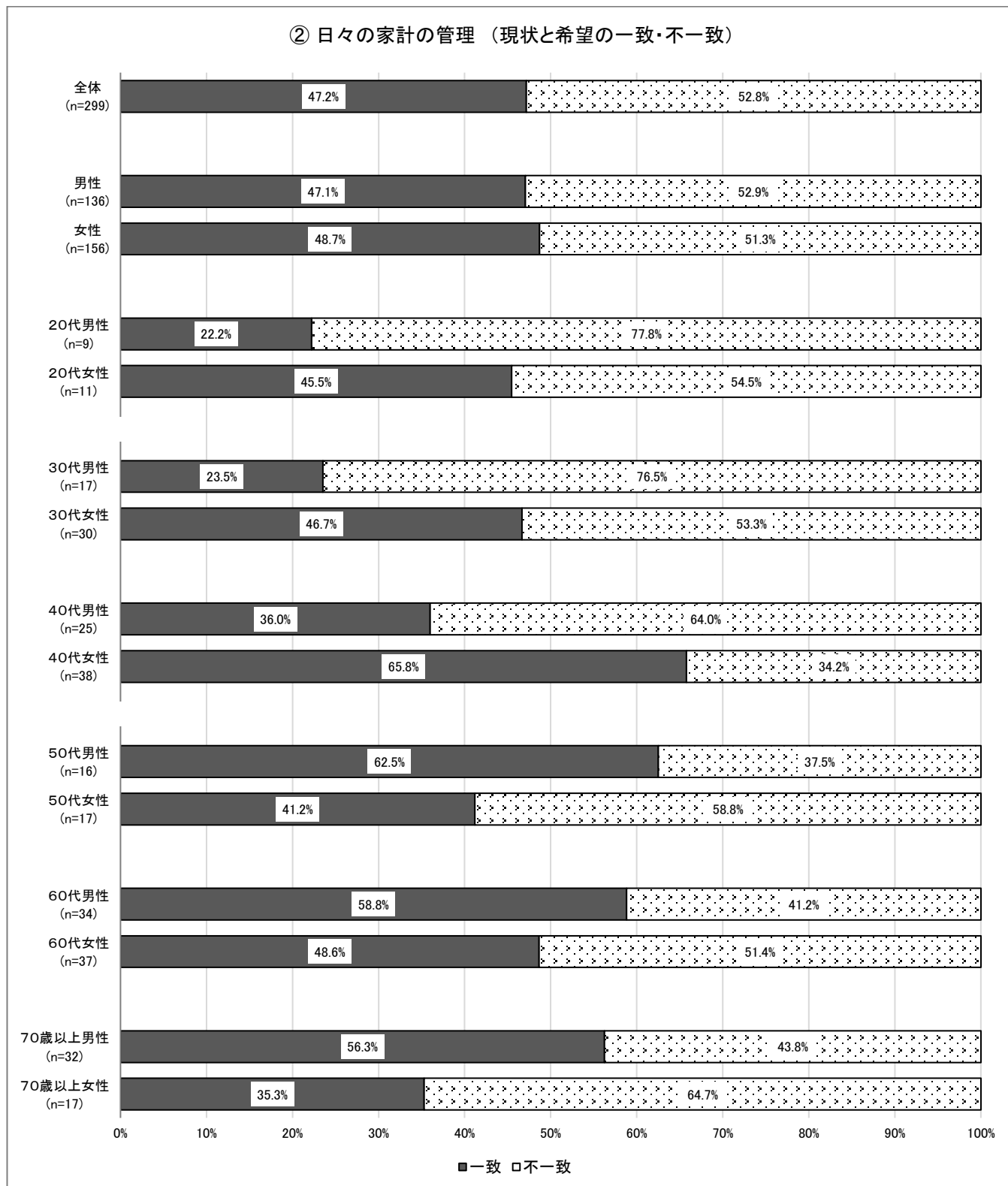
希望においては、女性では「男性と女性が同程度」が 57.8%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 23.9%となっている。また、男性では「男性と女性が同程度」が 56.5%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 25.2%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「日々の家計の管理」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では不一致（52.8%）が一致（47.2%）を上回っている。

性年代別で見ると、現状と希望が一致している割合は、男性では50代（62.5%）が高く、20代（22.2%）と30代（23.5%）が特に低くなっている。また、女性では40代（68.5%）が最も高く、70歳以上（35.3%）が低くなっている。

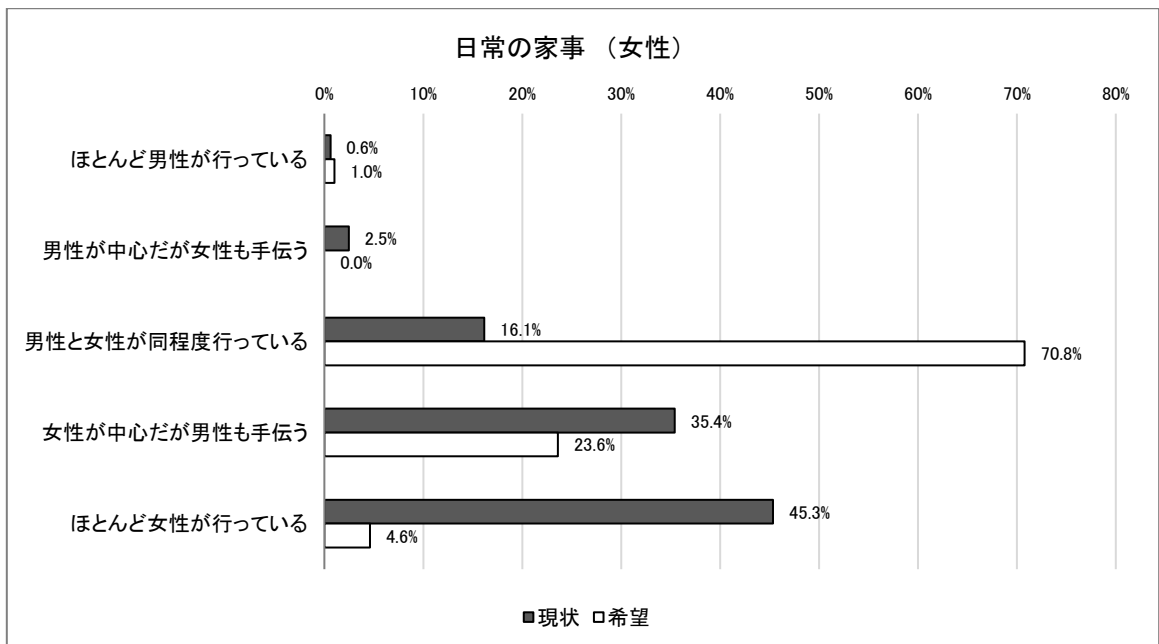
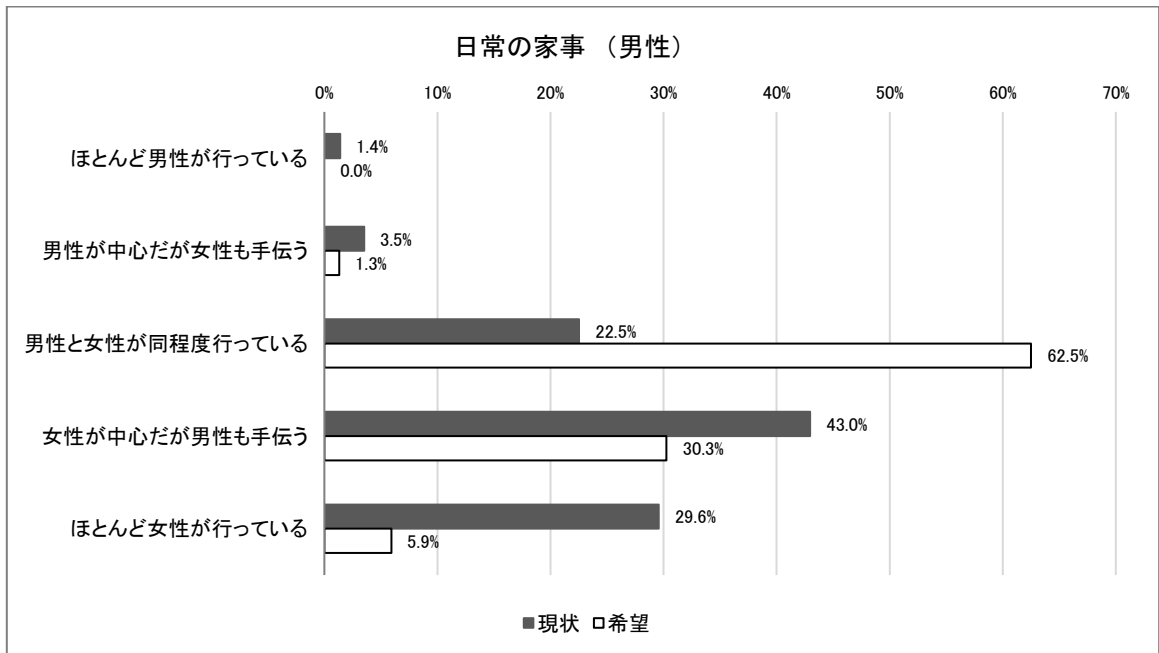


③ 日常の家事

<性別>

現状においては、『主に女性』と感じている割合は、女性（80.7%）が男性（72.6%）を 8.1 ポイント上回っていて、男女ともに『主に女性』と感じている割合が高い。

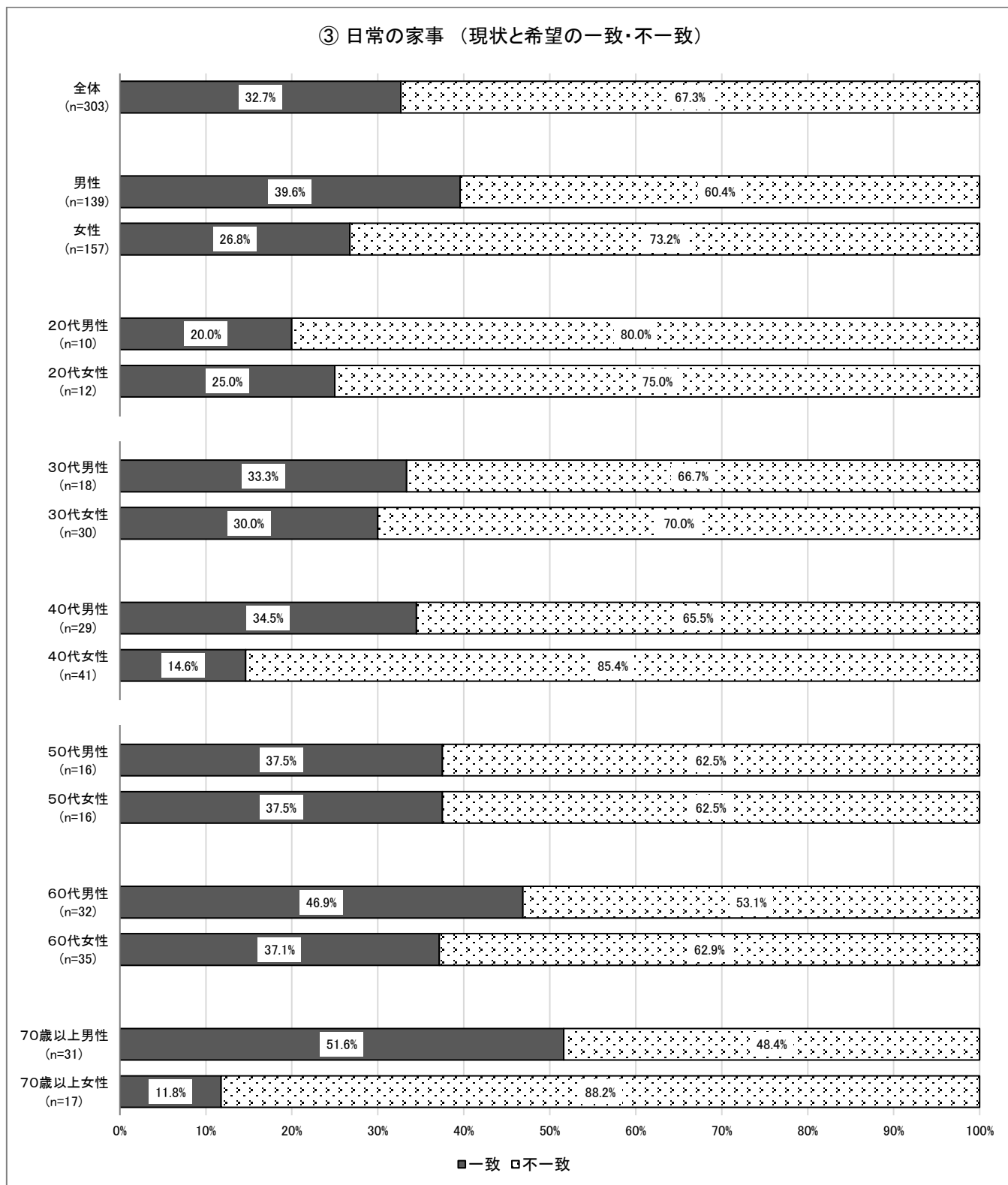
希望においては、女性では「男性と女性が同程度」が 70.8%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 23.6%となっている。また、男性では「男性と女性が同程度」が 62.5%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 30.3%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「日常の家事」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では不一致（67.3%）が一致（32.7%）を大きく上回っている。

性年代別でも、70歳以上男性を除き、現状と希望が不一致である割合は5割を超えている。

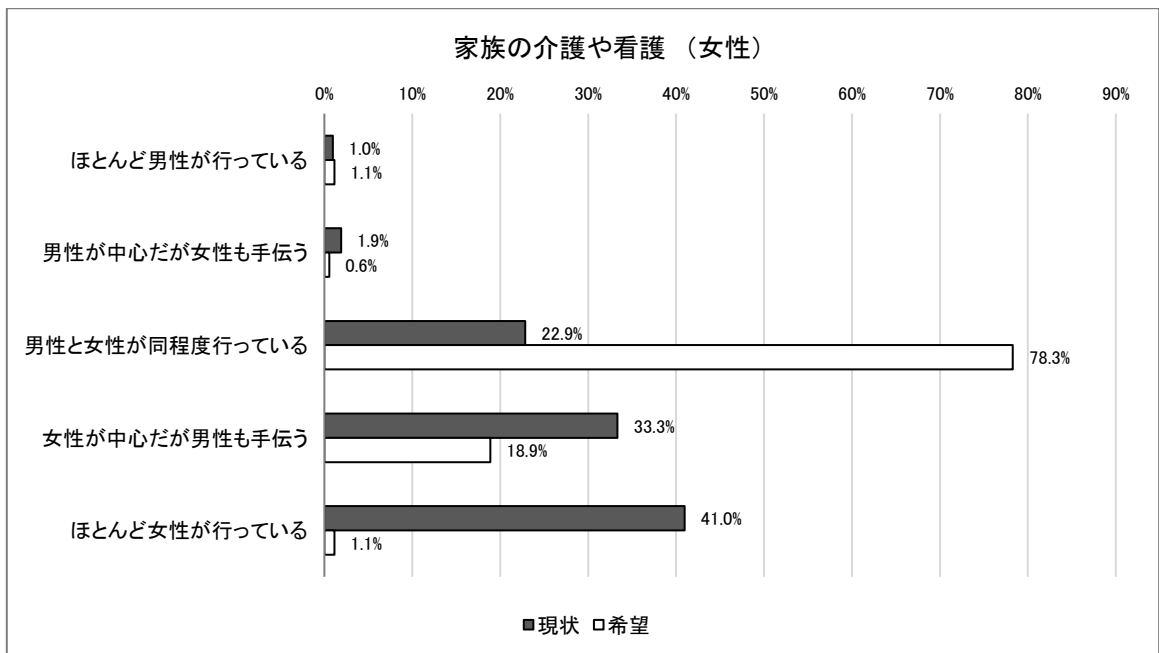
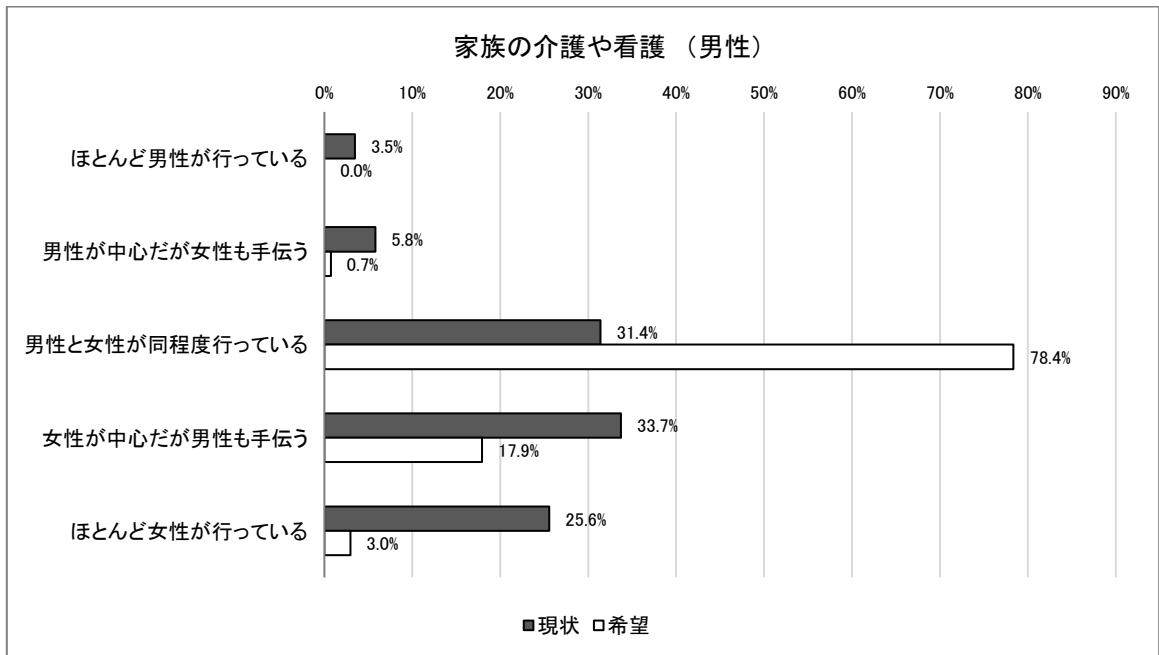


④ 家族の介護や看護

<性別>

現状においては、『主に女性』と感じている割合は、女性（74.3%）が男性（59.3%）を 15.0 ポイント上回っている。また、「男性と女性が同程度」は、男性（31.4%）が女性（22.9%）を 8.5 ポイント上回っている。

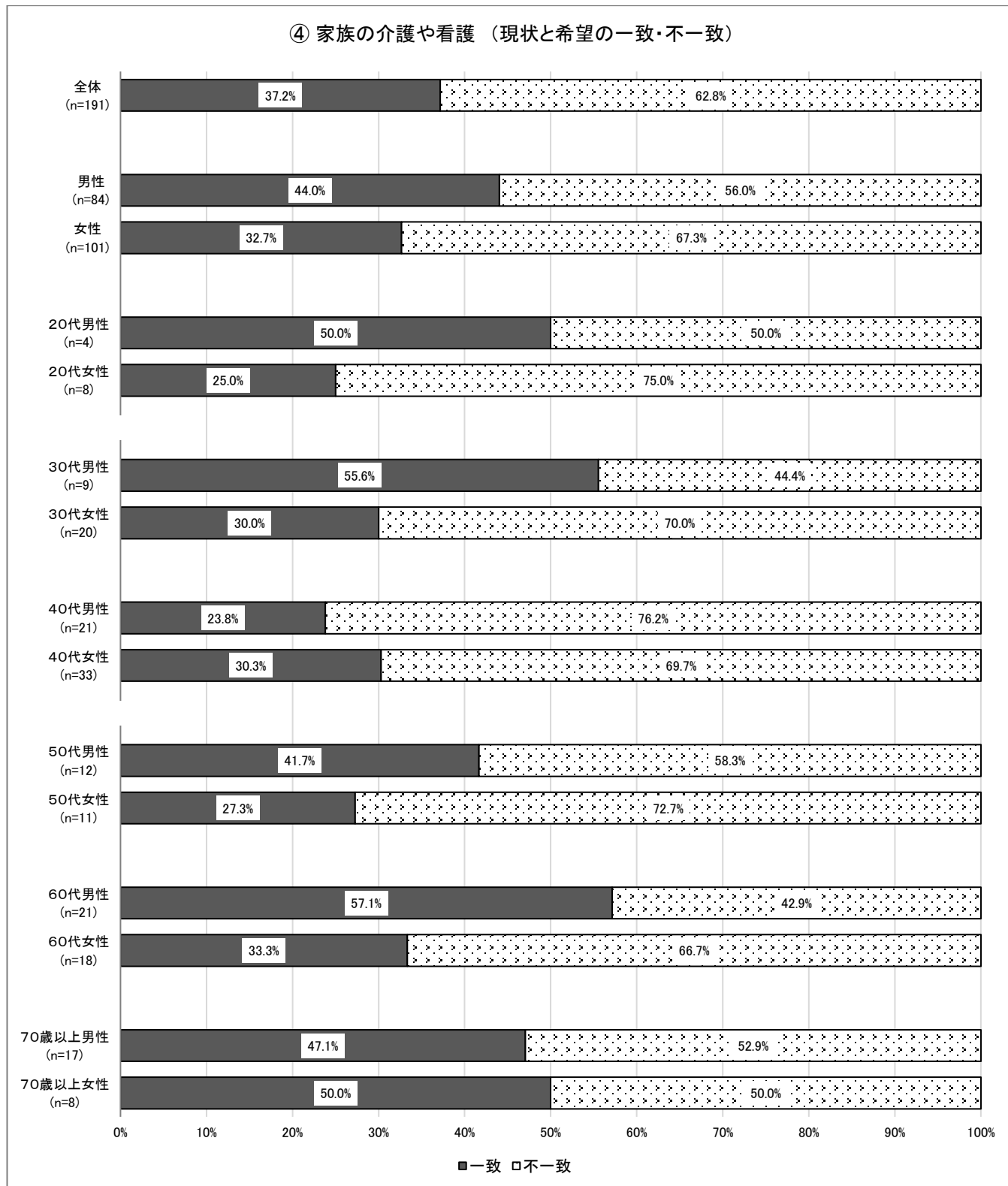
希望においては、女性では「男性と女性が同程度」が 78.3%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 18.9%となっている。また、男性では「男性と女性が同程度」が 78.4%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 17.9%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「家族の介護や看護」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では不一致（62.8%）が一致（37.2%）を大きく上回っている。

性年代別で見ると、現状と希望が不一致である割合は、男性では30代と60代を除いて5割以上となっており、女性では70代が5割、その他の年代は6割を超えている。

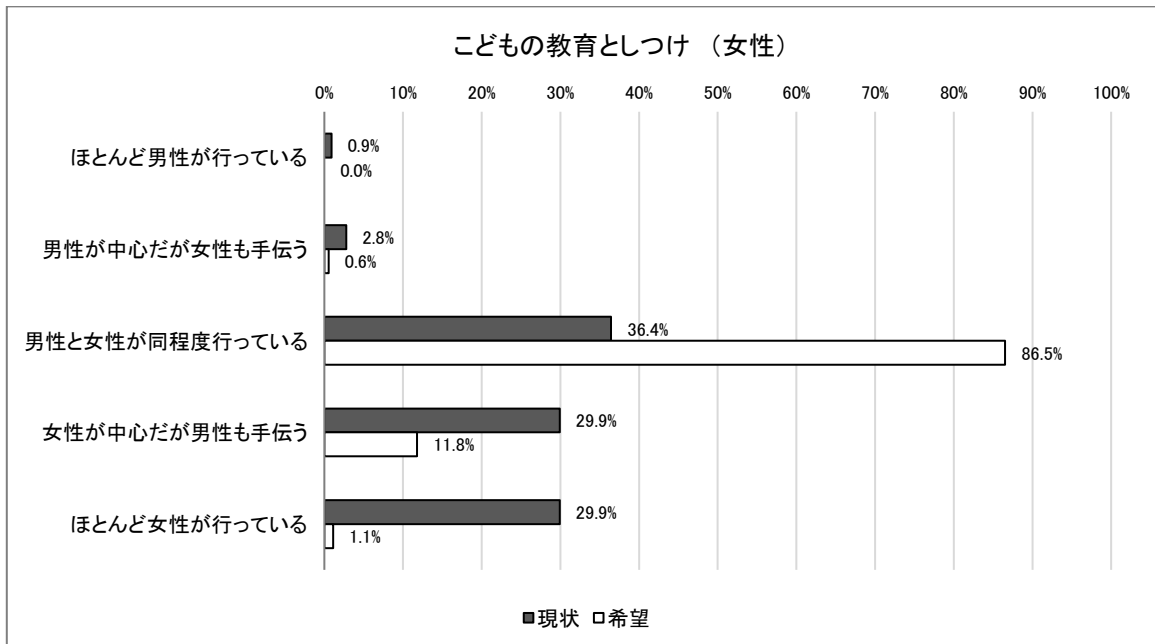
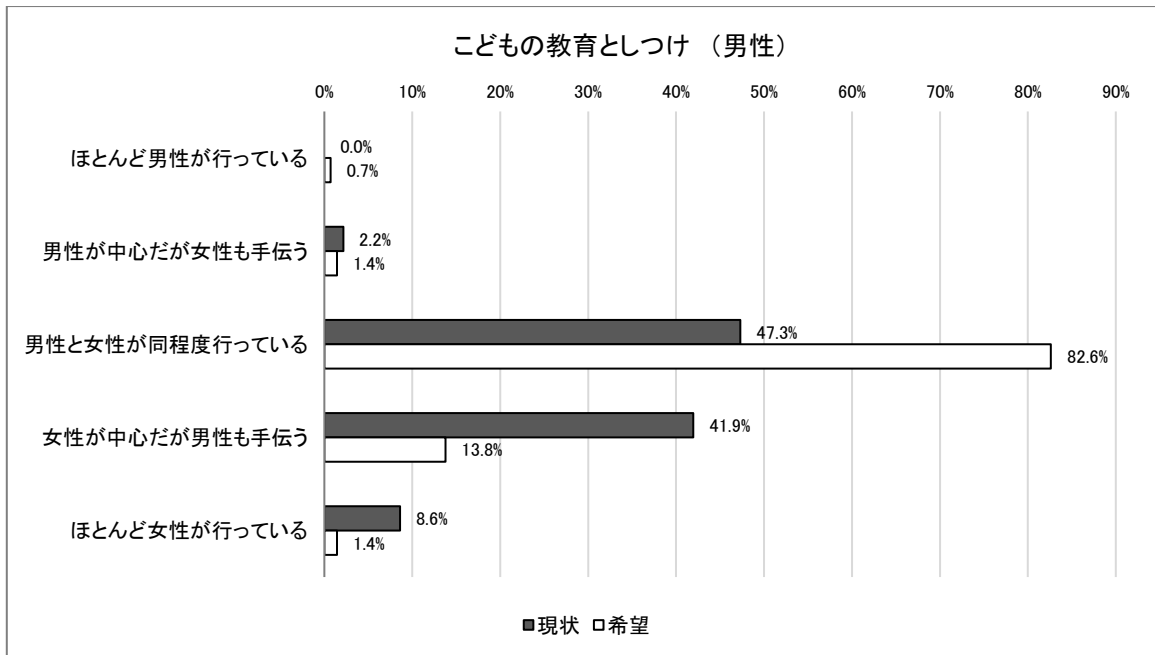


⑤ 子どもの教育としつけ

<性別>

現状においては、『主に女性』と感じている割合は、女性（59.8%）が男性（50.5%）を 9.3 ポイント上回っている。また、「男性と女性が同程度」は、男性（47.3%）が女性（36.4%）を 10.9 ポイント上回っている。

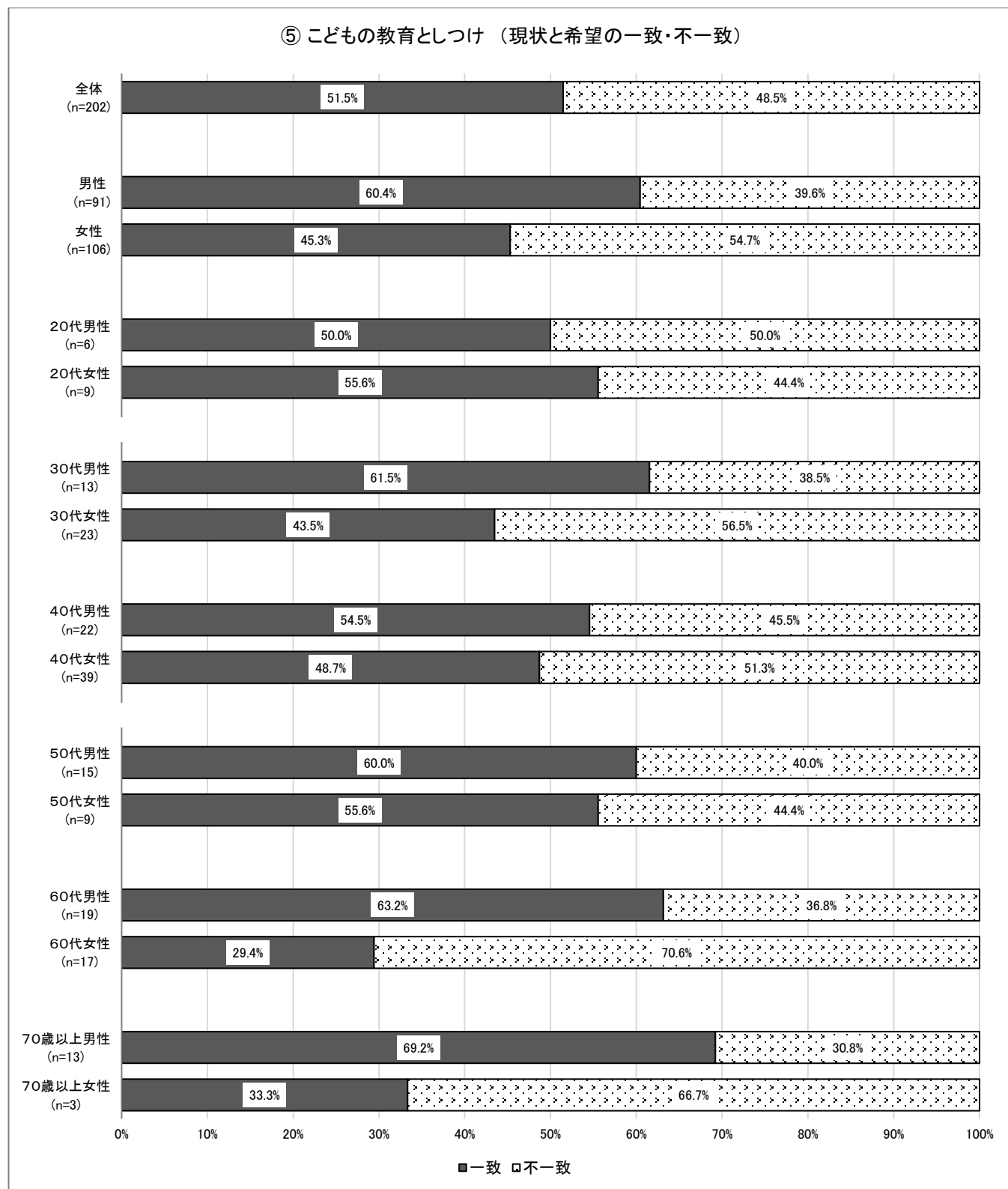
希望においては、女性では「男性と女性が同程度」が 86.5%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 11.8%となっている。また、男性では「男性と女性が同程度行っている」が 82.6%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 13.8%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「子どもの教育としつけ」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では一致（51.5%）が不一致（48.5%）をやや上回っている。

性年代別で見ると、男性は全ての年代で現状と希望が一致している割合が5割以上となっているが、女性は30代と40代、60代以上の年代で現状と希望が不一致である割合が5割を超えている。

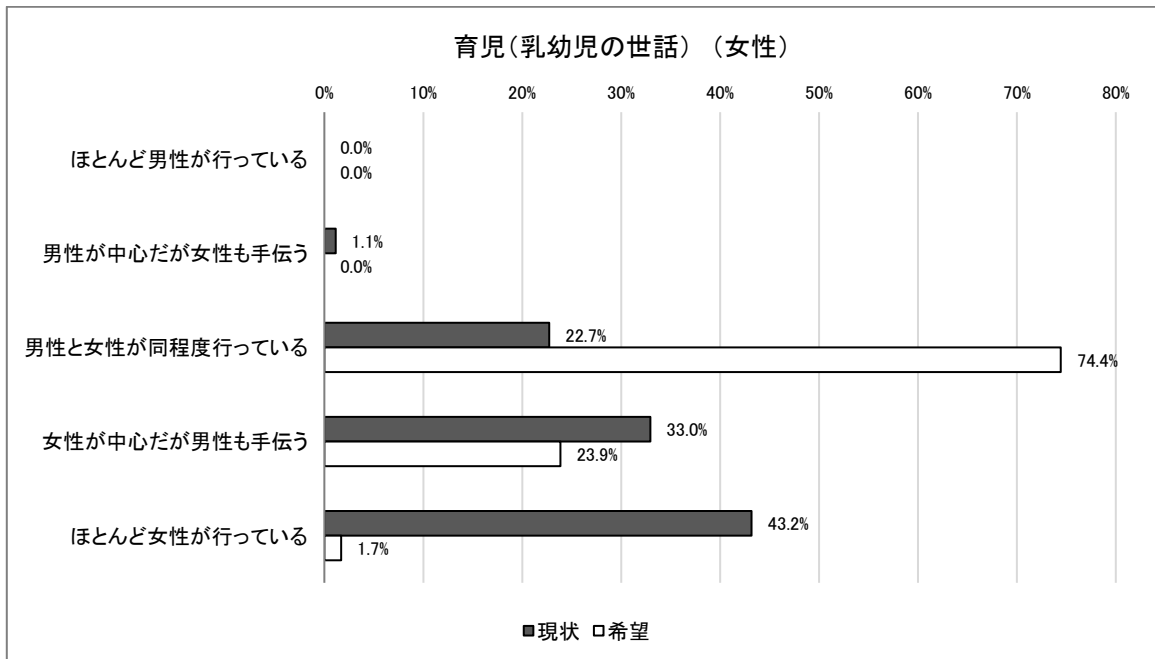
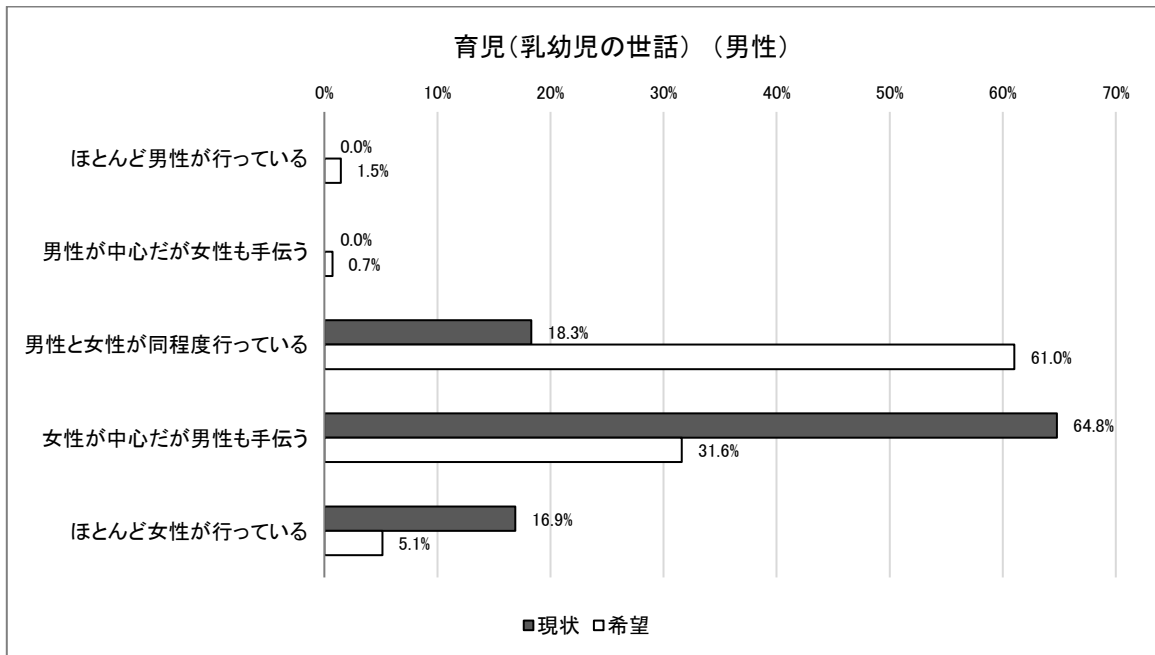


⑥ 育児（乳幼児の世話）

<性別>

現状においては、『主に女性』と感じている割合は、男性（81.7%）が女性（76.2%）を 5.5 ポイント上回っている。また、「男性と女性が同程度」は、女性（22.7%）が男性（18.3%）を 4.4 ポイント上回っている。

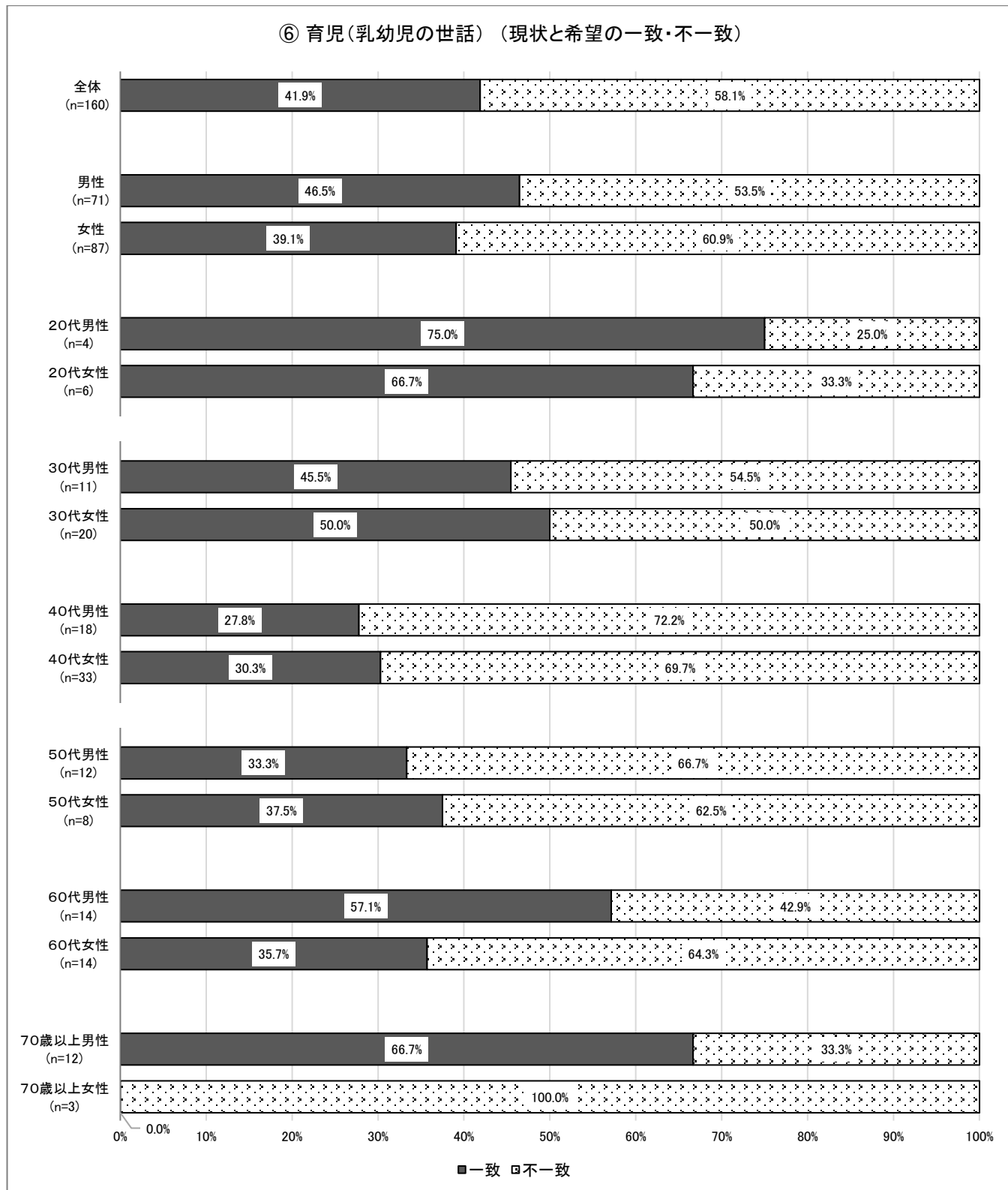
希望においては、女性では「男性と女性が同程度」が 74.4%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 23.9%となっている。また、男性では「男性と女性が同程度」が 61.0%で最も高く、次いで「女性が中心だが男性も手伝う」が 31.6%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「育児（乳幼児の世話）」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では不一致（58.1%）が一致（41.9%）を上回っている。

性年代別で見ると、20代と60代以上男性、また20代女性を除き、現状と希望が不一致である割合が5割以上となっている。

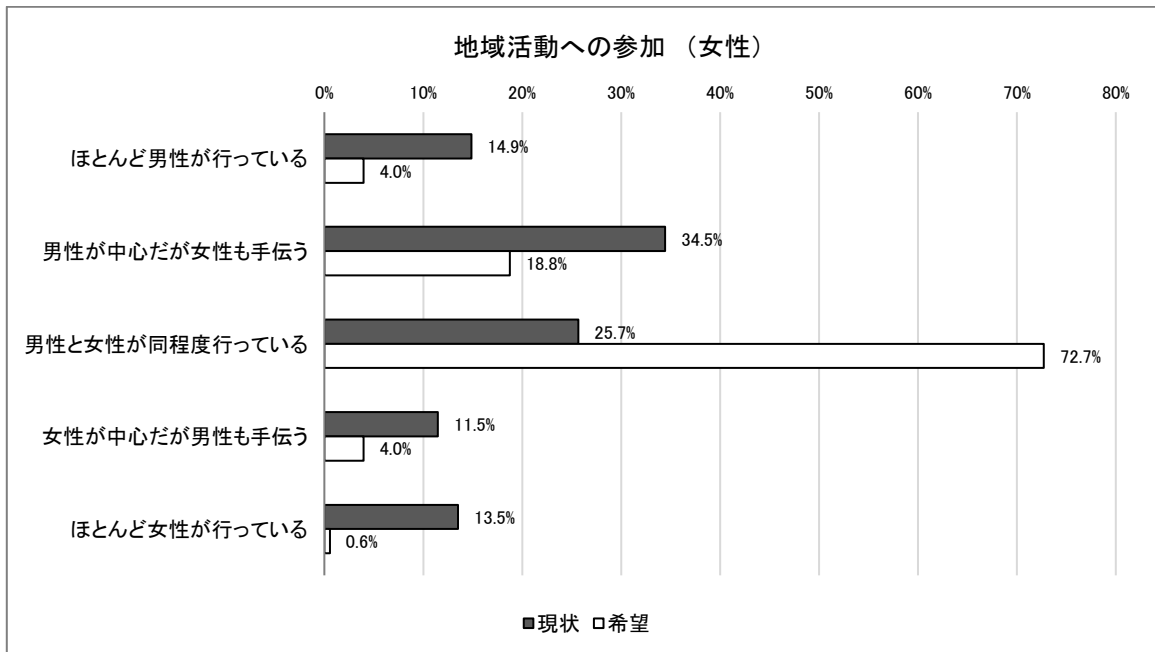
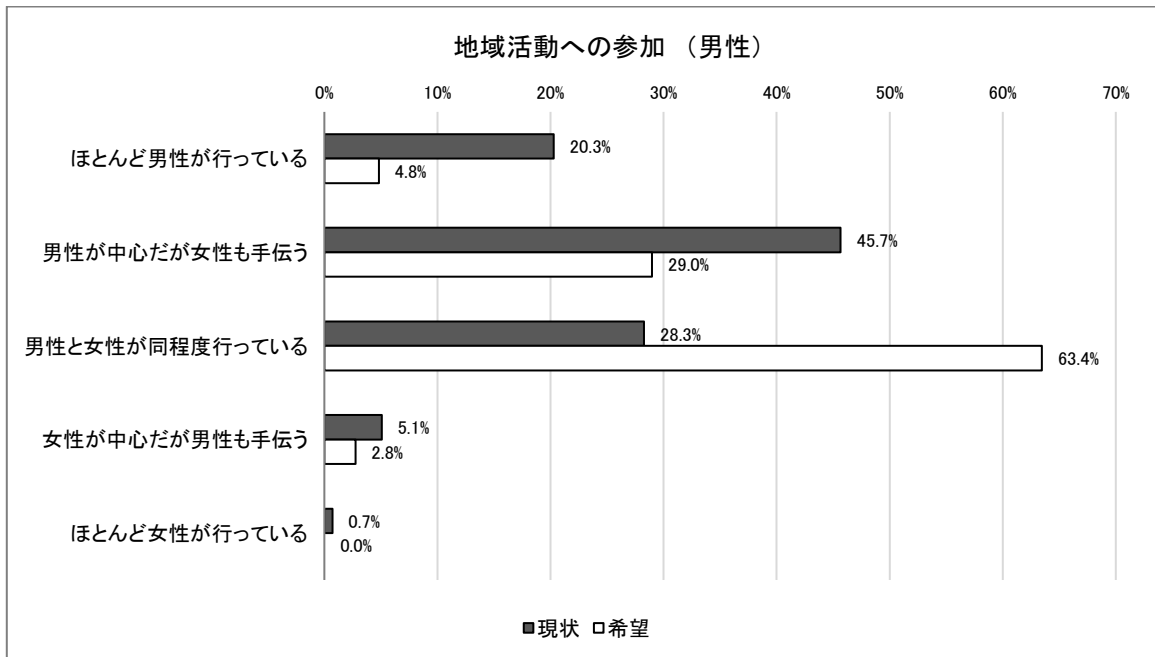


⑦ 地域活動への参加

<性別>

現状においては、『主に男性』と感じている割合は、男性（66.0%）が女性（49.4%）を 16.6 ポイント上回っている。また、「男性と女性が同程度」は、男性（28.3%）が女性（25.7%）を 2.6 ポイント上回っている。

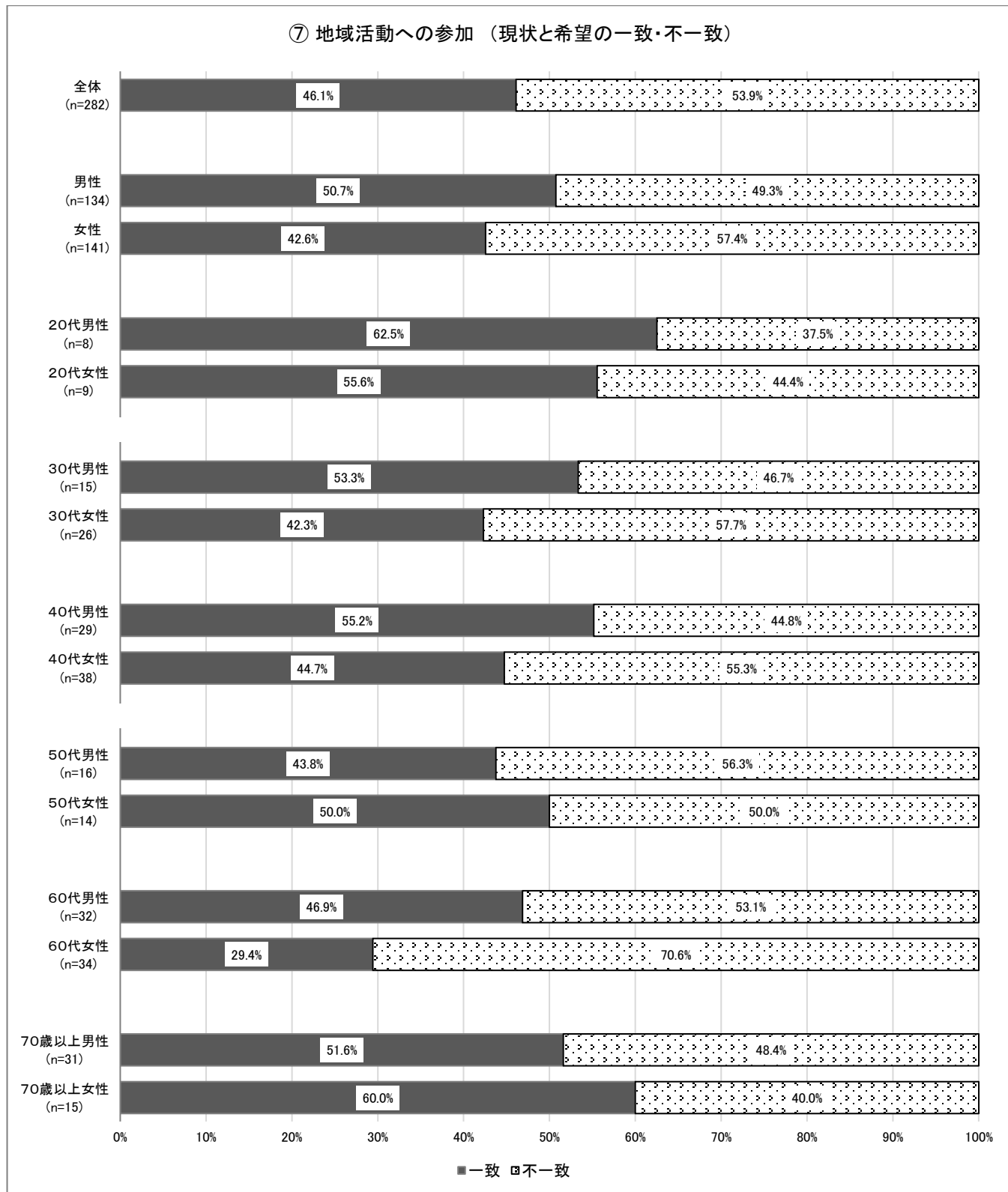
希望においては、男性では「男性と女性が同程度」が 63.4%で最も高く、次いで「男性が中心だが女性も手伝う」が 29.0%となっている。また、女性では「男性と女性が同程度」が 72.7%で最も高く、次いで「男性が中心だが女性も手伝う」が 18.8%となっており、希望においては男女ともに同じ傾向を示している。



<性年代別>

「地域活動への参加」において、回答者個人ごとの現状と希望の一致状況をみると、全体では不一致（53.9%）が一致（46.1%）を上回っている。

性別・年代別にみると、現状と希望が不一致である割合は、男性では50代と60代が5割を超え、女性では20代と70歳以上を除く各年代で5割以上となっている。



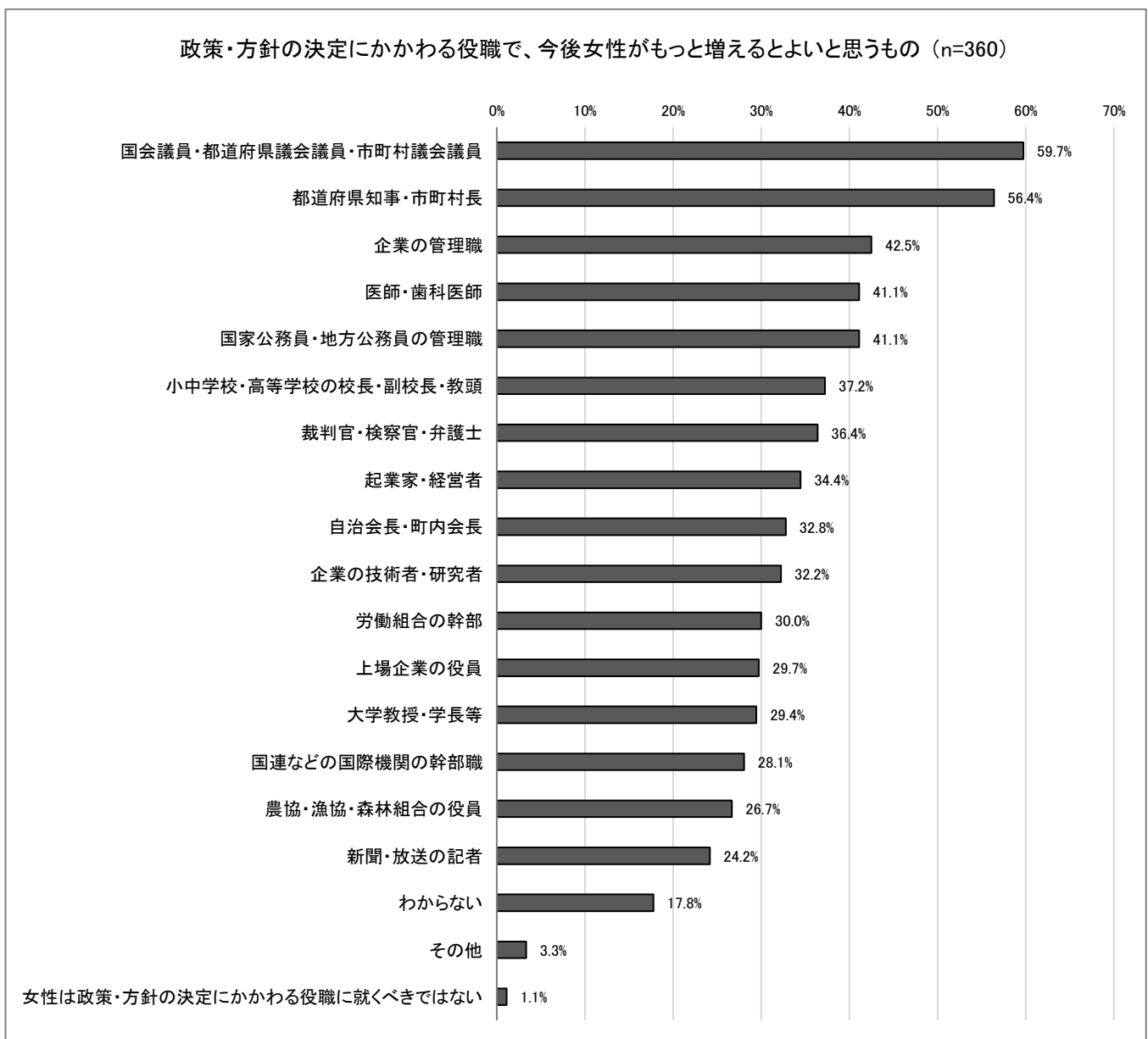
3. 男女の社会参画について

【問】 次にあげようような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増える方がよいと思うものはありますか。あなたが思うものをすべてお答えください。（選択はいくつでも）

◆「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が最も高い

政策・方針の決定にかかわる役職で今後女性がもっと増える方がよいと思う役職について、「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」が 59.7%と最も高く、次いで「都道府県知事・市町村長」（56.4%）、「企業の管理職」（42.5%）などの順となっている。

一方で、「その他（自由記述）」では、「性別にかかわらず意欲や能力のある適任者が就くべき」、「男女のフレームワークで捉えるべきではない」といった意見も複数寄せられた。

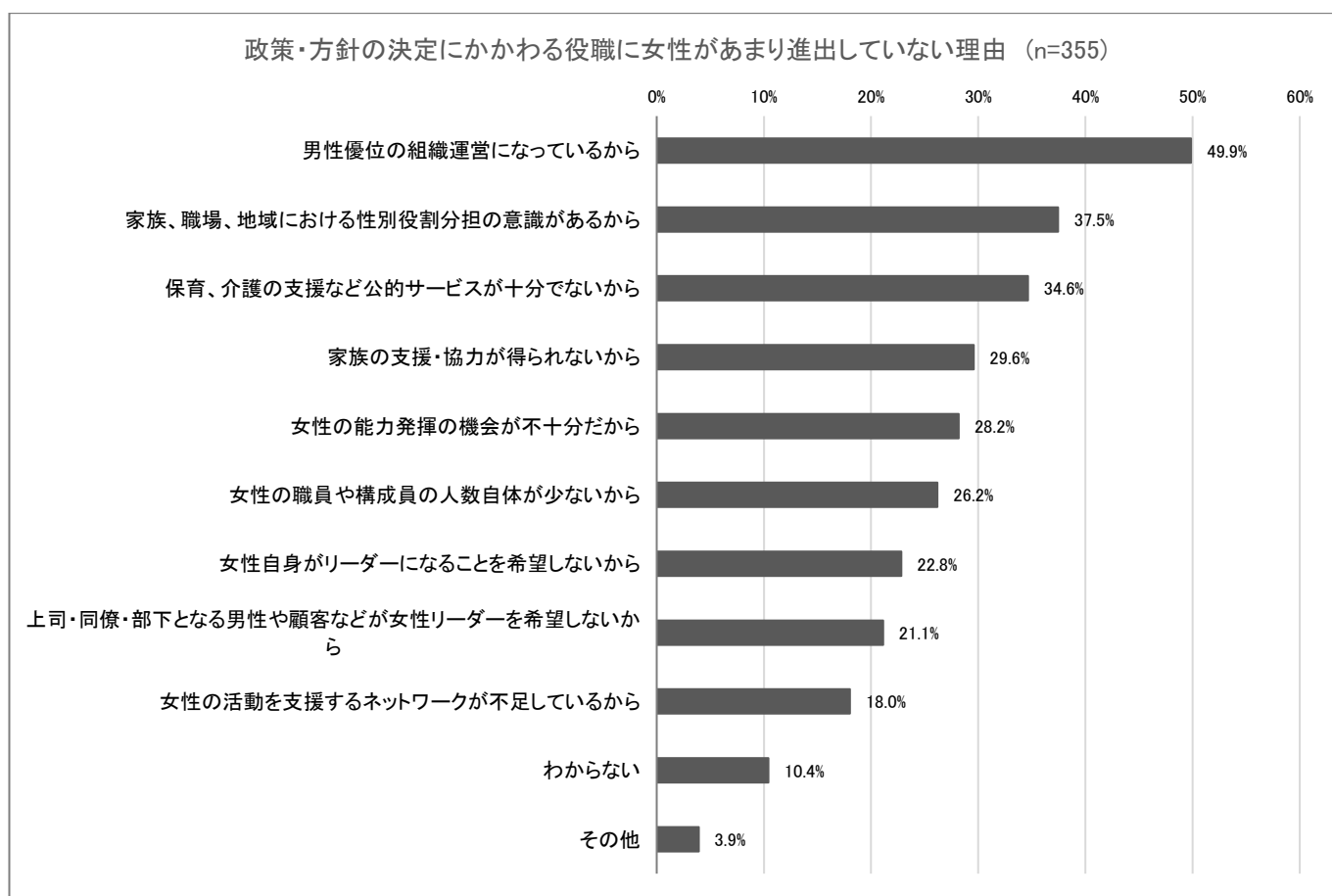


【問】 あなたは、前問にあげたような政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由は何だと思えますか。（選択はいくつでも）

◆「男性優位の組織運営になっているから」が最も高い

政策・方針の決定にかかわる役職に女性があまり進出していない理由について、「男性優位の組織運営になっているから」が49.9%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担の意識があるから」（37.5%）、「保育、介護の支援など公的サービスが十分でないから」（34.6%）などの順となっている。

「その他（自由記述）」では、「子どもが小さいと両立できる制度が整っておらず、家庭を優先せざるを得ない」といった意見も寄せられている。



【問】 あなたが、次にあげるような役職への就任や公職への立候補を依頼された場合にはどうしますか（どうしましたか）。（①～③でそれぞれ1つだけ選択）

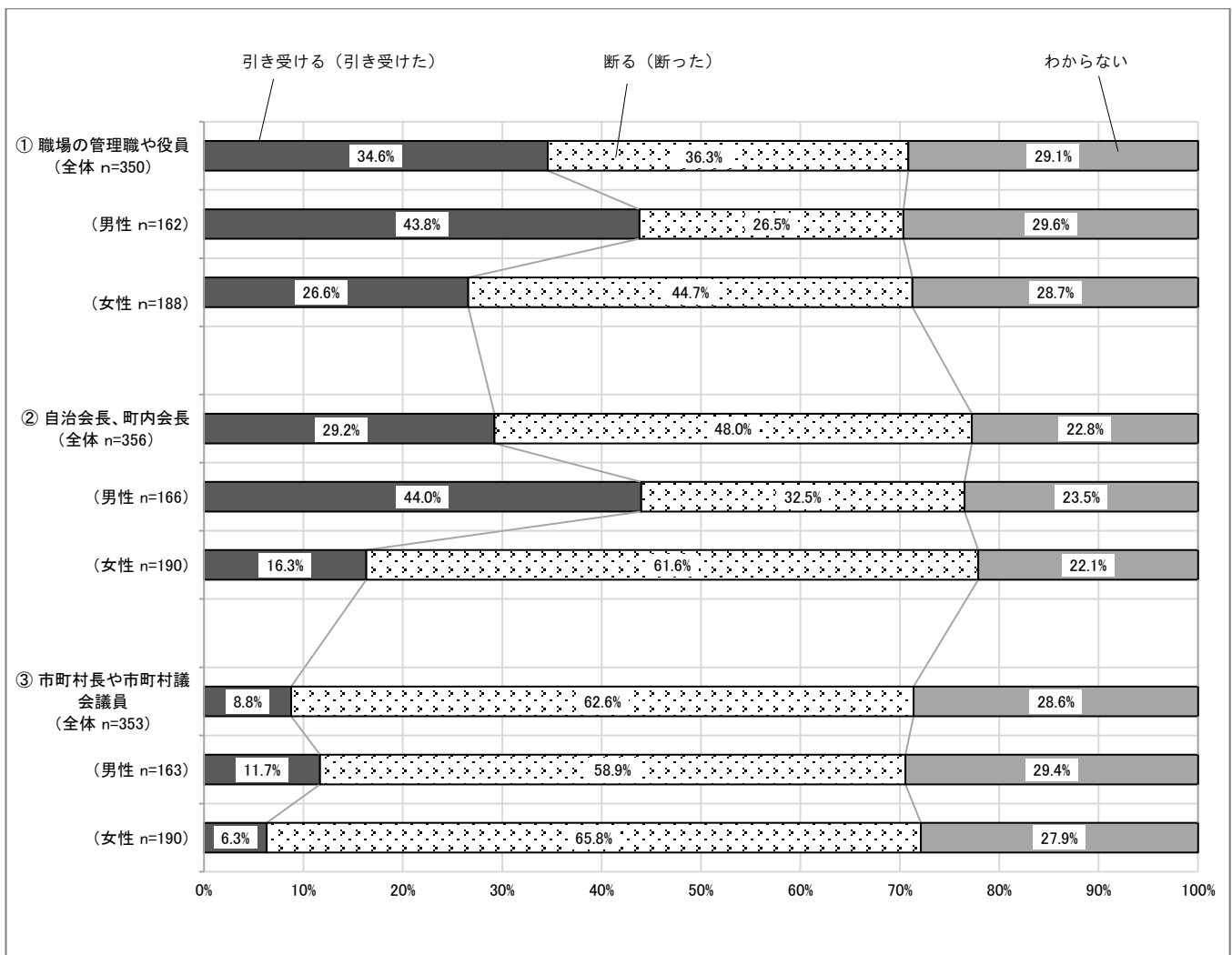
◆「職場の管理職や役員」、「自治会長、町内会長」は約 3 割が「引き受ける（引き受けた）」が、「市町村長や市町村議会議員」は 6 割が「断る（断った）」

役職への就任や公職への立候補を依頼に対する考え方について、全体では全ての役職において、「断る（断った）」の割合が「引き受ける（引き受けた）」よりも高くなっている。また、「引き受ける（引き受けた）」は、「職場の管理職や役員」では 34.6%、「自治会長、町内会長」は 29.2%となっているが、「市町村長や市町村議会議員」では 8.8%と低くなっている。

性別でみると、「職場の管理職や役員」では、「引き受ける（引き受けた）」は男性（43.8%）が女性（26.6%）より 17.2 ポイント、「断る（断った）」は女性（44.7%）が男性（26.5%）より 18.2 ポイント高くなっている。

また、「自治会長、町内会長」では、「引き受ける（引き受けた）」は男性（44.0%）が女性（16.3%）より 27.7 ポイント、「断る（断った）」は女性（61.6%）が男性（32.5%）より 29.1 ポイント高くなっている。

「市町村長や市町村議会議員」では、「引き受ける（引き受けた）」は男性（11.7%）が女性（6.3%）より 5.4 ポイント、「断る（断った）」は女性（65.8%）が男性（58.9%）より 6.9 ポイント高くなっている。

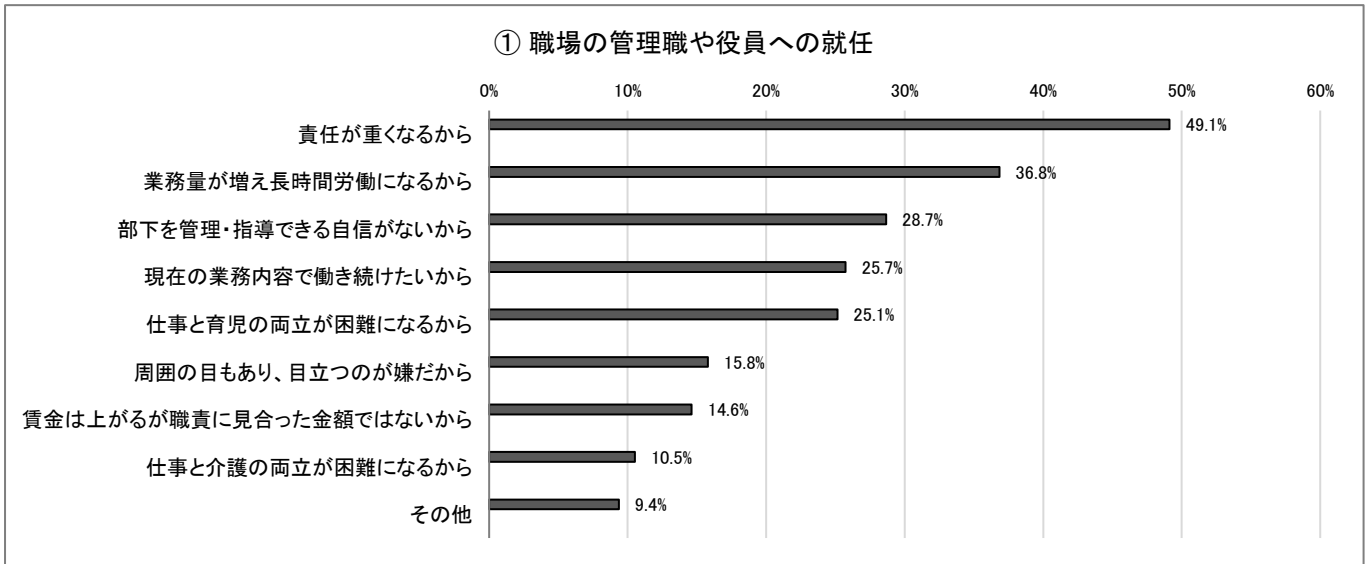


「断る（断った）」を選択した方のみ

【問】 依頼を断る（断った）理由をお答えください。（選択はいつでも）

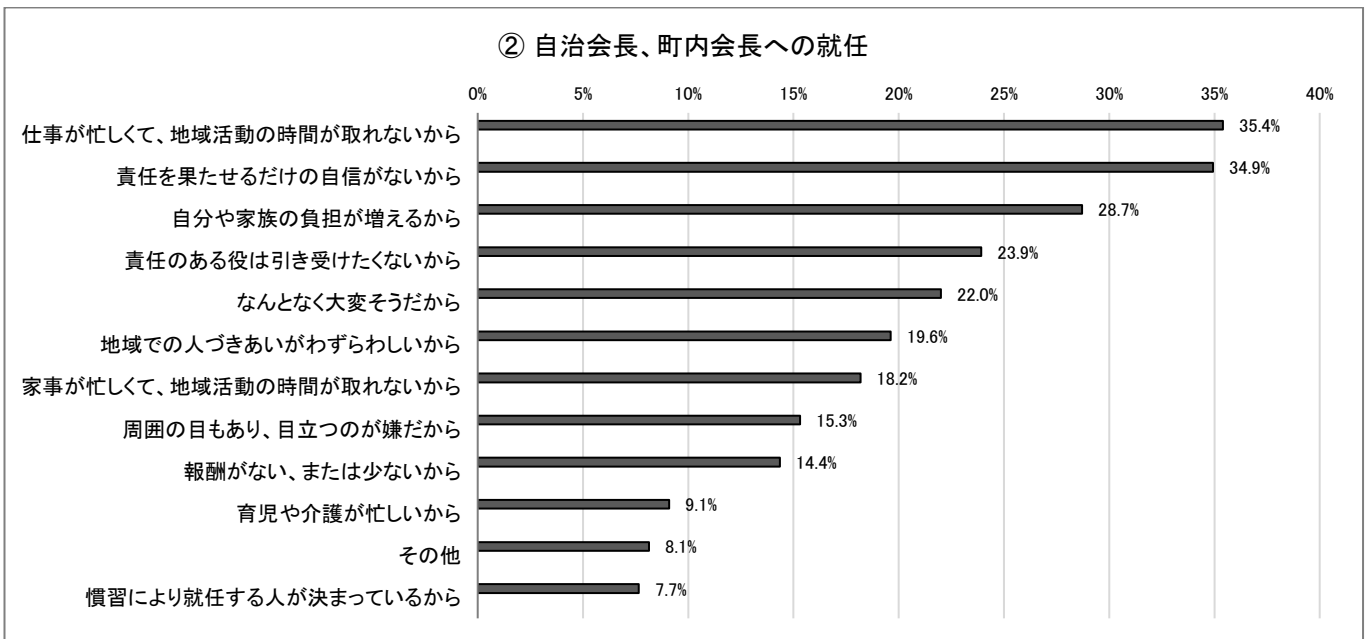
① 職場の管理職や役員への就任

職場の管理職や役員への就任を断る（断った）理由については、「責任が重くなるから」が 49.1%と最も高く、次いで「業務量が増え長時間労働になるから」（36.8%）、「部下を管理・指導できる自信がないから」（28.7%）などの順となっている。



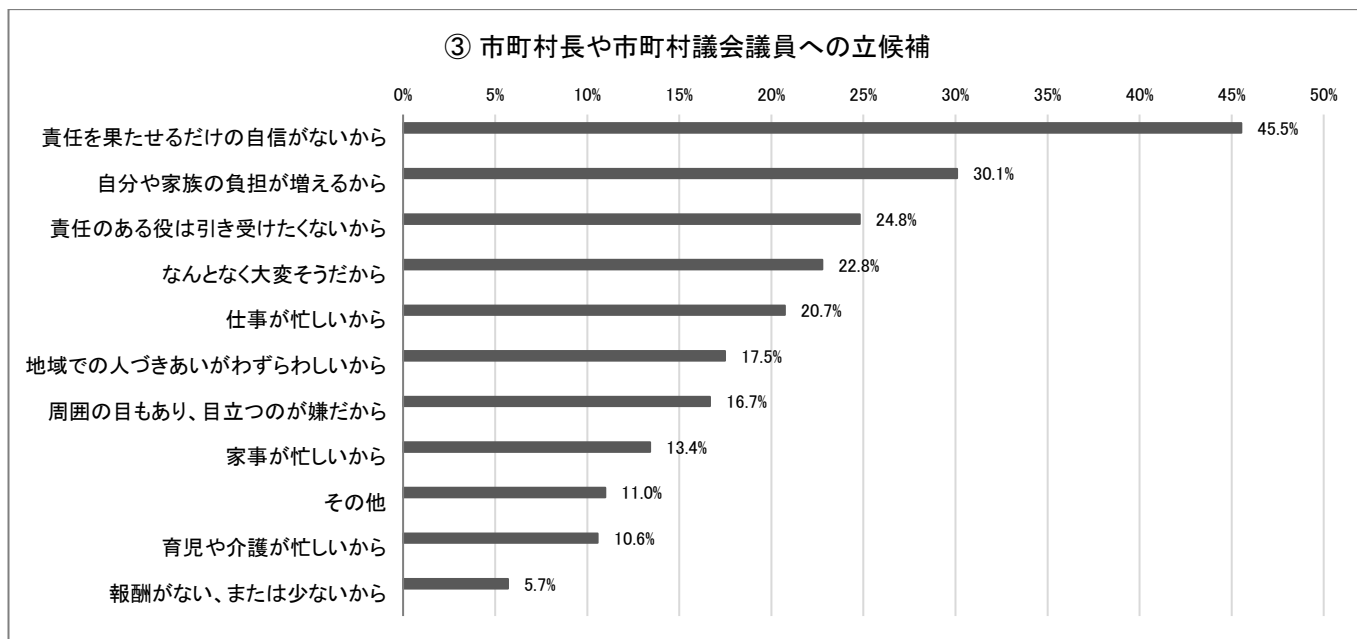
② 自治会長、町内会長への就任

自治会長、町内会長への就任を断る（断った）理由については、「仕事が忙しくて、地域活動の時間が取れないから」が 35.4%と最も高く、次いで「責任を果たせるだけの自信がないから」（34.9%）、「自分や家族の負担が増えるから」（28.7%）などの順となっている。



③ 市町村長や市町村議会議員への立候補

市町村長や市町村議会議員への立候補を断る（断った）理由については、「責任を果たせるだけの自信がないから」が 45.5%と最も高く、次いで「自分や家族の負担が増えるから」（30.1%）、「責任ある役は引き受けたくないから」（24.8%）などの順になっている。



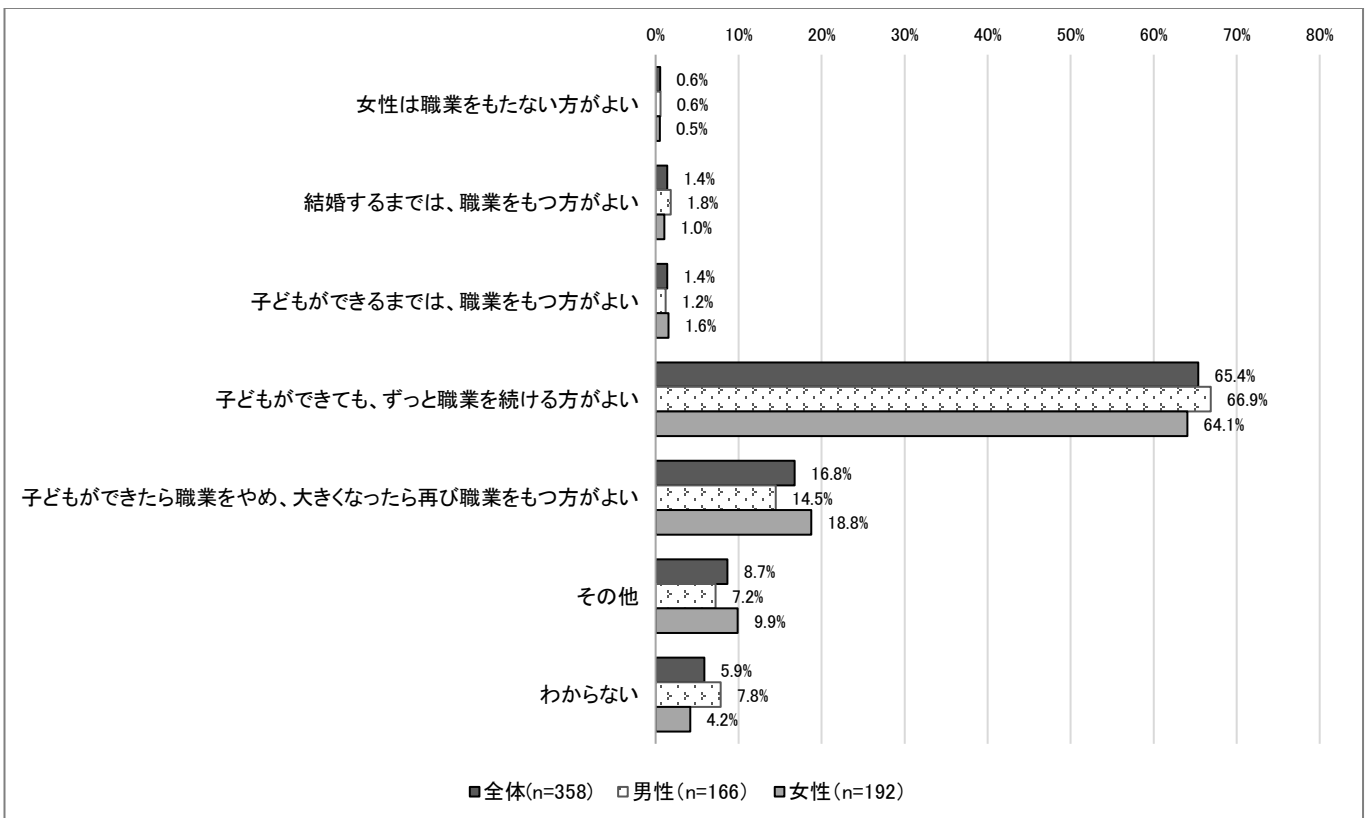
4. 就労について

【問】 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つだけ選択）

◆「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高い

女性が職業をもつことについての考え方は、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」が65.4%で最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が16.8%となっている。

性別でも、男女ともに「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答した割合が最も高く、男性66.9%、女性64.1%となっており、大きな差はみられない。

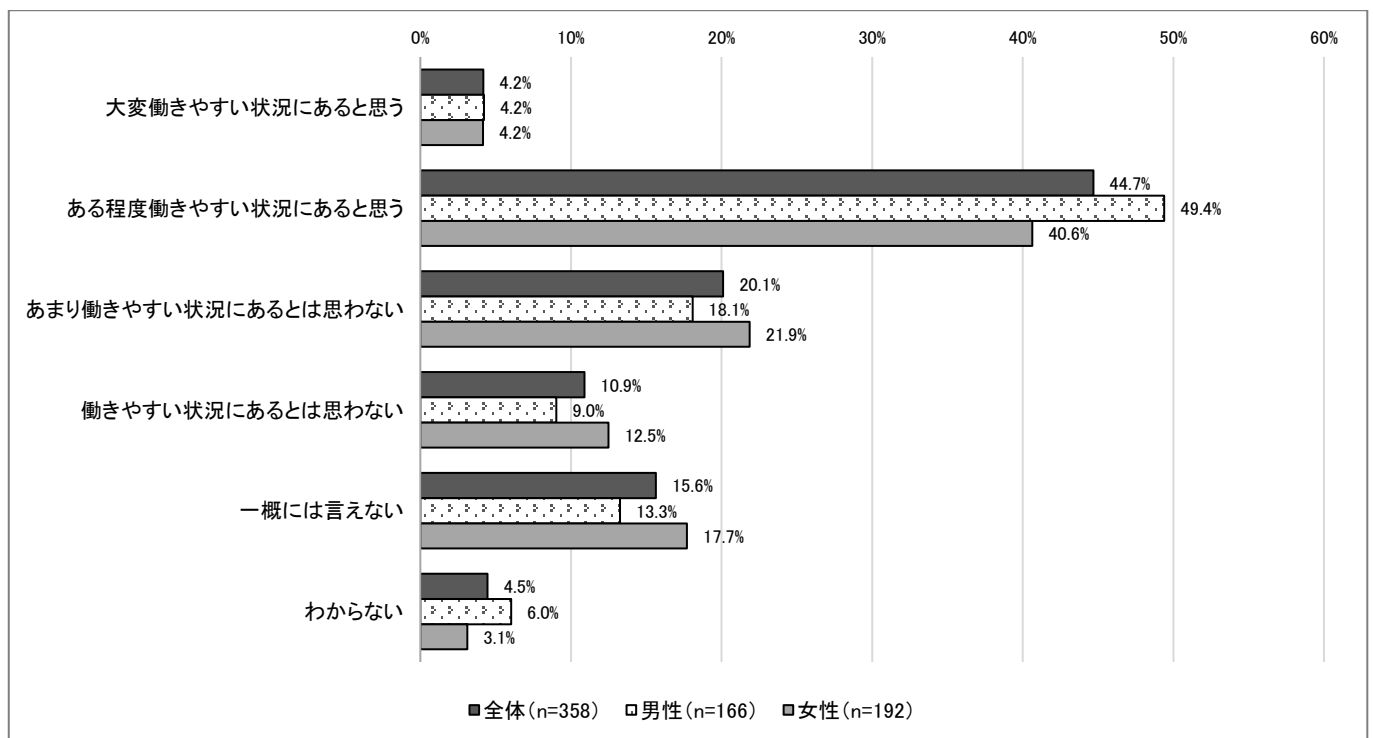


【問】 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。（1つだけ選択）

◆『働きやすい』が約 5 割、『働きにくい』が 3 割

現代の社会は女性が働きやすい状況にあるかについて、『働きやすい』（「大変働きやすい状況にあると思う」+「ある程度働きやすい状況にあると思う」の計）が 48.9%、『働きにくい』（「働きやすい状況にあるとは思わない」+「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」の計）が 31.0%となっている。

性別でみると、「大変働きやすい状況にあると思う」が男女ともに 4.2%で、「ある程度働きやすい状況にあると思う」は男性（49.4%）が女性（40.6%）を 8.8 ポイント上回っている。一方、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」は女性（21.9%）が男性（18.1%）を 3.8 ポイント、「働きやすい状況にあるとは思わない」も女性（12.5%）が男性（9.0%）を 3.5 ポイント上回っている。



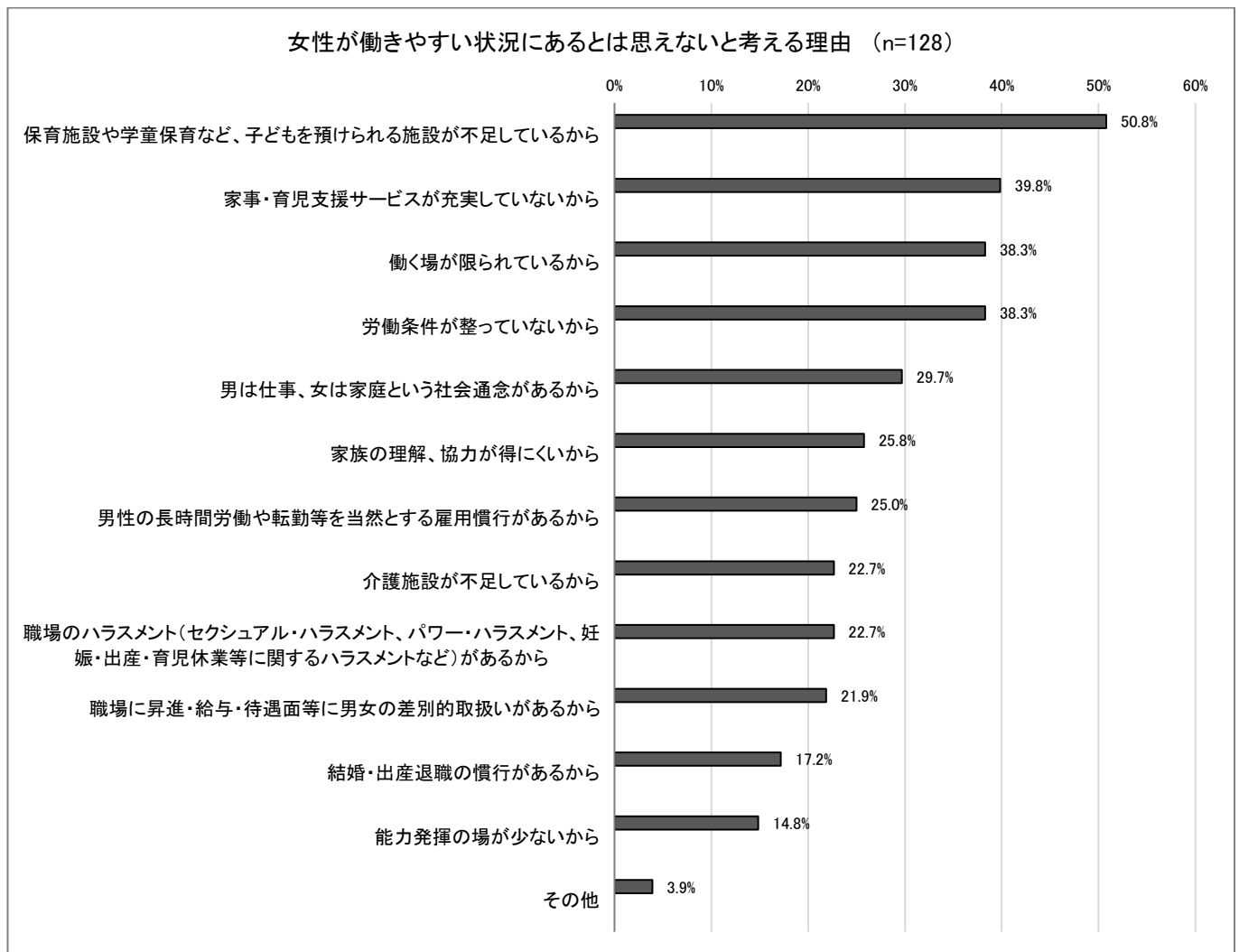
「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」、または「働きやすい状況にあるとは思わない」を選択した方のみ

【問】「女性が働きやすい状況にあるとは思わない」と考える理由は何ですか。（選択はいくつでも）

◆「保育施設や学童保育など、子どもを預けられる施設が不足しているから」が最も高い

女性が働きにくい状況にあると考える理由について、「保育施設や学童保育など、子どもを預けられる施設が不足しているから」が 50.8%で最も高く、次いで「家事・育児サービスが充実していないから」（39.8%）、「働く場が限られているから」、「労働状況が整っていないから」（ともに 38.3%）などの順となっている。

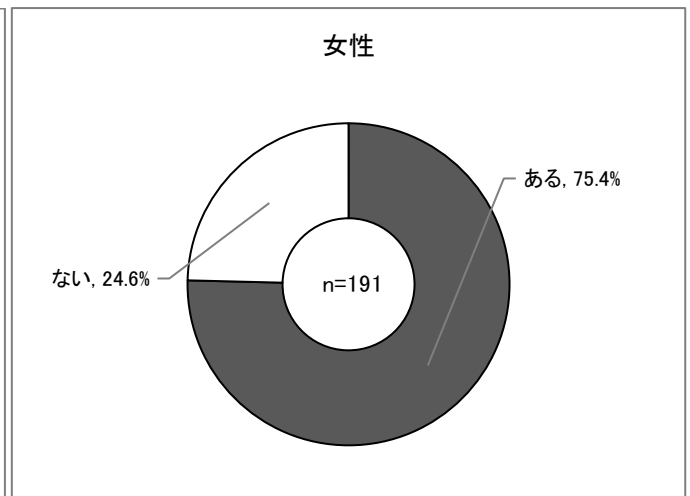
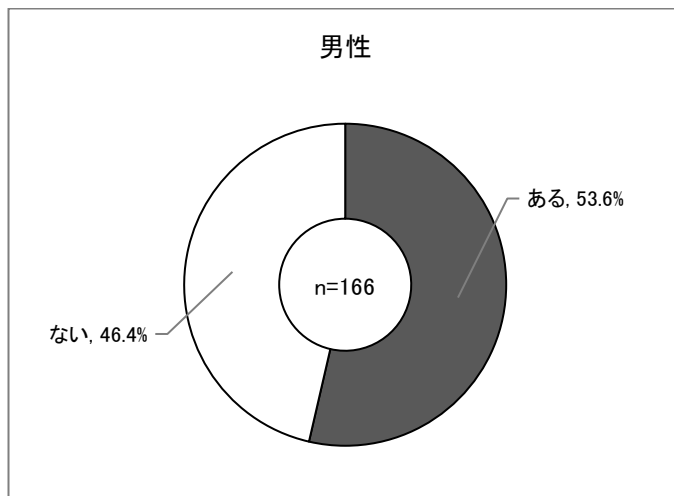
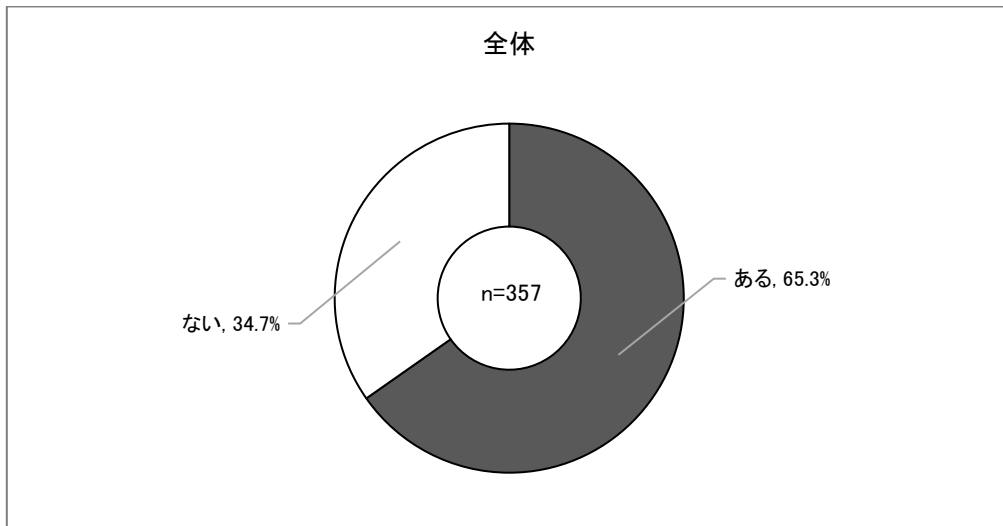
「その他（自由記述）」では、「子どもが病気の際に職場を休むのが困難」「欠勤で職場に迷惑をかけてしまう」といった意見も寄せられている。



【問】 あなたは、仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職したことがありますか。（1つだけ選択）

◆ 男性も女性も半数以上が、仕事をやめたり、中断したり、転職した経験が「ある」と回答

仕事をやめたり、中断したり、転職した経験について、全体では、「ある」が 65.3%で、「ない」が 34.7%となっている。性別でみると、「ある」と回答した人の割合は、女性（75.4%）が男性（53.6%）を 21.8 ポイント上回っている。

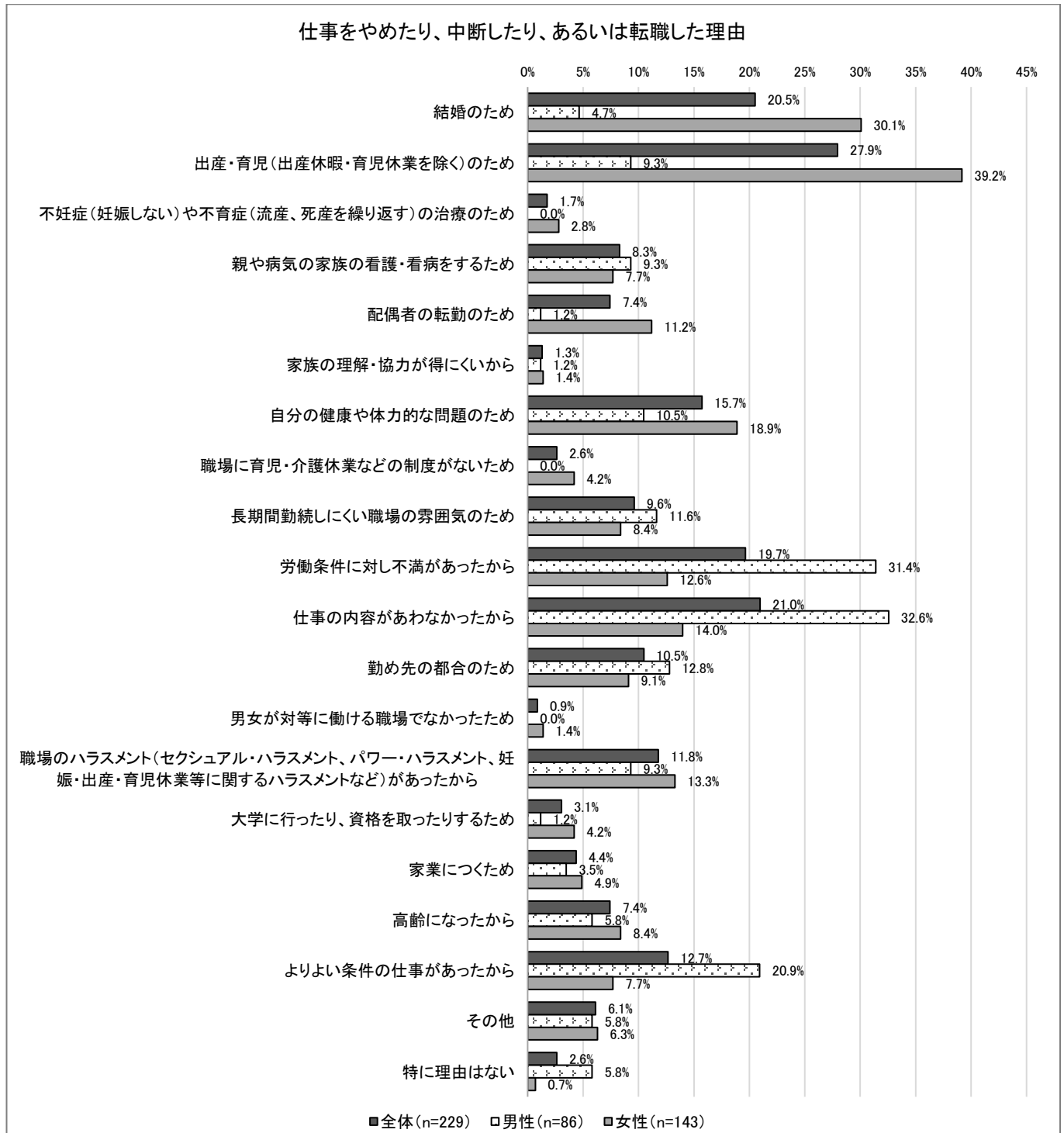


「ある」を選択した方のみ

【問】あなたが仕事をやめたり、中断したり、あるいは転職した理由は何ですか。（選択はいくつでも）

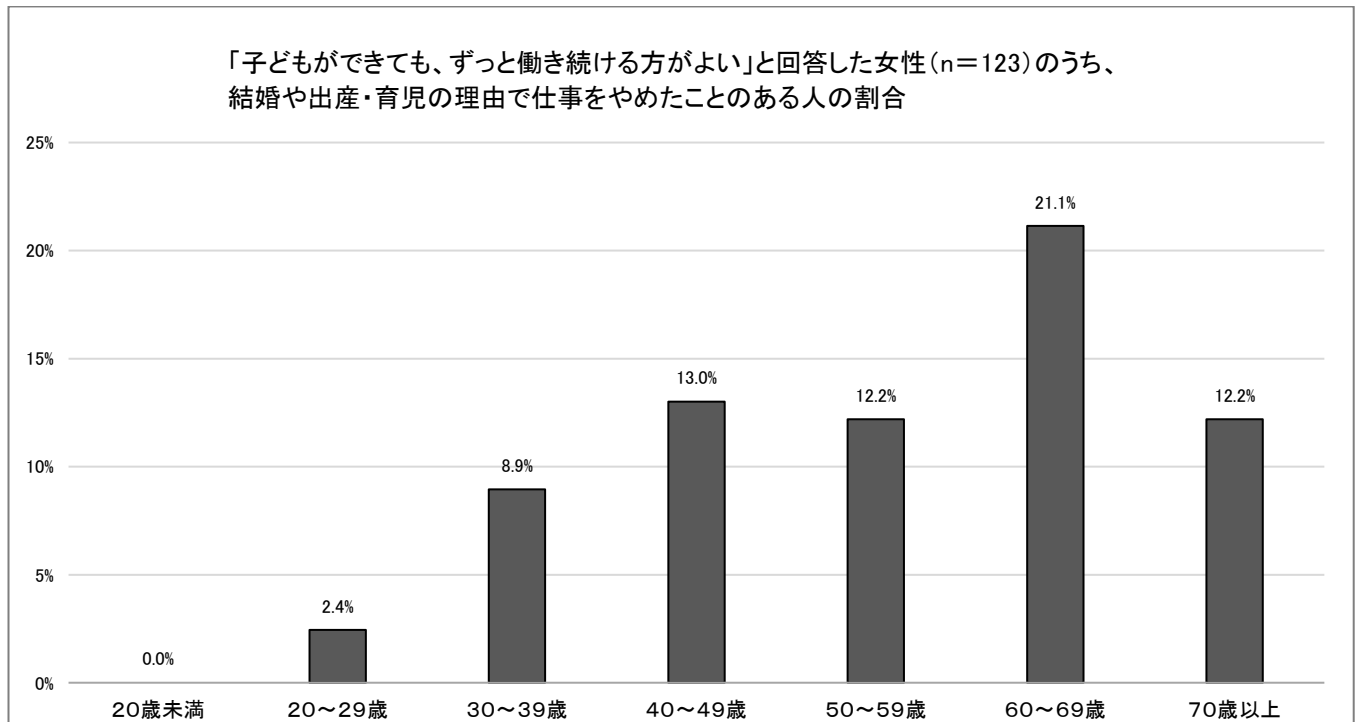
◆男性と女性で、理由に大きな違いがみられる

仕事をやめたり、中断したり、転職した理由について、男性は「仕事の内容があわなかったから」が32.6%で最も高く、次いで「労働条件に対し不満があったから」（31.4%）、「よりよい条件の仕事があったから」（20.9%）などの順となっており、キャリア形成にかかわる理由が上位を占めている。一方で、女性は「出産・育児（出産休暇・育児休業を除く）のため」が39.2%で最も高く、次いで「結婚のため」（30.1%）、「自分の健康や体力的な問題のため」（18.9%）などの順となっており、ライフイベントにかかわる内容が主だった理由となっている。



◎ 女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」と回答した女性のうち、結婚や出産・育児の理由で仕事をやめたことのある人の割合

結婚や出産・育児の理由で仕事をやめたことのある人の割合は、年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にあり、20歳未満から30代までの年代は1割未満となっているが、40代以上の年代では1割を超えており、60代は2割となっている。

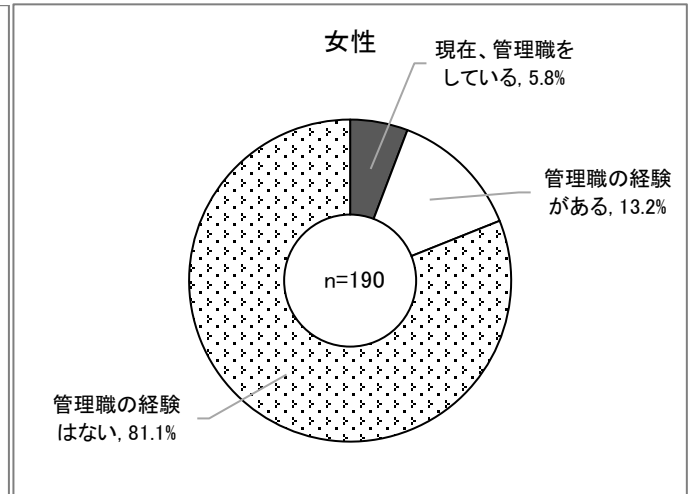
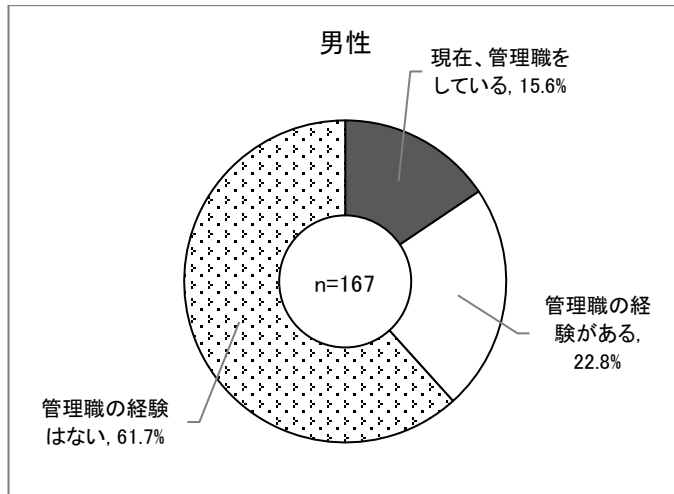
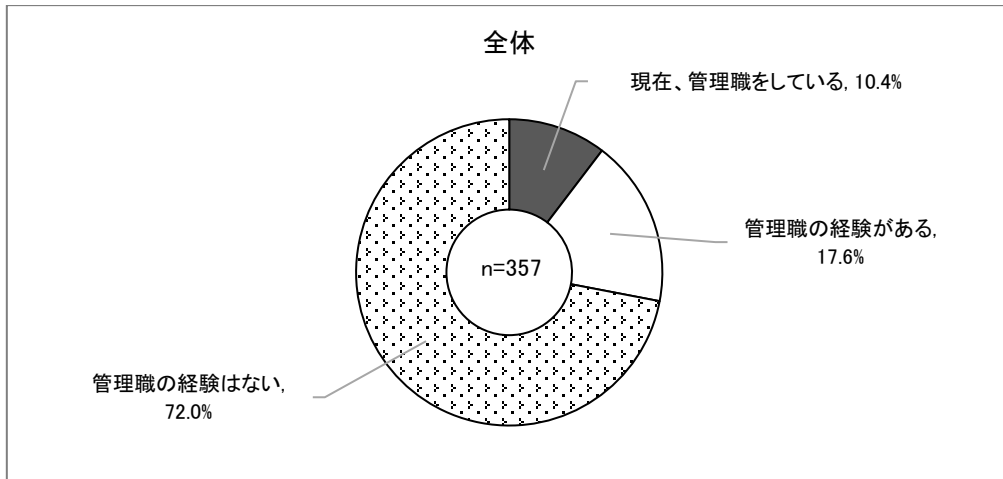


【問】あなたは、管理職の経験がありますか。（1つだけ選択）

◆「管理職の経験はない」女性が約 8 割

管理職の経験について、全体では、「管理職の経験はない」が 72.0%と最も高く、次いで「管理職の経験がある」（17.6%）、「現在、管理職をしている」（10.4%）の順となっている。

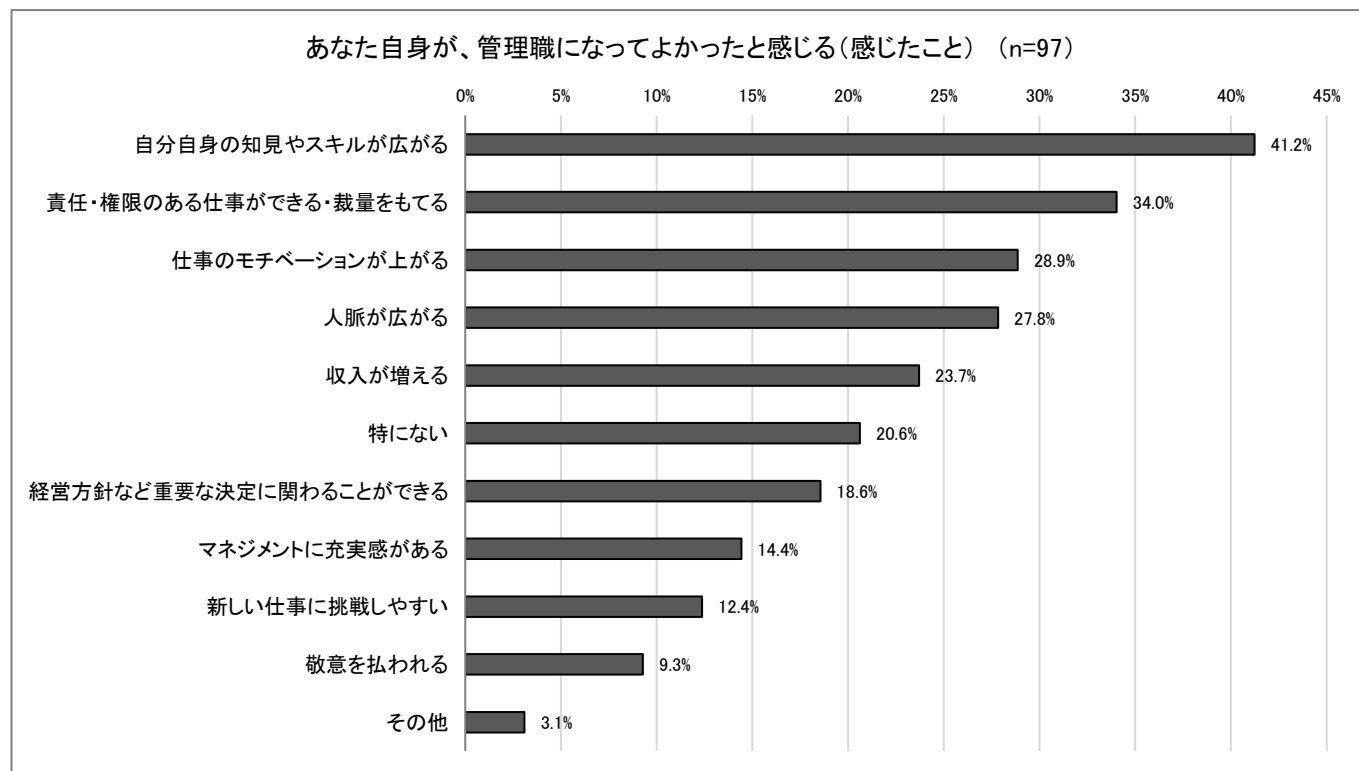
性別で見ると、「現在、管理職をしている」では、男性（15.6%）が女性（5.8%）を 9.8 ポイント、「管理職の経験がある」でも、男性（22.8%）が女性（13.2%）を 9.6 ポイント上回っている。一方で、「管理職の経験はない」は、女性（81.1%）が男性（61.7%）を 19.4 ポイント上回っている。



「現在、管理職をしている」、または「管理職の経験がある」を選択した方のみ

【問】 あなた自身が、管理職になってよかったと感じる（感じた）ことはありますか。（選択はいくつでも）

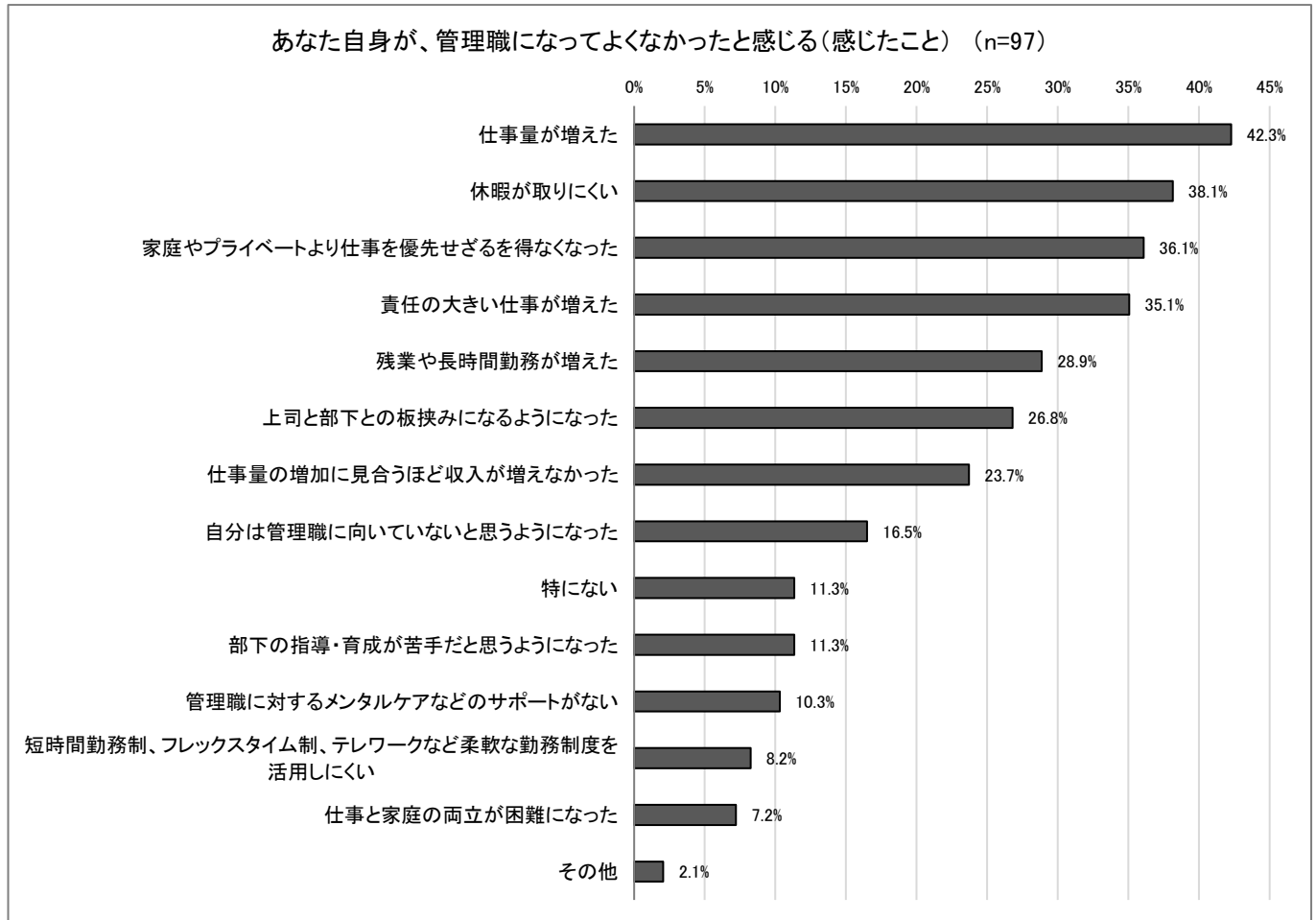
現在、管理職をしている人や管理職の経験がある人が、管理職になって「よかったと感じる（感じた）こと」については、「自分自身の知見やスキルが広がる」が 41.2%で最も高く、次いで「責任・権限のある仕事ができる・裁量をもてる」（34.0%）、「仕事のモチベーションが上がる」（28.9%）などの順となっている。



「現在、管理職をしている」、または「管理職の経験がある」を選択した方のみ

【問】 あなた自身が、管理職になってよくなかったと感じる（感じた）ことはありますか。（選択はいくつでも）

現在、管理職をしている人や管理職の経験がある人が、管理職になって「よくなかったと感じる（感じた）こと」については、「仕事量が増えた」が 42.3%で最も高く、次いで「休暇が取りにくい」（38.1%）、「家庭やプライベートより仕事を優先せざるを得なくなった」（36.1%）などの順となっている。



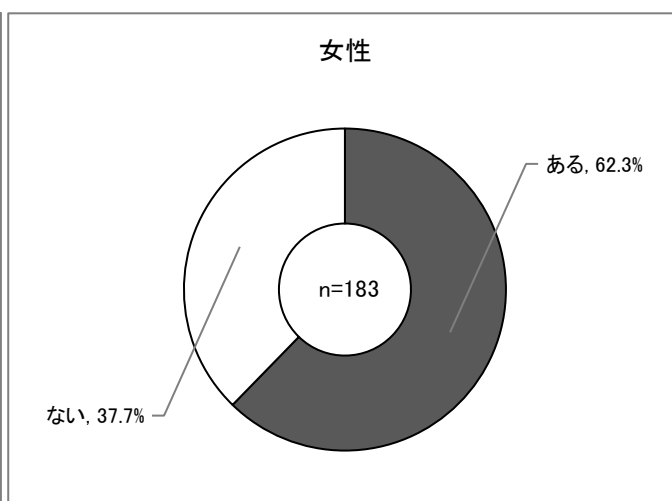
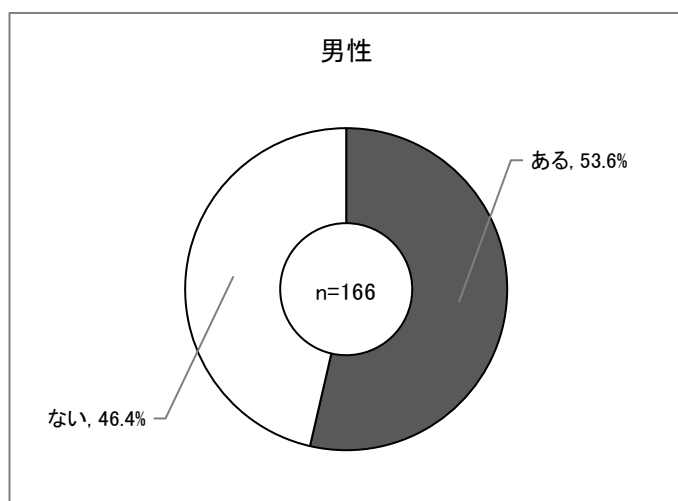
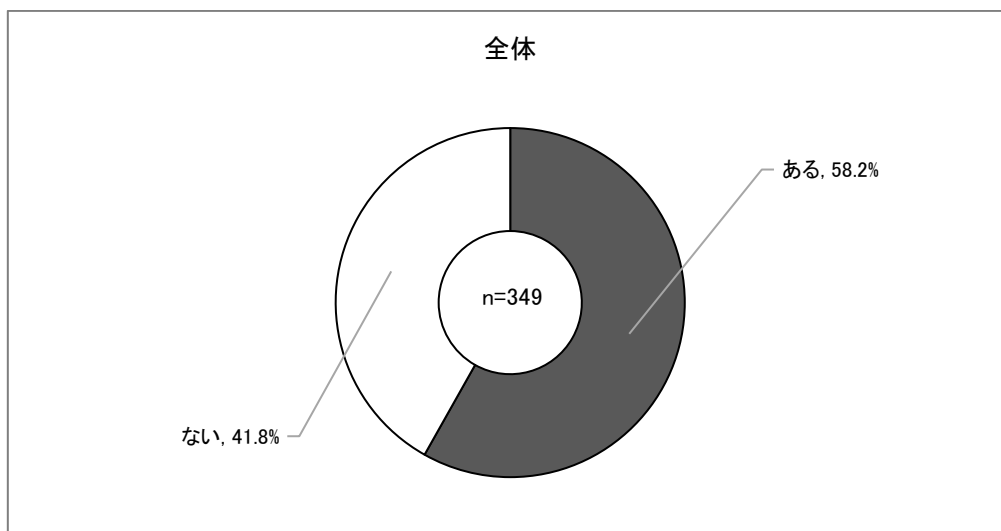
【問】 育児休業を取得したことがありますか。あるいは、取得の機会がある場合には取得したいですか。

(1つだけ選択)

◆ 男性も女性も半数以上が、取得したことが「ある」と回答

育児休業の取得について、全体では、取得したことが「ある」（「取得の機会がある場合には取得したい」を含む）が58.2%で、「ない」が41.8%となっている。

性別でみると、「ある」と回答した人の割合は、女性（62.3%）が男性（53.6%）を8.7ポイント上回っている。



【問】あなたは、「育児休業」を取得することや取得した後のことについて、どのように思いますか。

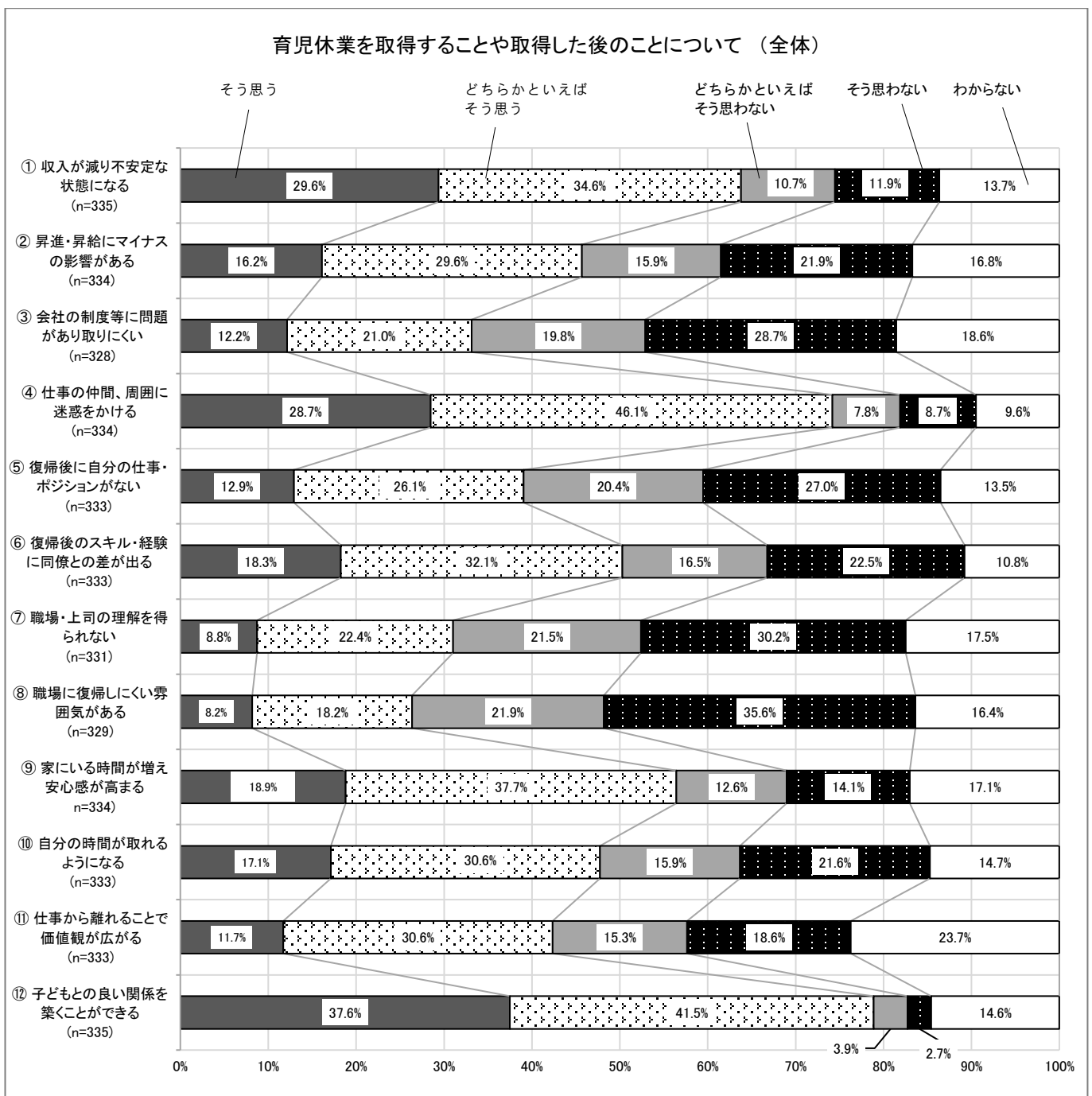
(①～⑫でそれぞれ1つだけ選択)

◆「子どもとの良い関係を築くことができる」で『そう思う』は約 8 割

育児休業取得に対する考えについて、ポジティブ要素では、「子どもとの良い関係を築くことができる」は『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計）が 79.1%と高くなっている。

ネガティブ要素では、「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」は『そう思う』が 74.8%、「収入が減り不安定な状況になる」も 64.2%と高くなっている。

一方で、「職場に復帰しにくい雰囲気がある」は『そう思わない』（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」の計）が 57.5%、「職場・上司の理解を得られない」も 51.7%で、いずれも『そう思わない』が 5 割を超えている。



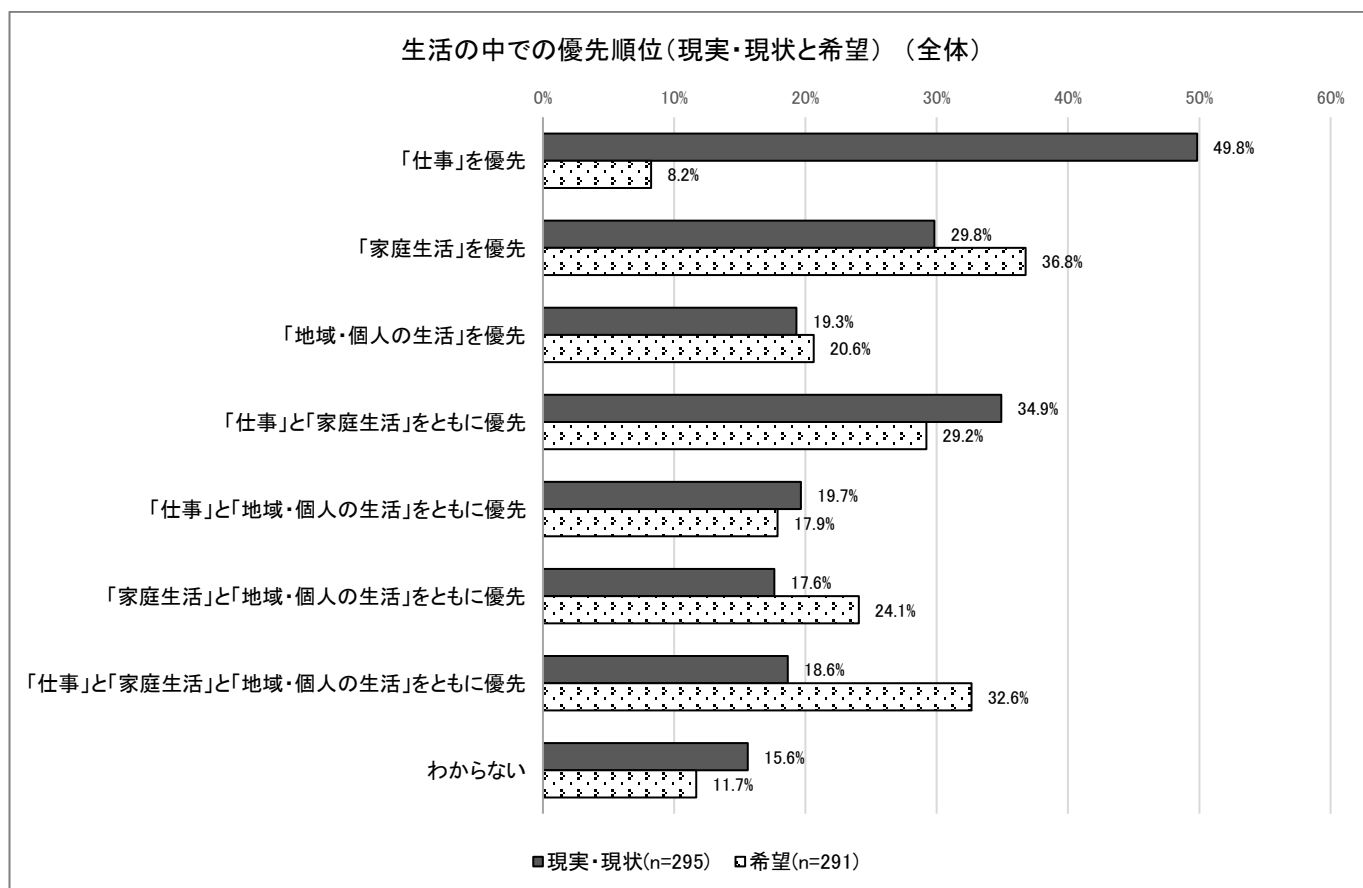
5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

【問】 日ごろの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実・現状と希望のそれぞれで、最も近いものをお答えください。（「現実・現状」と「希望」でそれぞれ1つだけ選択）

◆ 優先度の希望は「家庭生活」を優先だが、現実・現状は「仕事」を優先

生活の中での優先度の希望について、「家庭生活」を優先が 36.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先（32.6%）、「仕事」と「家庭生活」をともに優先（29.2%）などの順となっている。

優先度の現実・現状については、「仕事」を優先が 49.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先（34.9%）、「家庭生活」を優先（29.8%）などの順となっている。



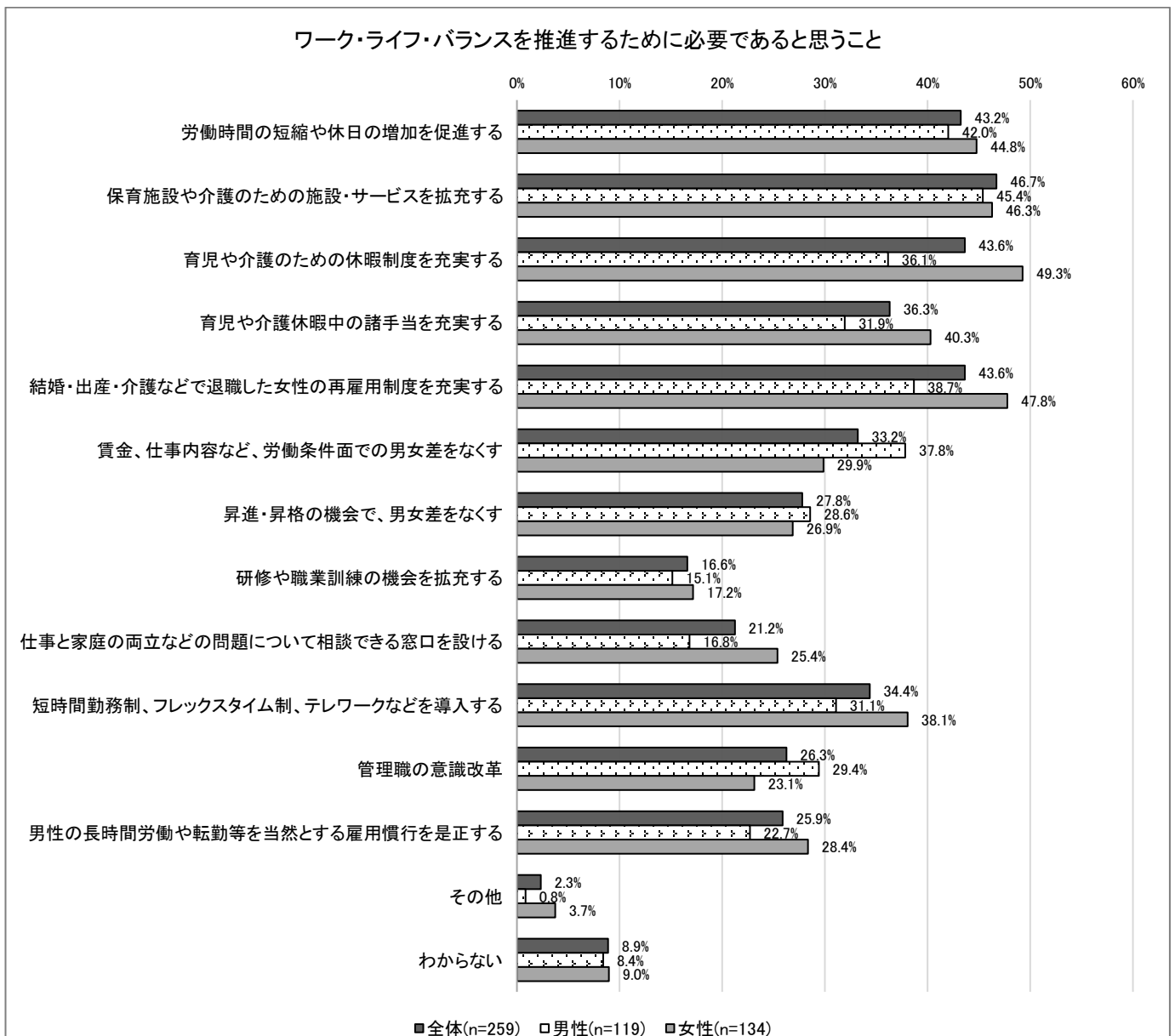
【問】男女がともにワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためには、どのようなことが必要であると思いますか。（選択はいくつでも）

◆「保育施設や介護のための施設・サービスを拡充する」が最も高い

ワーク・ライフ・バランスを推進するために必要なことについて、「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」が46.7%で最も高く、次いで「育児や介護のための休暇制度を充実する」、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」（ともに43.6%）、「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」（43.2%）などの順となっている。

性別でみると、「育児や介護のための休暇制度を充実する」は女性（49.3%）が男性（36.1%）を13.2ポイント、「結婚・出産・介護などで退職した女性の再雇用制度を充実する」も女性（47.8%）が男性（38.7%）を9.1ポイント上回っている。

「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」は男性45.4%、女性46.3%、また「労働時間の短縮や休日の増加を促進する」は男性42.0%、女性44.8%となっており、いずれも男女で大きな差はみられない。



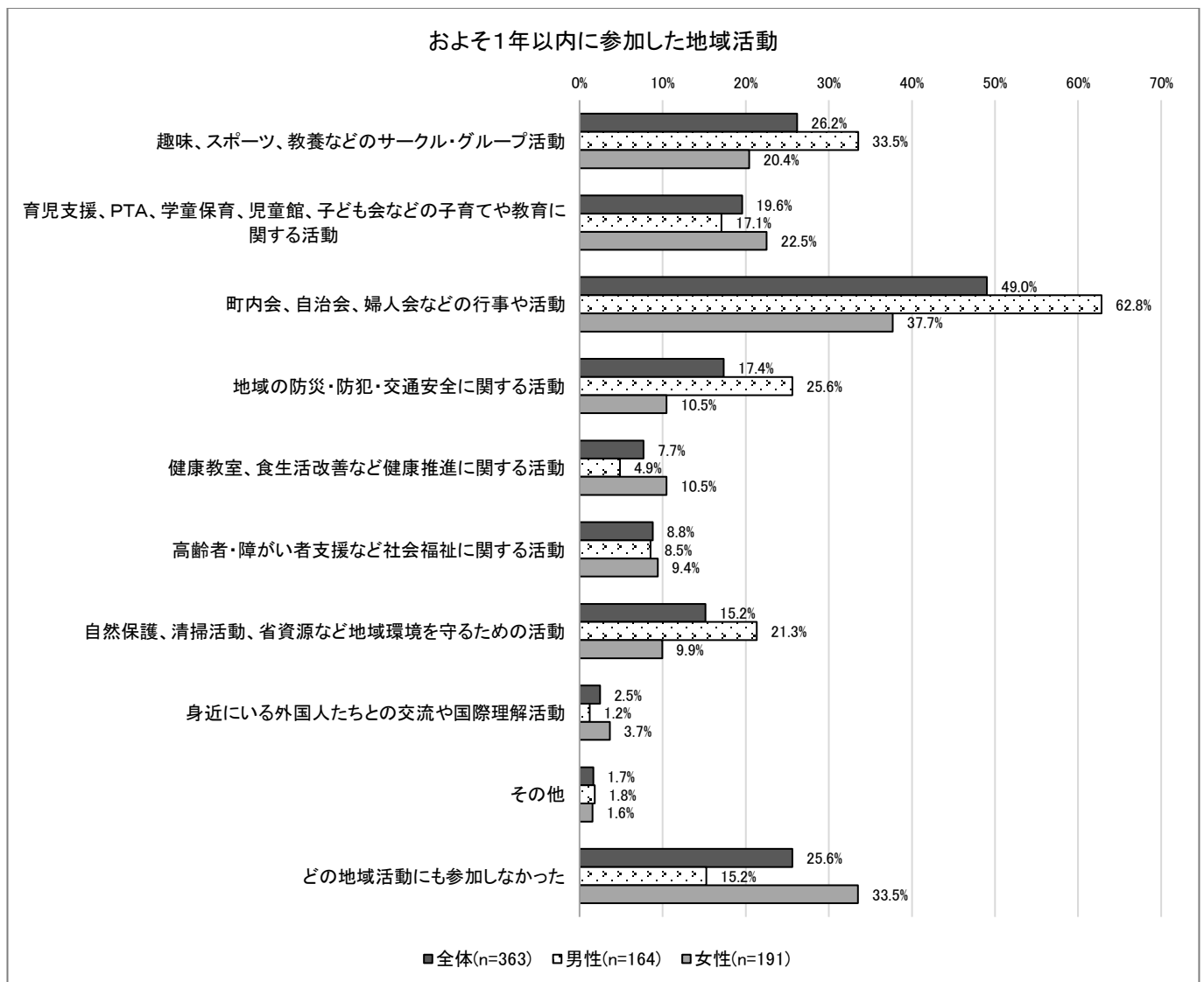
【問】 およそ1年以内に、あなたが参加した地域活動にはどのようなものがありますか。（選択はいくつでも）

◆「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」が最も多い

およそ1年以内に参加した地域活動について、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」が49.0%と最も多く、次いで「趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動」（26.2%）、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子供会などの子育てや教育に関する活動」（19.6%）などの順となっている。また、「どの地域活動にも参加しなかった」は25.6%となっている。

性別で見ると、「町内会、自治会、婦人会などの行事や活動」は男性（62.8%）が女性（37.7%）を25.1ポイント、「地域の防災・防犯・交通安全に関する活動」は男性（25.6%）が女性（10.5%）を15.1ポイント上回っている。

一方で、「育児支援、PTA、学童保育、児童館、子供会などの子育てや教育に関する活動」は女性（22.5%）が男性（17.1%）を5.4ポイント、「健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動」では女性（10.5%）が男性（4.9%）を5.6ポイント、上回っている。また、「どの地域活動にも参加しなかった」では、女性（33.5%）が男性（15.2%）を18.3ポイント上回っている。



「どの地域活動にも参加しなかった」を選択した方のみ

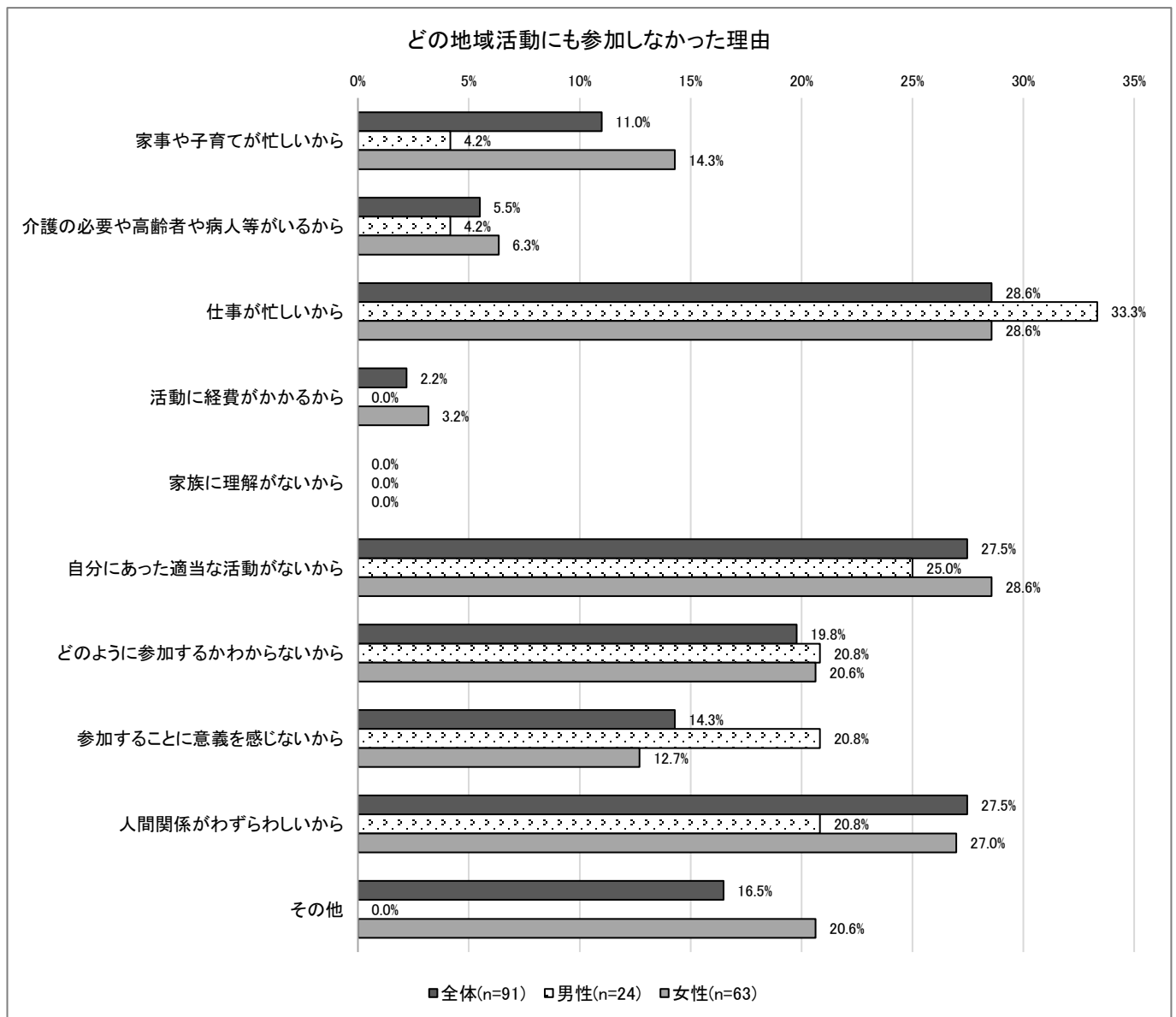
【問】 どの地域活動にも参加しなかったのは、なぜですか。（選択はいくつでも）

◆「仕事が忙しいから」が最も高い

どの地域活動にも参加しなかった理由について、「仕事が忙しいから」が28.6%と最も高く、次いで「自分にあった適当な活動がないから」、「人間関係がわずらわしいから」（ともに 27.5%）、「どのように参加するかわからないから」（19.8%）などの順となっている。

性別でみると、「仕事が忙しいから」は男性（33.3%）が女性（28.6%）を4.7ポイント、「参加することに意義を感じないから」では男性（20.8%）が女性（12.7%）を8.1ポイント上回っている。

一方で、「家事や子育てが忙しいから」は女性（14.3%）が男性（4.2%）を10.1ポイント、「人間関係がわずらわしいから」は女性（27.0%）が男性（20.8%）を6.2ポイント上回っている。



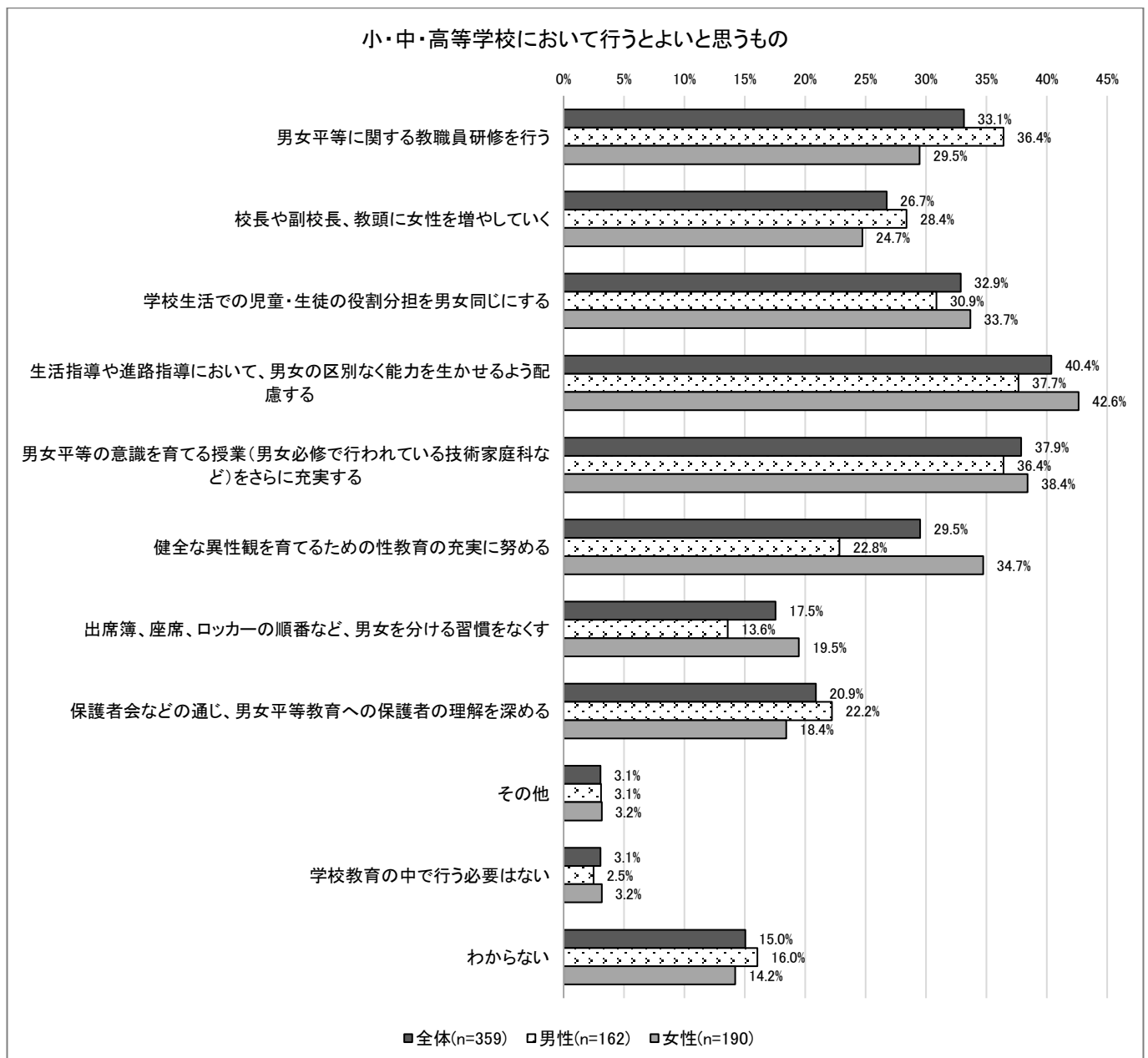
6. 男女平等教育について

【問】 男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校等で行うとよいと思うものは何ですか。
(選択はいくつでも)

◆「生徒指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も高い

男女平等教育を推進していくために、学校において行うとよいと思うものについて、「生徒指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が 40.0%と最も高く、次いで「男女平等の意識を育てる授業（男女必修で行われている技術家庭科など）をさらに充実する」（37.9%）、「男女平等に関する教職員研修を行う」（33.1%）などの順となっている。

性別でみると、「男女平等に関する教職員研修を行う」は男性（36.4%）が女性（29.5%）を 5.9 ポイント上回り、「健全な異性間を育てるための性教育の充実に努める」は女性（34.7%）が男性（22.8%）を 11.7 ポイント上回っている。



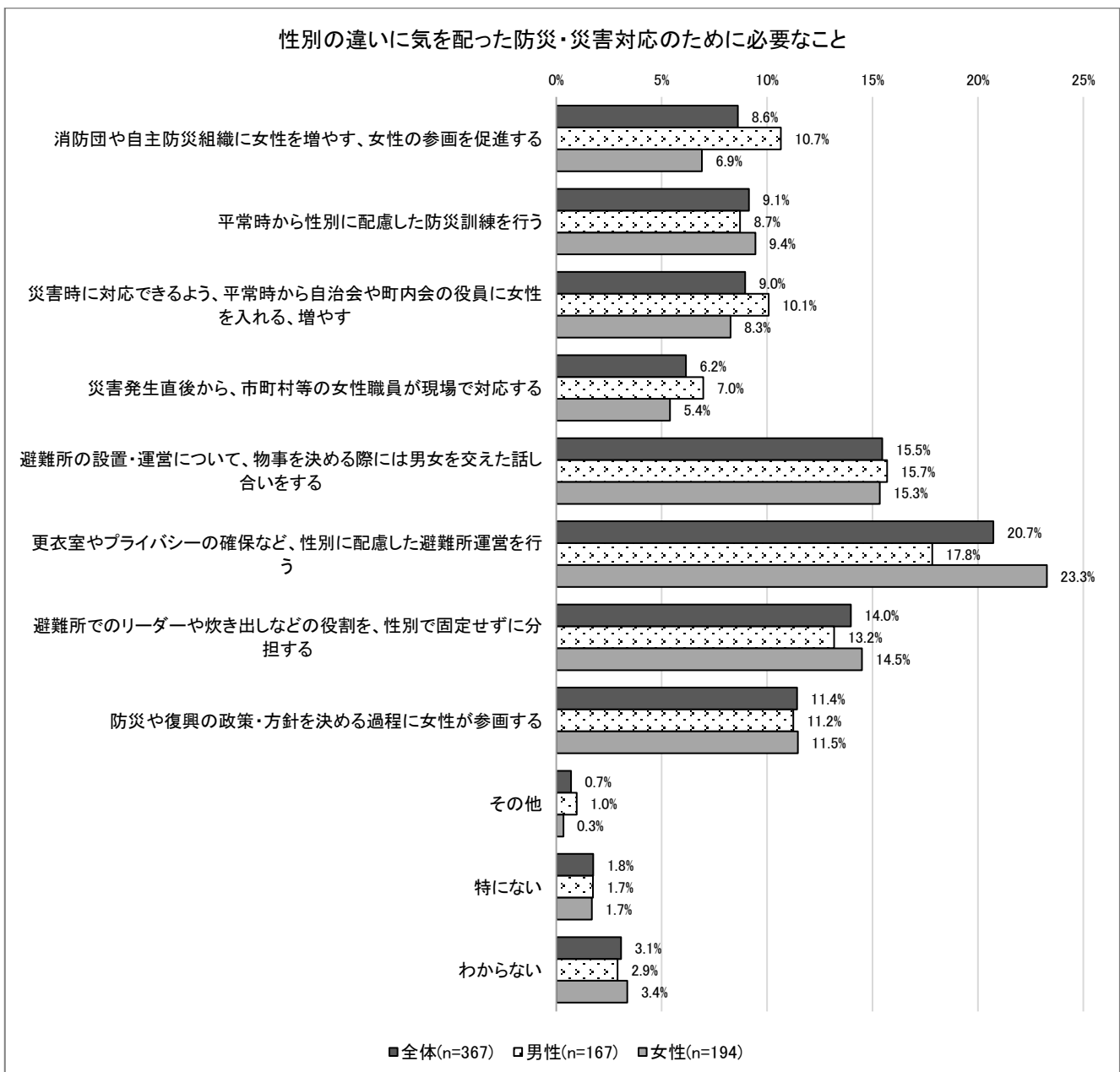
7. 防災について

【問】あなたは、性別の違いに気を配った防災・災害対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（選択はいくつでも）

◆「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が最も高い

性別の違いに気を配った防災・災害対応に必要なことについて、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」が20.7%で最も高く、次いで「避難所の設営・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」（15.5%）、「避難所のリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で個性せずに分担する」（14.0%）などの順となっている。

性別でみると、「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」は女性（23.3%）が男性（17.8%）を5.5ポイント、「消防団や自主防災組織に女性を増やす、女性の参画を促進する」は男性（10.7%）が女性（6.9%）を3.8ポイント上回っている。



8. 個人としての尊厳を害する暴力について

※これまでに結婚（事実婚を含む）したことのある方、交際相手があったことがある方のみ

【問】 あなたはこれまでに、配偶者・パートナーや交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

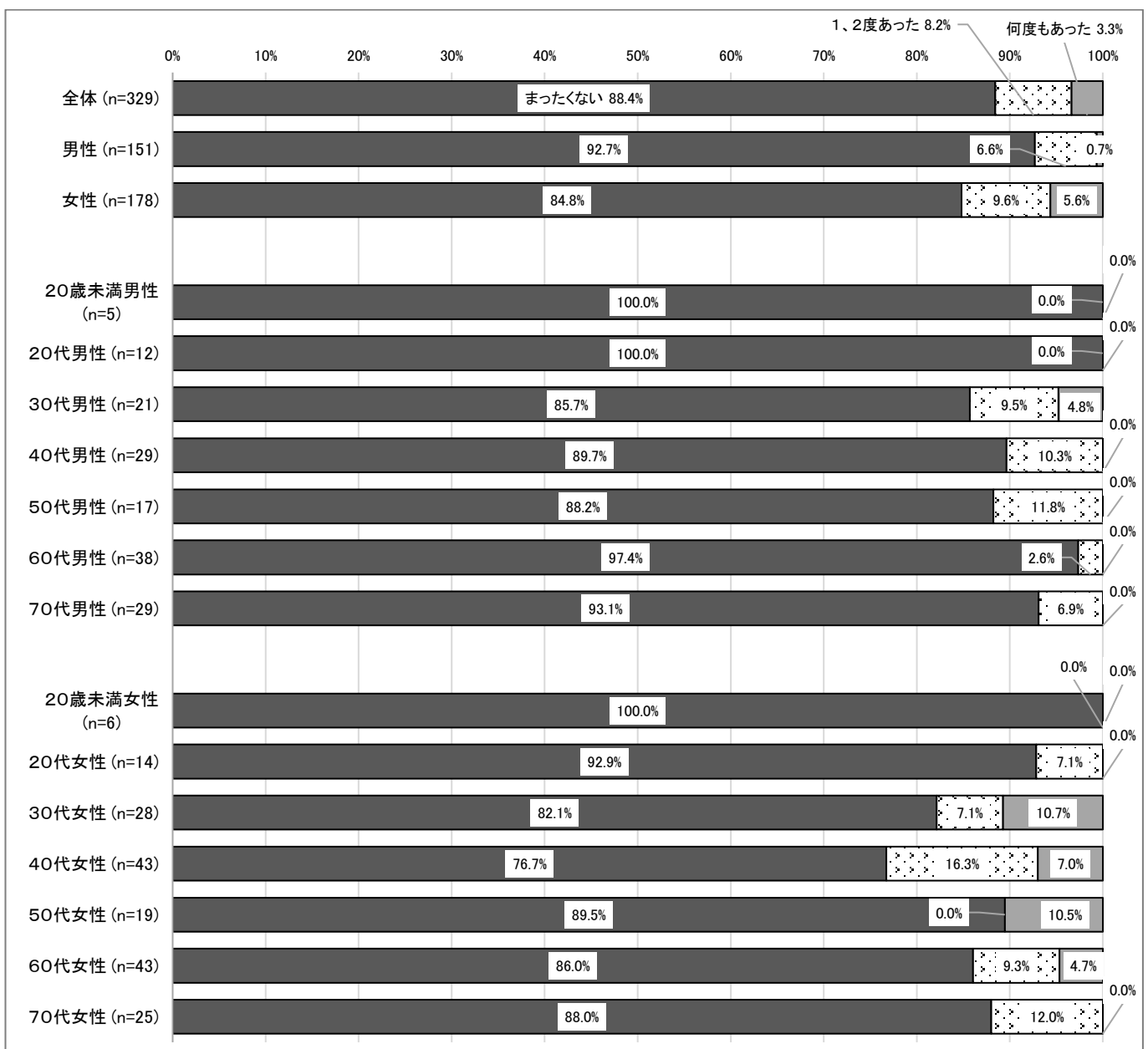
(①～⑤でそれぞれ1つだけ選択)

① 身体的暴力を受けた(なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなど)

全体では、『あった』（「何度もあった」+「1、2度あった」の計）が11.5%となっている。

性別で見ると、『あった』は女性（15.2%）が男性（7.3%）を7.9ポイント上回っている。

性年代別にみると、男性は20歳未満と20代を除く全ての年代で、女性は20歳未満を除く全ての年代で、身体的暴力を受けた経験がある。

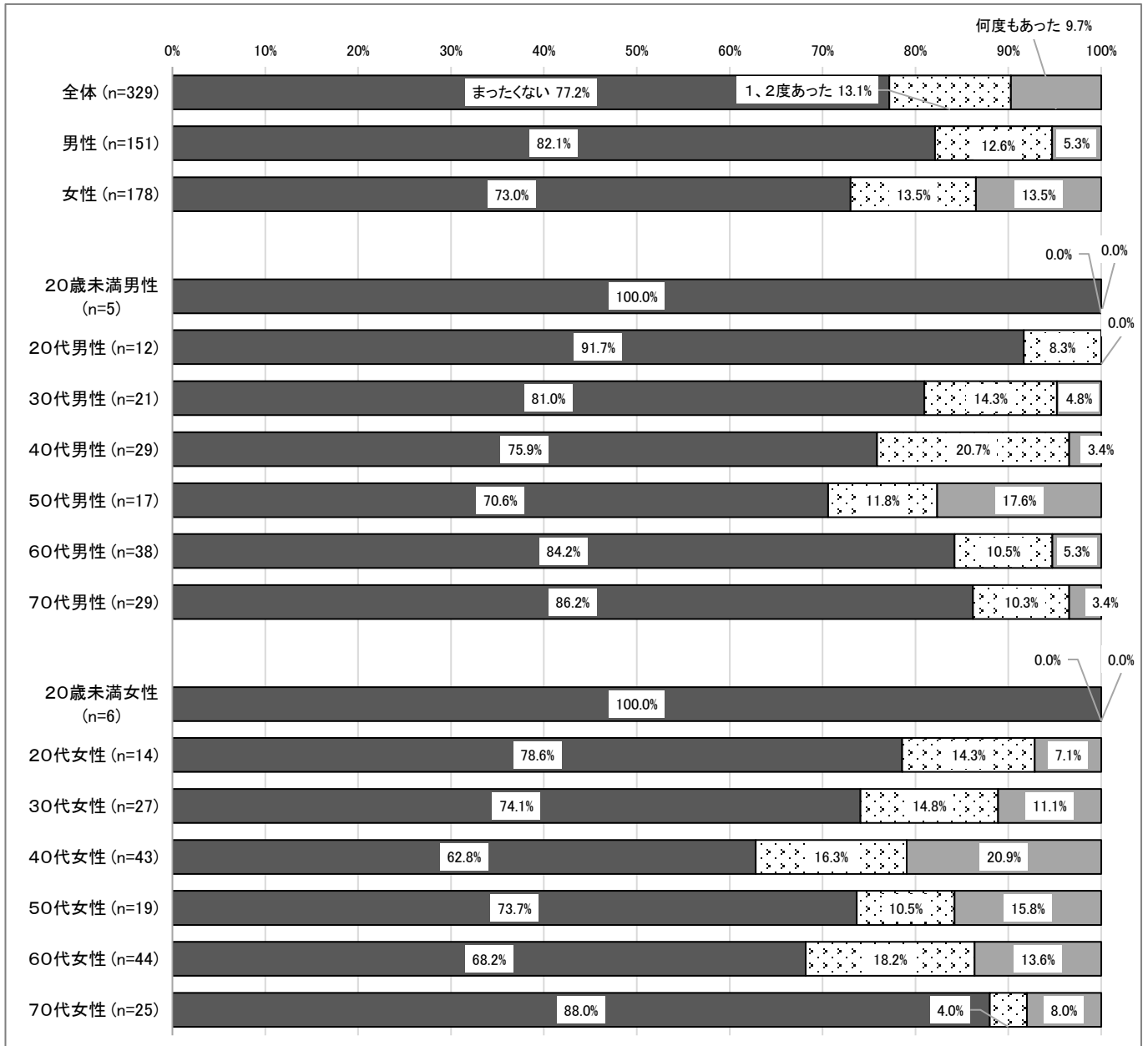


② 精神的暴力を受けた(人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなど)

全体では、『あった』が 22.8%となっている。

性別で見ると、『あった』は女性（27.0%）が男性（17.9%）を 9.1 ポイント上回っている。

性年代別にみると、男性も女性も 20 歳未満を除く全ての年代で、精神的暴力を受けた経験がある。

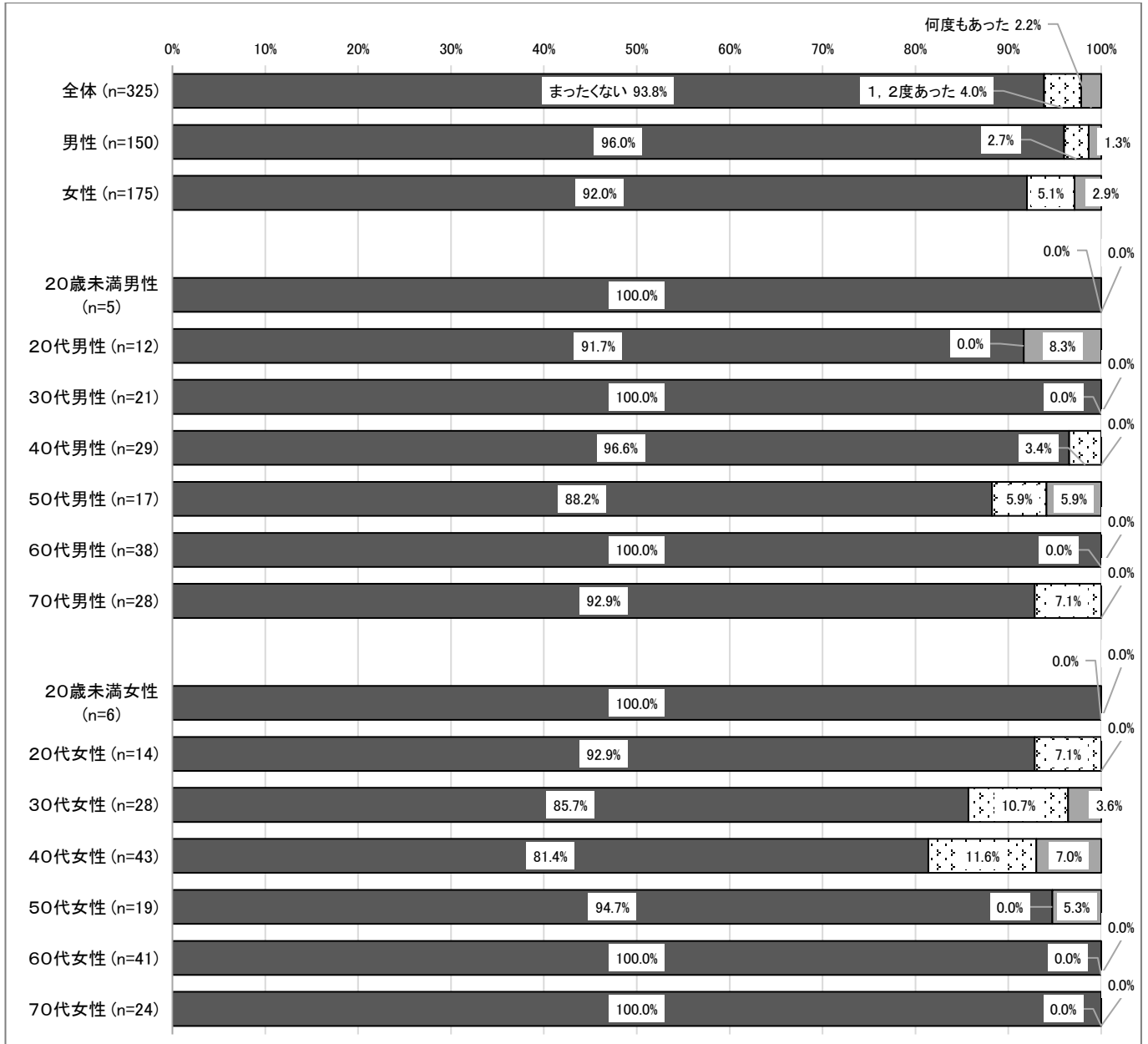


③ 社会的暴力を受けた(友人や家族に合わせない、外出させない、電話・電子メール等をチェックするなど)

全体では、『あった』が 6.2%となっている。

性別で見ると、『あった』は女性（8.0%）が男性（4.0%）を 4.0 ポイント上回っている。

性年代別にみると、男性は 20 歳未満と 30 代、60 代を除く年代で、女性は 20 歳未満と 60 代以上を除く年代で、社会的暴力を受けた経験がある。

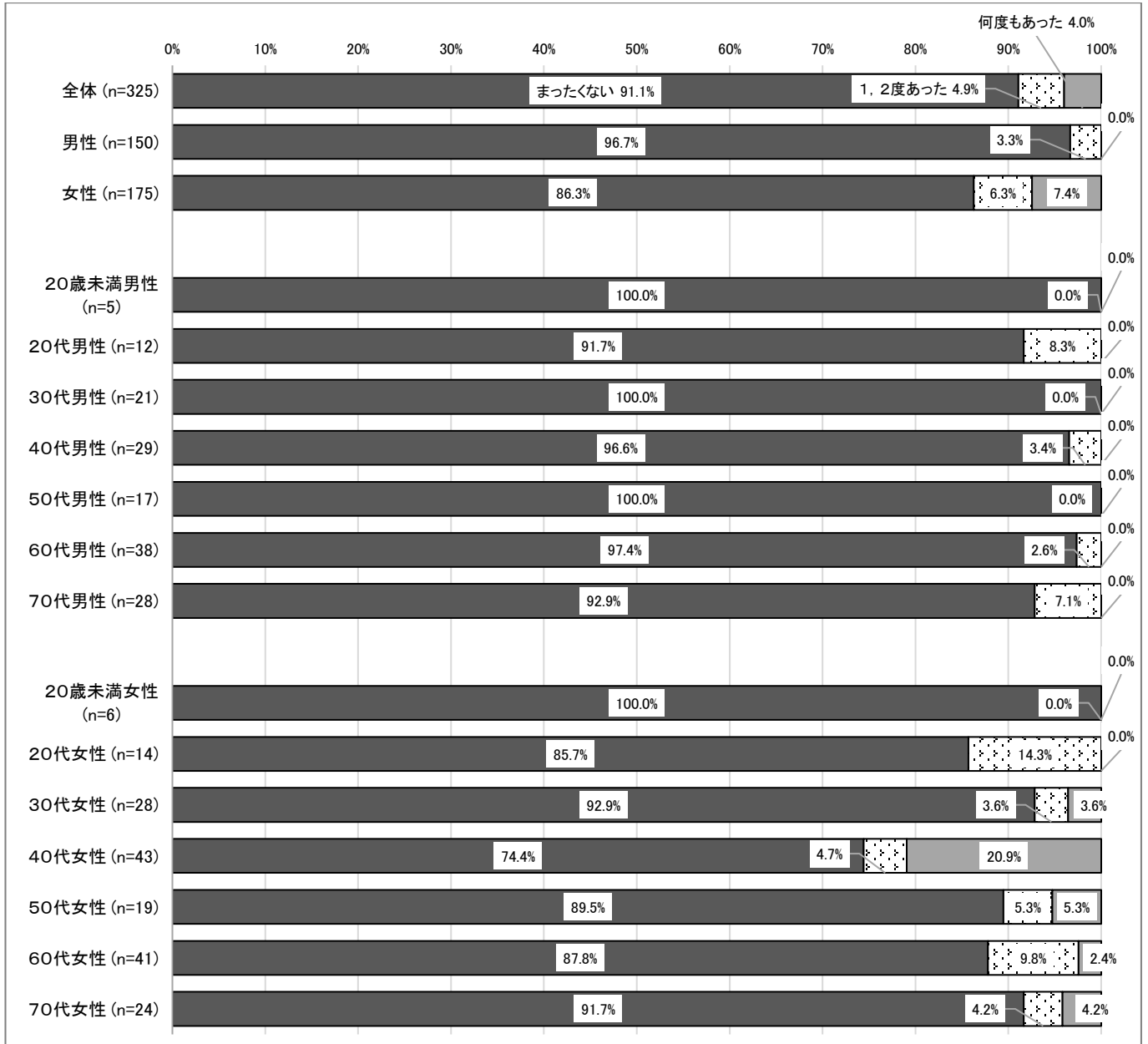


④ 経済的暴力を受けた(生活費を渡さない、借金を強いる、収入を取り上げる、外で働くことを妨げるなど)

全体では、『あった』が 8.9%となっている。

性別で見ると、『あった』は女性（13.7%）が男性（3.3%）を 10.4 ポイント上回っている。

性年代別にみると、男性は 20 歳未満と 30 代、50 代を除く年代で、女性は 20 歳未満を除く全ての年代で、経済的暴力を受けた経験がある。

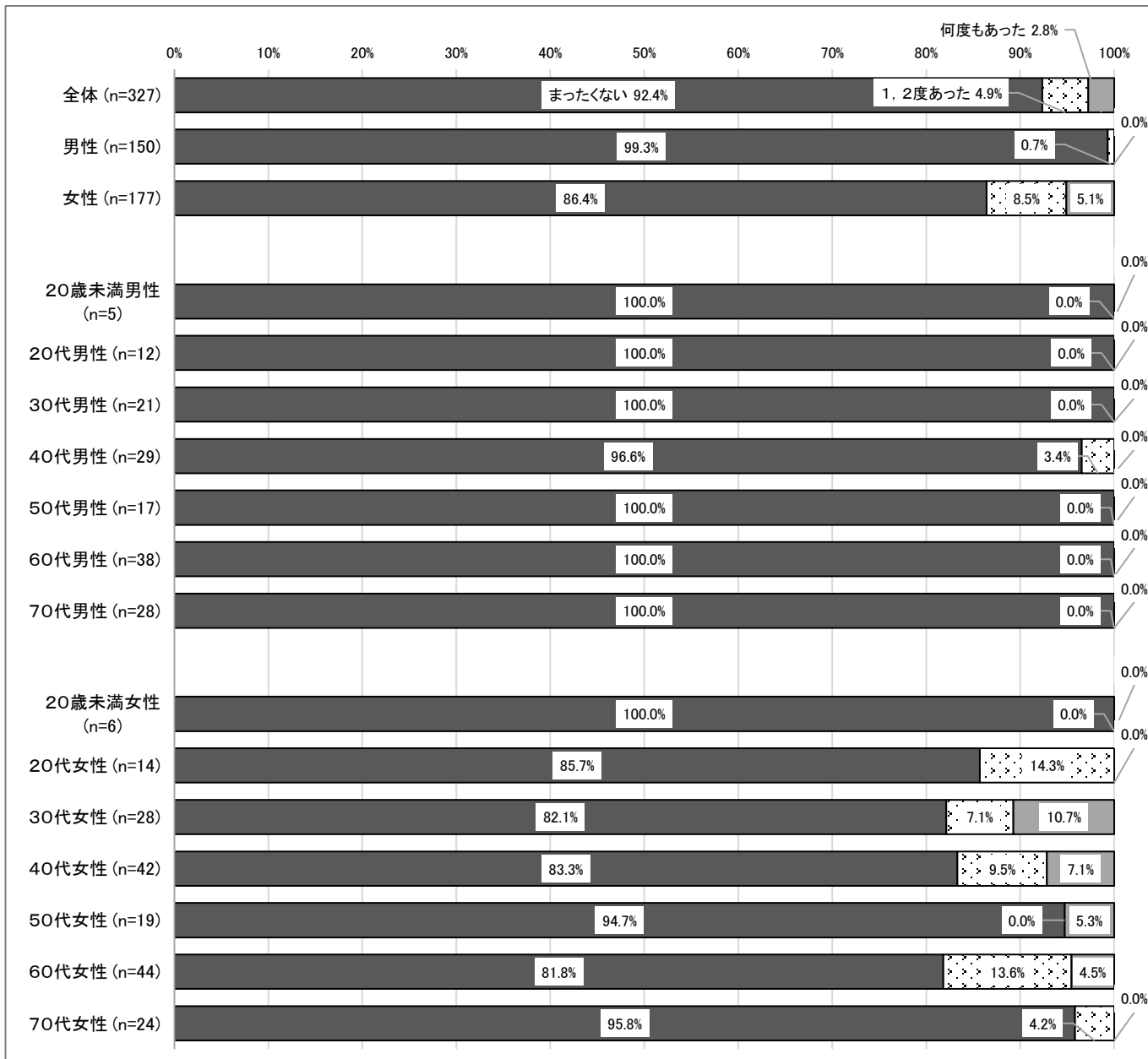


⑤ 性的暴力を受けた(見たくないのにアダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど)

全体では、『あった』が 7.7%となっている。

性別で見ると、『あった』は女性 (13.6%) が男性 (0.7%) を 12.9 ポイント上回っている。

性年代別にみると、男性は 40 代で、女性は 20 歳未満を除く全ての年代で、性的暴力を受けた経験がある。

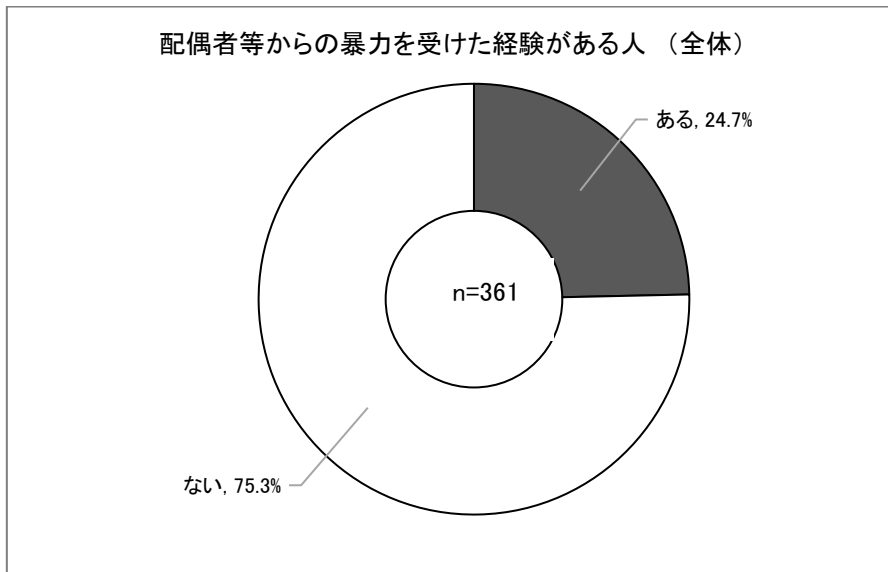


◆ 2 割半ばの回答者が配偶者等からの何らかの暴力を受けた経験がある

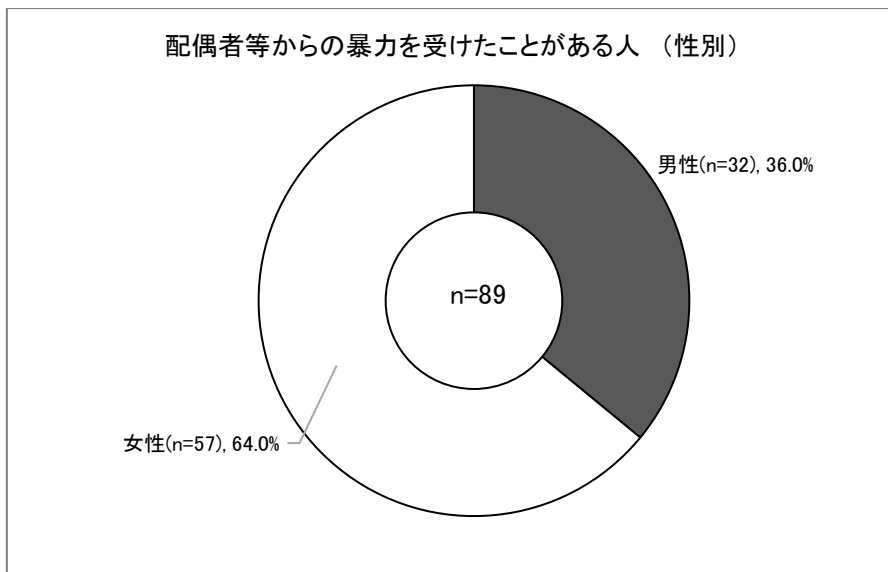
配偶者・パートナーや交際相手から、何らかの暴力を受けた経験がある人は、全体では 24.7%となっている。

また、何らかの暴力を受けた経験がある人の内訳は、男性 36.0%、女性 64.0%で、女性の割合が高くなっている。

<全体>



<性別>



1つでも「まったくない」以外を選択した方のみ

【問】 あなたは、受けた行為について、誰（どこ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

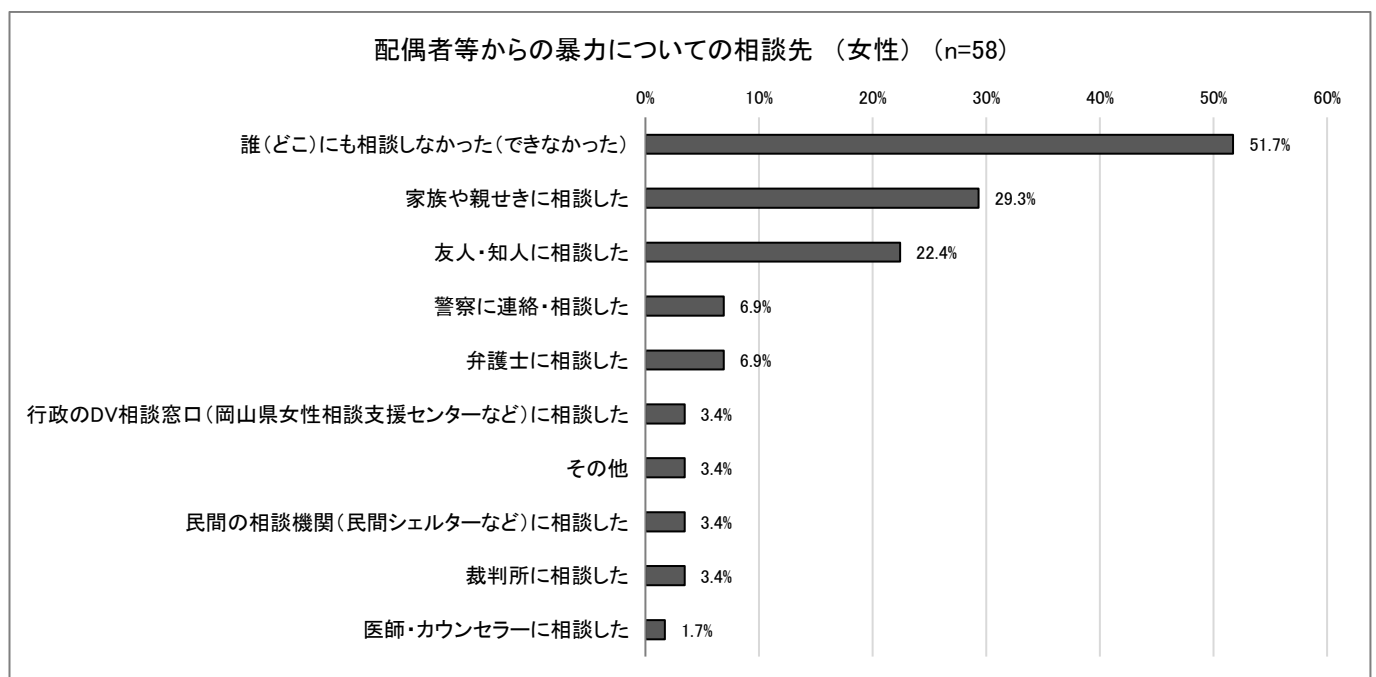
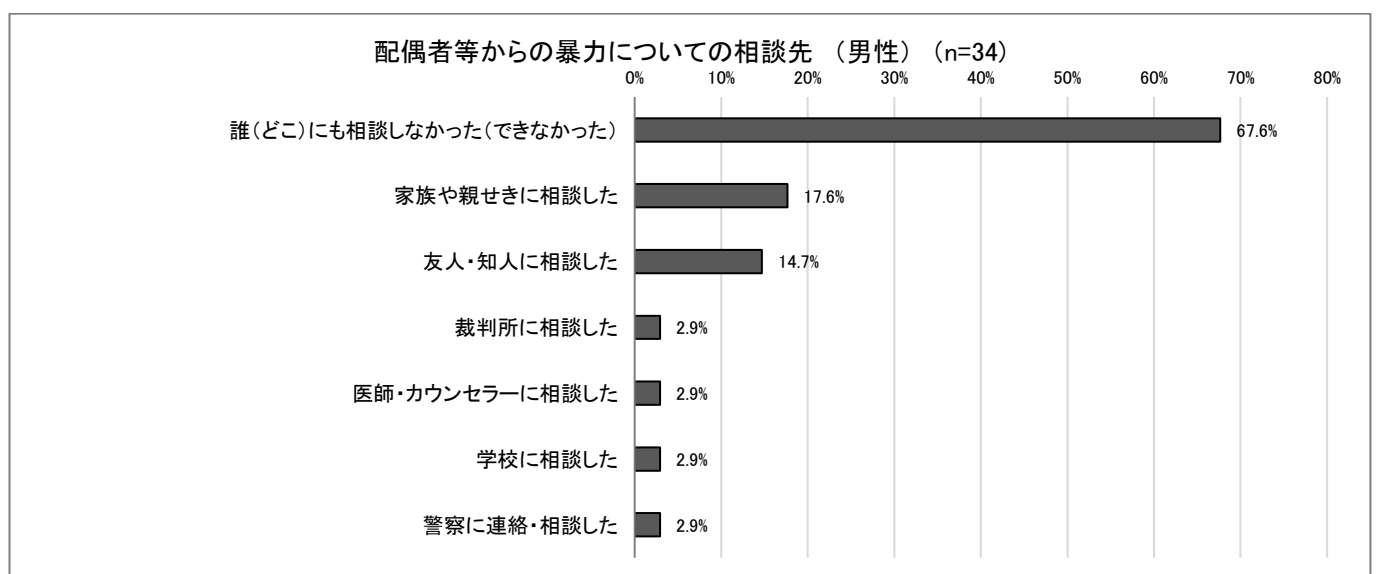
(選択はいくつでも)

◆「誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）」は5割超

配偶者等から暴力を受けたことを誰（どこ）かに相談したかについて、男女ともに「誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）」が最も高い割合となっており、いずれも5割を超えている。

性別で見ると、男性においては、「誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）」が67.0%で、次いで「家族や親せきに相談した」（17.6%）、「友人・知人に相談した」（14.7%）などの順となっている。

女性においては、「誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）」が51.7%で、次いで「家族や親せきに相談した」（29.3%）、「友人・知人に相談した」（22.4%）などの順となっている。



「誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）」を選択した方のみ

【問】 誰（どこ）にも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。（選択はいくつでも）

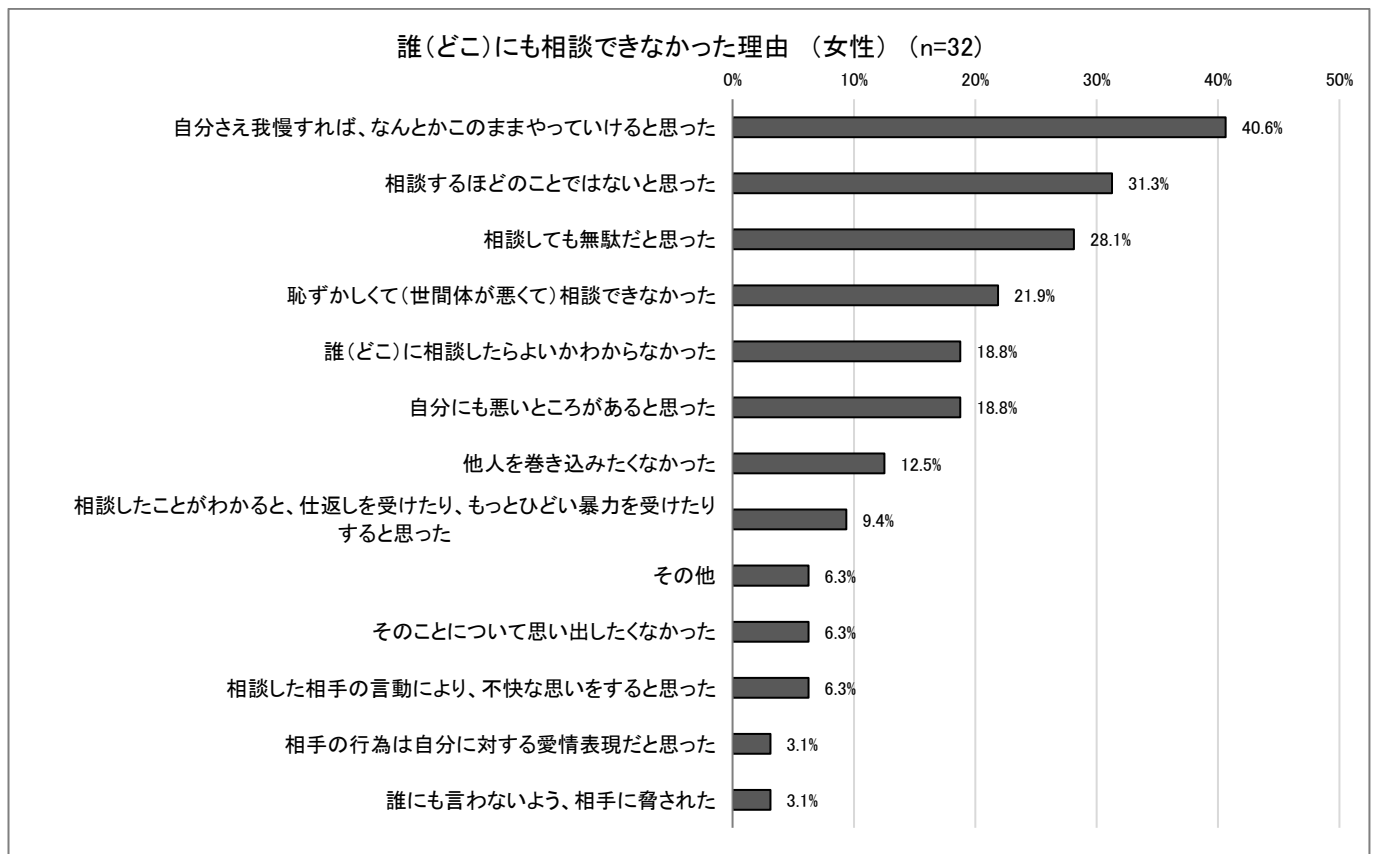
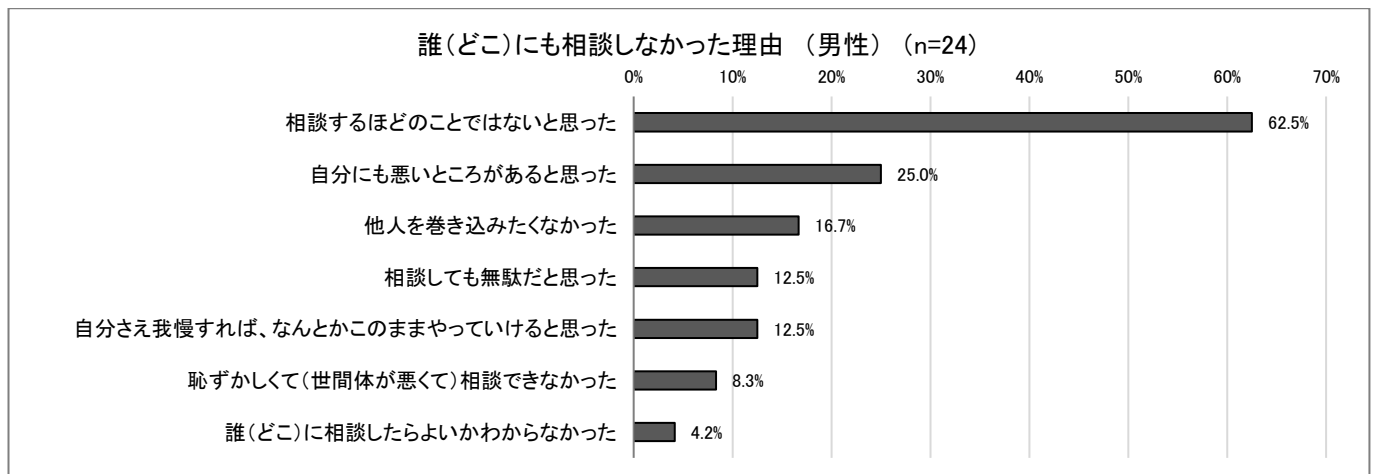
◆「相談するほどのことではないと思った」などの理由が多くみられる

相談しなかった（できなかった）理由について、「相談するほどのことではないと思った」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」、「自分にも悪いところがあると思った」などの割合が高くなっている。

性別で見ると、男性においては、「相談するほどのことではないと思った」が 62.5%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」（25.0%）、「他人を巻き込みたくなかった」（16.7%）などの順となっている。

女性においては、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 40.6%で最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」（31.3%）、「相談しても無駄だと思った」（28.1%）などの順となっている。

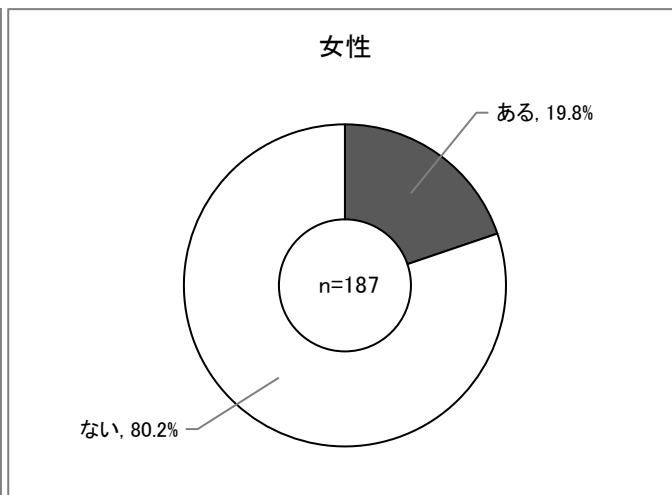
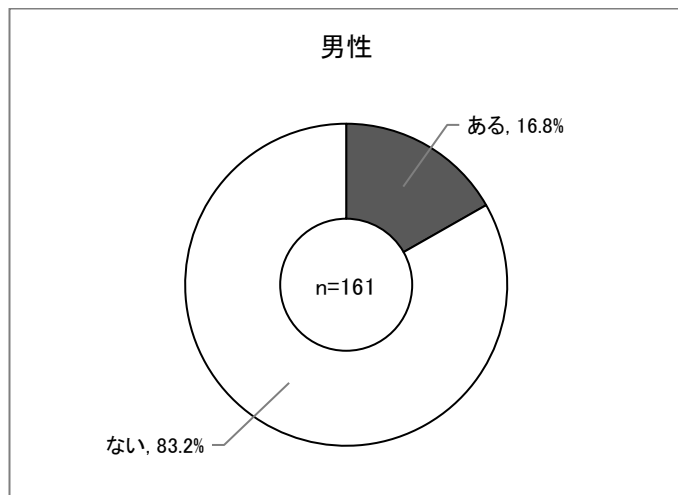
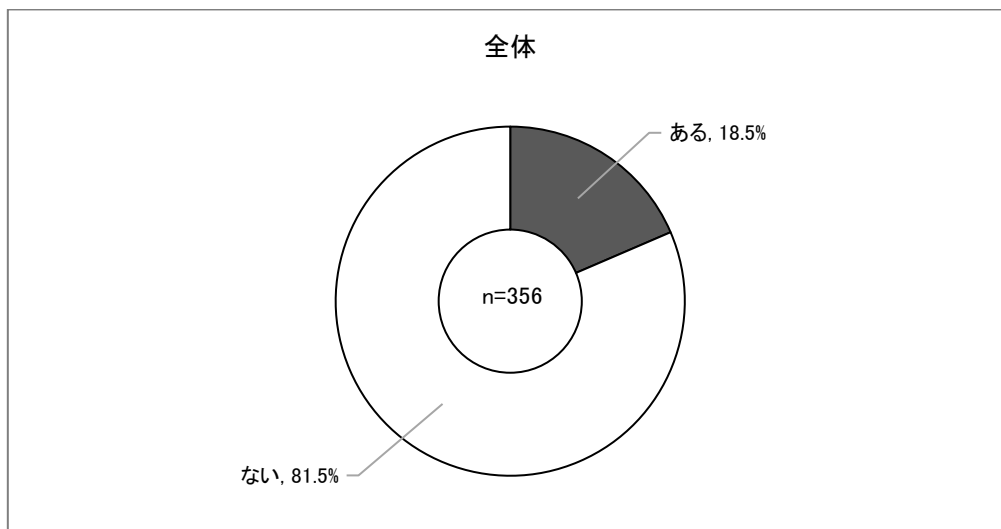
また、「誰（どこ）に相談したらよいかわからなかった」と回答した人の割合は、男性 4.2%、女性 18.8%となっている。



【問】あなたは、配偶者・パートナーや交際相手からの暴力行為を受けて悩んでいる人からの相談を受けたことがありますか。（1つだけ選択）

◆約2割の人が、配偶者等からの暴力で悩んでいる人からの相談を受けた経験がある

配偶者等からの暴力行為を受けて悩んでいる人からの相談を受けた経験がある人は、全体で18.5%となっている。また、相談を受けたことがある人の内訳は、男性は16.8%、女性は19.8%となっている。

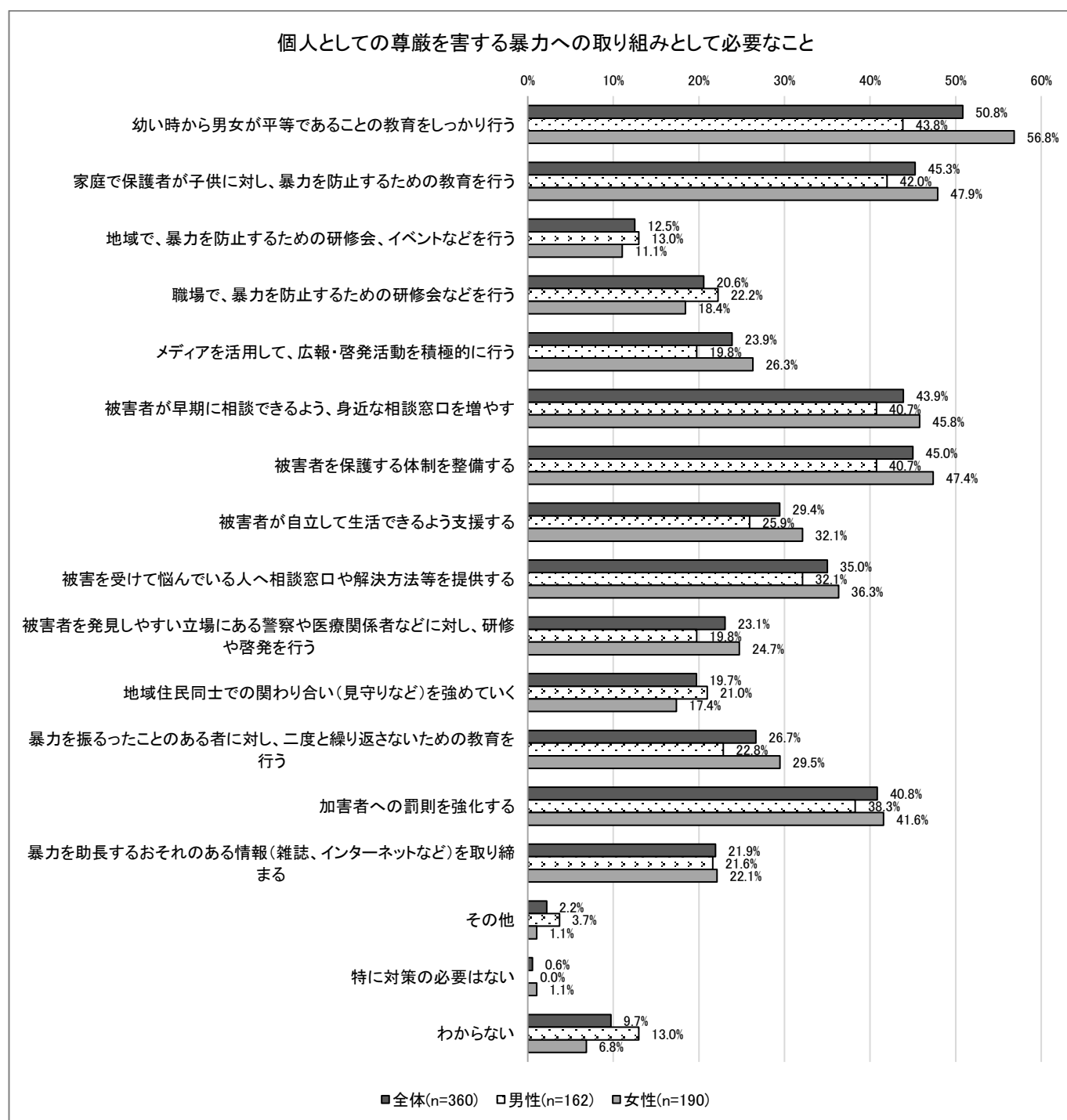


【問】 個人としての尊厳を害する暴力（配偶者・パートナーや交際相手からの暴力、性犯罪、セクシュアル・ハラスメントなど）への取り組みとして、あなたはどんなことが必要だと思いますか。（選択はいくつでも）

◆「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が最も高い

個人としての尊厳を害する暴力への取り組みとして必要なことについて、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」が 50.8%で最も高く、次いで「家庭で保護者が子供に対し、暴力を防止するための教育を行う」（45.3%）、「被害者を保護する体制を整備する」（45.0%）などの順となっている。

性別でみると、「幼い時から男女が平等であることの教育をしっかり行う」は女性（56.8%）が男性（43.8%）を 13.0 ポイント上回っている。

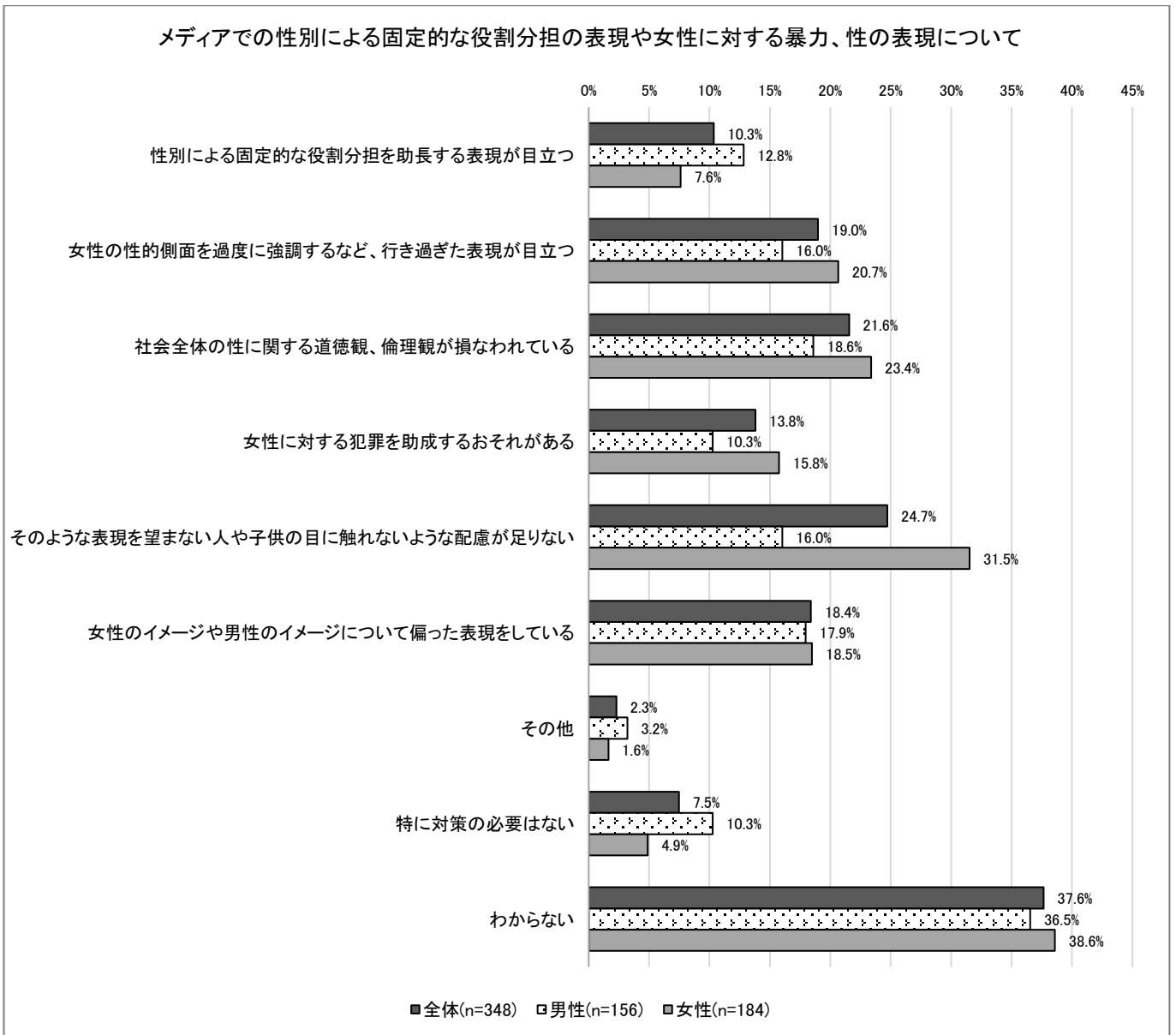


【問】 テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、Web など、メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。（選択はいくつでも）

◆「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」などが多い

メディアでの性別による固定的な役割分担の表現や女性に対する暴力、性の表現について、「わからない」と回答した人の割合が 37.6%と最も高くなっているが、それ以外では「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」（24.7%）、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」（21.6%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」（19.0%）などの順となっている。

性別でみると、「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」は、女性（31.5%）が男性（16.0%）を 15.5 ポイント上回っている。

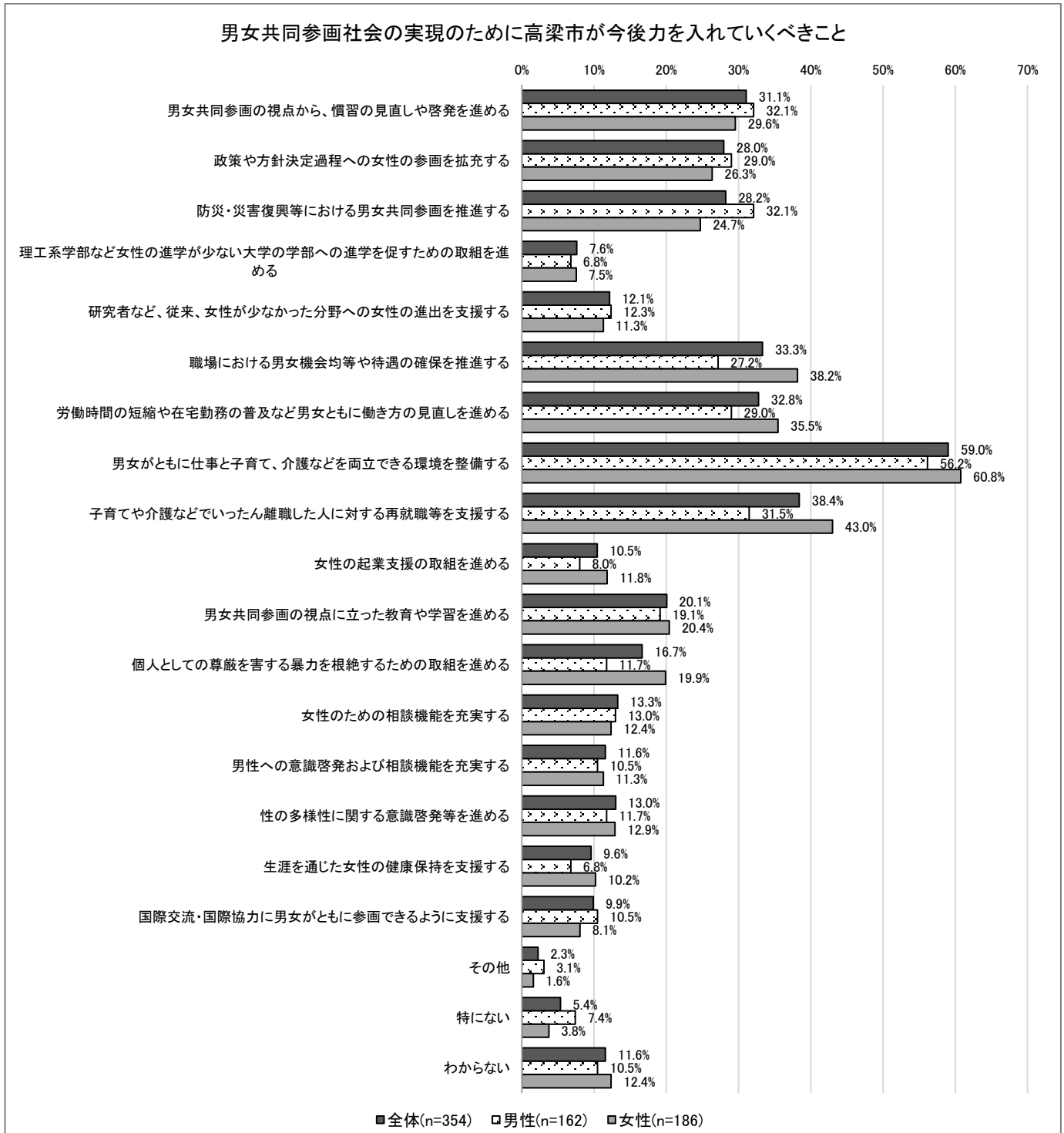


9. 高梁市における男女共同参画の推進について

【問】男女共同参画社会の実現を目指し、高梁市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（選択はいくつでも）

◆「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」が最も高い

「男女がともに仕事と子育て、介護などを両立できる環境を整備する」（59.0%）が最も多く、次いで「子育てや介護などでいったん離職した人に対する再就職等を支援する」（38.4%）、「職場における男女機会均等や待遇の確保を推進する」（33.3%）となっている。

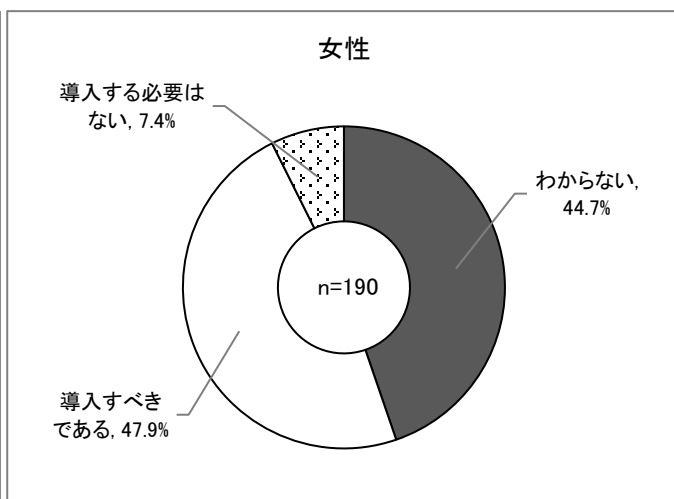
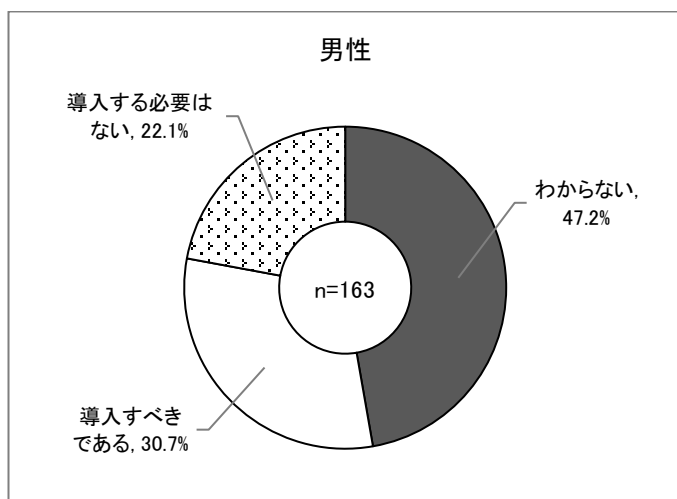
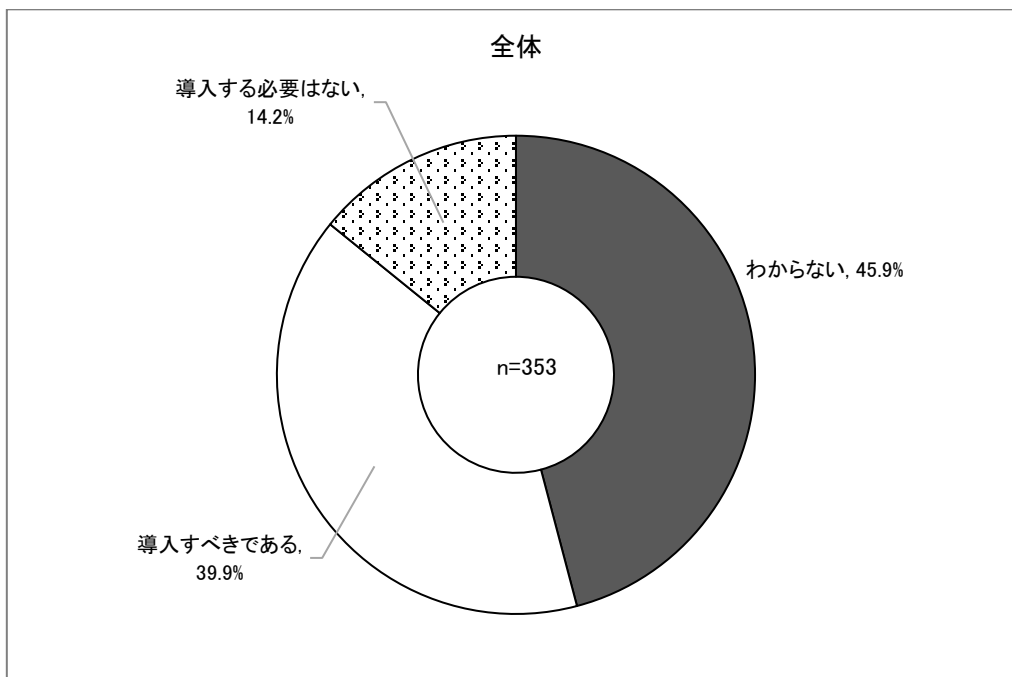


【問】 高梁市でも、パートナーシップ宣誓制度・ファミリーシップ宣誓制度を導入する必要があると思いますか。（1つだけ選択）

◆「導入すべきである」が約 4 割

全体では、「導入すべきである」が 39.9%となっており、「導入する必要はない」の 14.2%を大きく上回っている。一方で、「わからない」との回答は 45.9%で最も多くなっている。

性別で見ると、男性においては、「導入すべきである」が 30.7%、「導入する必要はない」は 22.1%となっている。女性においては、「導入すべきである」が 47.9%、「導入する必要はない」は 7.4%となっている。



自由記述意見（主なもの）

男女共同参画（男女平等・ジェンダー・性的マイノリティ）

- 男女の差がある。もっと視野を広げて見ないと何も変わらない。そして、LGBT への取り組み等も積極的に努めていかないといけないのではないのでしょうか。（20代 女性）
- 男性、女性、LGBTQ を含めた全ての方が、自らを自由に表現して生活できる世の中になったら良いと思います。高梁市がその先駆者になってほしいです。（30代 男性）
- 「男女平等」よく聞く言葉ではありますが、能力、機能等が異なる男女が等しく平等にというのは難しいと思います。男女が平等に扱われないことが問題ではなく、男女に関係なく、活動したいこと、仕事上の成果、能力などが適切に評価されず、不平・不満が生まれていることが問題だと考えます。現在は、女性専用車両や女性専用コンテンツがあふれており、女性優遇の社会になっていると考えます。「力仕事は男性」で批判されることはまれですが、「料理は女性」「家事は女性」と言えば批判される。男性には生きづらい社会かもしれません。現状で市が何をしているのか知りませんので、何をしたら良い、強化したら良いとは言えませんが、男女それぞれの能力を発揮して社会でも、学校でも、仕事でも、地域でも効率よく、支え合い助け合いの精神で進めていけるよう整備をお願いします。（30代 男性）
- 男女に差別はないと思って生きていたので今回のアンケートでそんなに男女を気にして生きている人が多いのだなということを知りました。男女男女と言いつぎなのもおかしなことになるし、男と女の身体の違いを全く気にしないというのも違うので、身体の違いからくるとは気にして、それ以外は違いのない状態をもうけられたらいいのではないかなと思いました。あとは個人の違いで気にすることは変わってくるので、男とか女とかは気にならないような状態になればいいなと思いました。（30代 女性）
- 世界的に見ても凶悪な性犯罪が少なく、女性の幸福度が高い日本において、男女共同参画という名目でくだらない啓発やありもしない差別や不平等をあおるのはやめてほしい。予算の無駄遣いだと思う。少なくとも希望する人間に機会を平等に与えること以外（採用における女性枠など）は女性優遇であるし、職業によってはそれぞれの男女差が出ることは仕方がないことであり、それは性差というより能力の違いである。そこをわざわざ人数だけを平等にして業務に支障が出るようにすべきでない。（30代 女性）
- 本質的な男女平等は、現実的では無い。身近な所だと同性婚など明らかに必要だと思う。事柄に対してアクションが遅すぎる。（40代 男性）
- 十分男女共同参画できる体制はできていると思います。あとは女性がやるかどうか、やれる実力があるかどうかだと思いますが、まだまだ施策が必要ならがんばって下さい。（40代 男性）
- 女性の管理職を何パーセントにしますとか、委員を何パーセントにしますという目標は本当に組織のためになっているのか疑問です。男性だから、女性だからではなく、優秀な人が選ばれるべきです。能力の高い男性が女性の比率を上げるために選ばれないことが男女共同参画だとは思いません。（40代 女性）
- 男女の特性もあるので全てを平等にと言うのは難しい気がする。区別は必要。人が少な過ぎて地域行事等の個人の負担が大きい気がするので人口が減少しないよう住み良い町にしてほしい。（40代 女性）
- 家庭生活などに関する男女の役割分担意識についての質問について"手伝う" という表現がそもそもだと思います。（40代 女性）
- 地域の各種団体も会合に参加してお世話する時に男性より女性の方が前向きな意見を述べる方が多い時がある。男女の意見をもっと出せる場所を増やして欲しい。（60代 男性）
- すべての事に対して意欲があるならどんどん参加できるようにしたら良い。男は男としての役割、女は女としての役割があると思う。（60代 男性）

- 「男性が」、「女性が」といった質問ではなく「異性が」といった質問の方が良いのではないかと思う質問もありました。又、性的マイノリティである方のこともあり一人の人間として相手へのリスペクトの意識を持つことが大切なのになにそでないために起こっている事件が多すぎます。家庭でも学校でも職場でも、自分を認めて相手も認める寛容な世間を望みます。「正しい性教育」は早くても良くて、早すぎる事はないと思います。染色体で分けられる男性・女性の違いや、体の仕組みの違い、愛情の事、心の事等々伝えるには内容があまりに多くあります。ぜひ、自分を大切にすること、相手を大切にすることを伝える為に費やす時間を無駄だと思わないでたっぷり取れるような状況を作ってください。(60代 女性)
- 男女とも積極的に平等にとあるが、体力も違う。みな出来るとはかぎらないと思う。助けあうことからはじまる。一人一人なかよくすることが大切であり差別しないことから、高粱は良くなるのでは。(70歳以上 男性)

働く環境、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

- 女性は育児とも両立しながら働かなければいけないので、男女ともに育児短時間勤務など、仕事と家庭を両立できる制度をきちんと整えて遠慮なく取れるようにすることが必要です。短時間勤務でも、それに見合った仕事量と所得を考えてほしいです。(30代 女性)
- 男女の格差に関わらず子供を育てることや介護に携わるなかでの仕事の両立がしやすくなるように支援もしくは企業への打診などをしっかりしてほしい。(40代 男性)
- 連日の消防操法大会練習のように、男性に家事・育児機会を失わせる仕組みを無くしてほしい。結婚後も可能な限り結婚前の苗字を使用できる仕組みを作してほしい。(40代 男性)
- 各企業に時短勤務やフレックスタイムの導入(小6まで)をもっと推奨してほしいです。仕事も家庭も両立するうえでやはり女性の負担が大きすぎる。(40代 女性)
- 高粱市がどうかという話ではなく、各企業、職場での話になっているので、社会全体での意識が高まっていけばいいと思う。(40代 女性)
- 地域の活動を増やす(若者から高齢者までが活動出来る等)。災害、防災訓練、避難訓練、日曜日に参加出来るようにする。家族で出来る簡単な訓練を行う。地域の活性化活動。地域おこし隊の活動について考える。(40代 女性)
- 女性でも農業ができるよう、農薬散布など力仕事のいる作業に関して、ドローンやロボットなどの機械で作業ができるような支援をしてほしい。(60代 女性)
- 子育て世代の男女が家庭と仕事を両立させて、生き生きと活躍できる地域環境をつくり上げて欲しい。人ごとでなく、市民ひとりひとりが互に関心を持ちできることで支え合い理解しあっていける市政を推進してもらいたい。年齢、性別、職業等の別を問わず、一人ひとりが幸せに生きる権利が守られる社会の実現に向けて努めてほしい。(60代 女性)

教育・啓発

- 正しい知識を持ち慣習を打破していく必要があると思う。学習がまだの世代への啓発活動が必要。(50代 女性)
- 共同参画という言葉はテレビなどでもよく聞きます。身近なところでの見聞きが少ないため、スルーしてしまう印象があります。(私だけかもしれませんが) 施策を進める上で、身近なこととして感じてもらうことから始めるのが良いのかなあとと思います。ケーブルTVも観る人は限られるし、やはり学校などで若い人たちに知ってもらおうのがよいのではと思いました。回覧も熱心に見ないため。(60代 女性)
- 自分の命、他の方の命、一番大切なことを、子育て中で、しっかりと教育していくことが必要と感じます。人は皆、それぞれに素晴らしいものを持っています。男性は女性を、女性は男性を思いやる気持ちが大切なのではと思います。(70歳以上 女性)

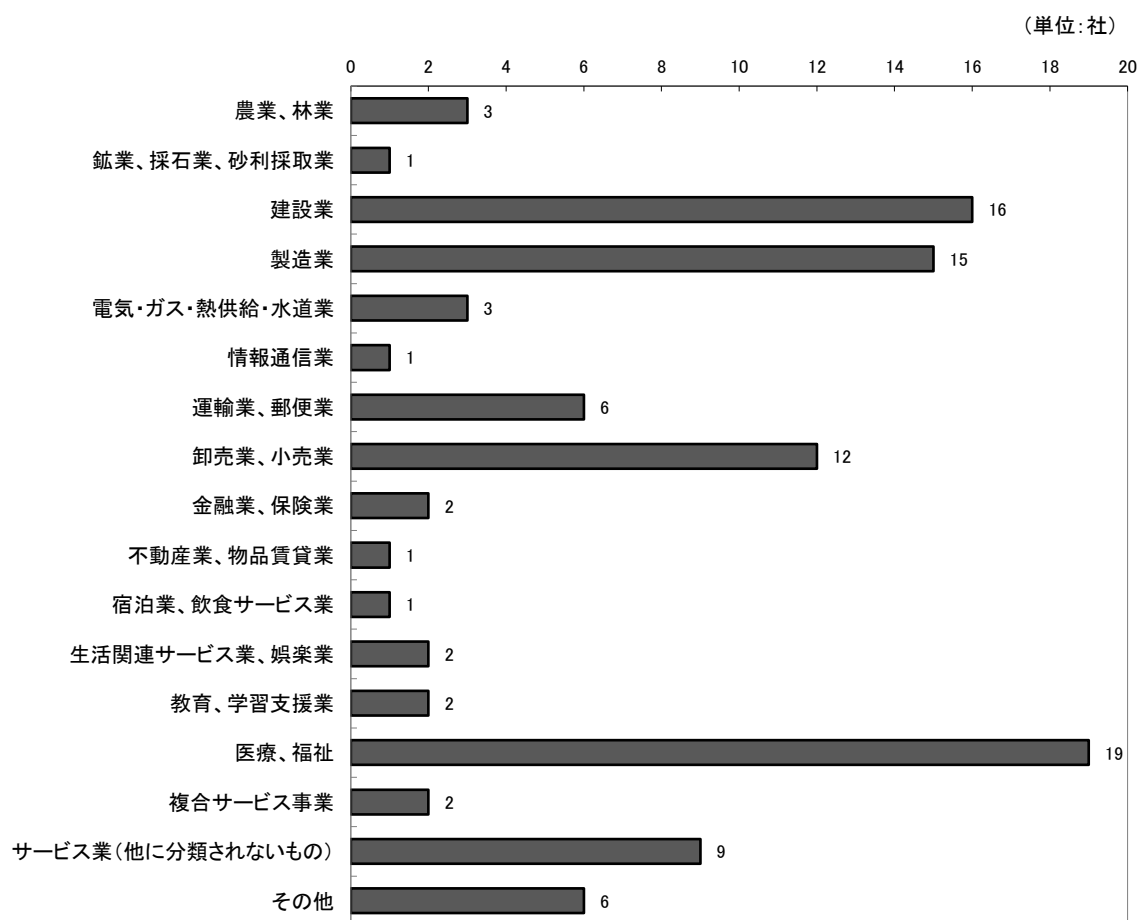
行政・その他

- 過疎化で、自治体などは役員の成り手が不足している。役員報酬などあったらよいと思う。旧郡部と、旧高梁市では、地域特性、環境も違うので、区別して施策を進めるべき。高梁市は広すぎて、1つの条件ではカバーできない。無理に進めず、男女の特性を考え、適材適所で行えばいいと思います。(30代 男性)
- 男女共同参画に関わらず、他市や他県の動向を参考に、という答弁が多い印象がある。他自治体の好取り組みを参考にするのが悪いとは言わないが、違う選択だったとしても、高梁にとって良い選択であれば積極的に決断、行動してほしい。(30代 女性)
- 調査結果をどうかムダにしないで頂きたいです。(40代 女性)
- 本件の調査では女性に注視した内容であるように思われたがそれぞれが偏見であるようにも感じられた。政策や活動協議を行う際には女性の参加を必須とする。男女50%になるように。市役所など主だった施設に誰でも投書できる箱を設置し、設置していることを公に広告し、市民の意見を募集する。市役所は、適時に意見を公表すると共に、市としての取組方針を示す。「市民から意見を聞いた」「意見を募集した」でおわらせてはいけない。その先どうするか、どう実行したのかが重要です。今後、過度に女性優位とならないように配慮する事も大切です。(60代 男性)
- 市外から来た人の意見をよく聞く。そして、実現への思い切りを早めに決断する。高梁は、あまりに変わらなさすぎる。(60代 女性)
- 男女共同参画の要について、現状分析や提案を、単に官から民へ発信するだけでなく、民から官へ、また民から民に対して様々なかたちで発信しやすいような媒体や場を構成・確保するのも、有効なのではないでしょうか。男女の地位の平等についての問いについて ここで言われている「優遇」の定義が不明で答えにくい。(70歳以上 男性)
- 水害や地震発生時の対応で、高齢者や障害者をどう支援して行くかを考えておく必要がある。例えばシナリオ作成し、それに沿って訓練も必要。(70歳以上 男性)
- 職場、家庭内等いろいろな場面があり自ら申し出ないとわかりにくいのでむずかしいですね。話しが気軽に話せる場所、人づくりが必要なように思います。(70歳以上 女性)
- 若者が高梁から出て行かない方法を考えてください。(70歳以上 女性)
- 高梁市が魅力ある市であるよう、今を大切に!!子育ての安心な市～産婦人科医の確保、若者の人口増加が急務、それから男女共同参画を取り組めるのでは…と考えます。燃えるエネルギー、行動を起こす。若者の意見を聴く。(70歳以上 女性)
- 近年テレビでもラジオでもカタカナ語が多く使われる様になり理解できない問い・話がよく有る。前回の国の選挙演説の際言われた言葉が理解できず困ったと言うお年寄りがたくさんいらした。たしかにそうだと思う。お年寄りでなくてもわからない単語がたくさんあった。アンケートもそうだと思う。もう少しわかりやすく書くべきだ!!(不明)

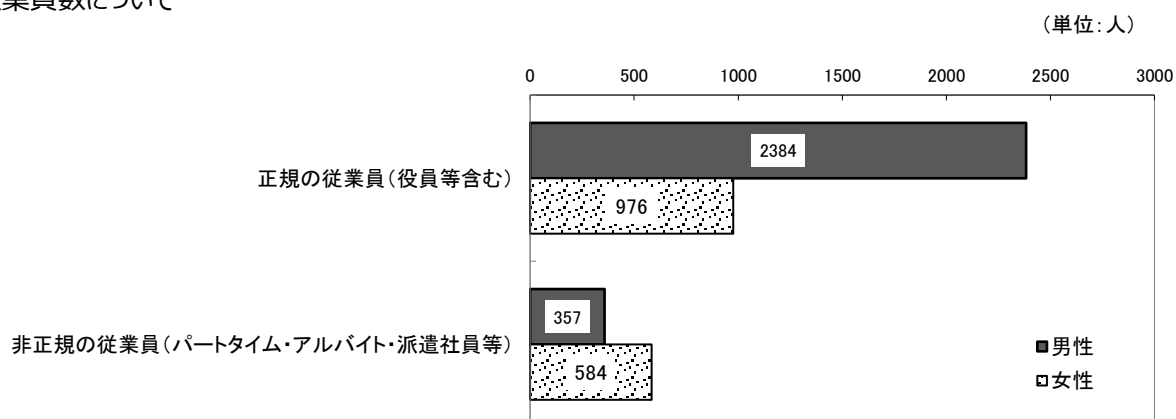
(2) 事業所意識調査

<調査対象事業所の属性>

1. 業種について



2. 従業員数について



3. 正規従業員の平均年齢と平均勤続年数について

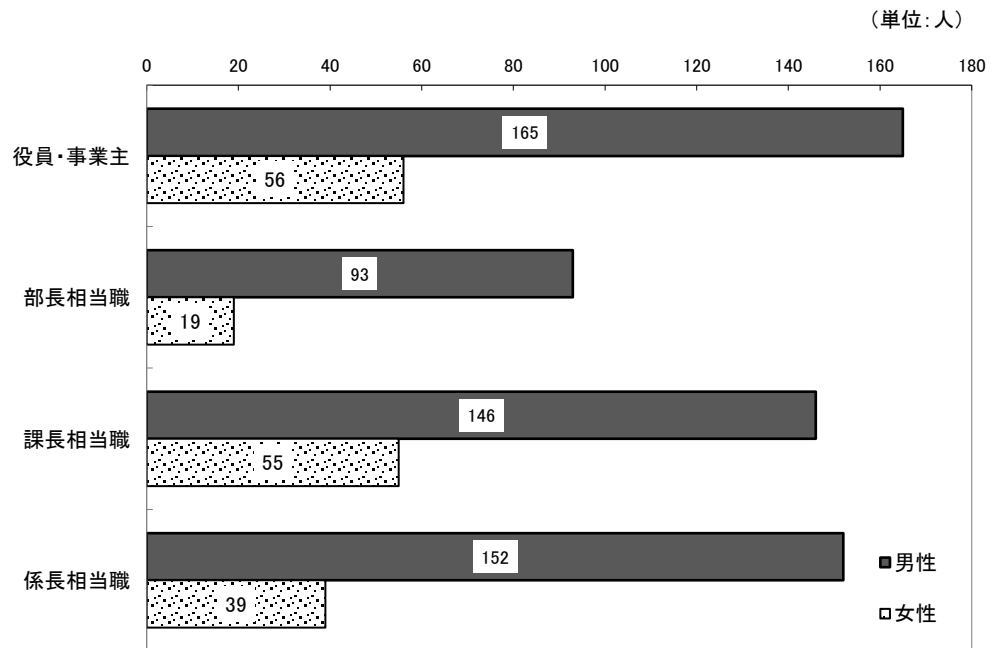
① 平均年齢

男性	49.0 歳
女性	48.5 歳

② 平均勤続年数

男性	13.9 年
女性	12.9 年

4. 管理職の状況について

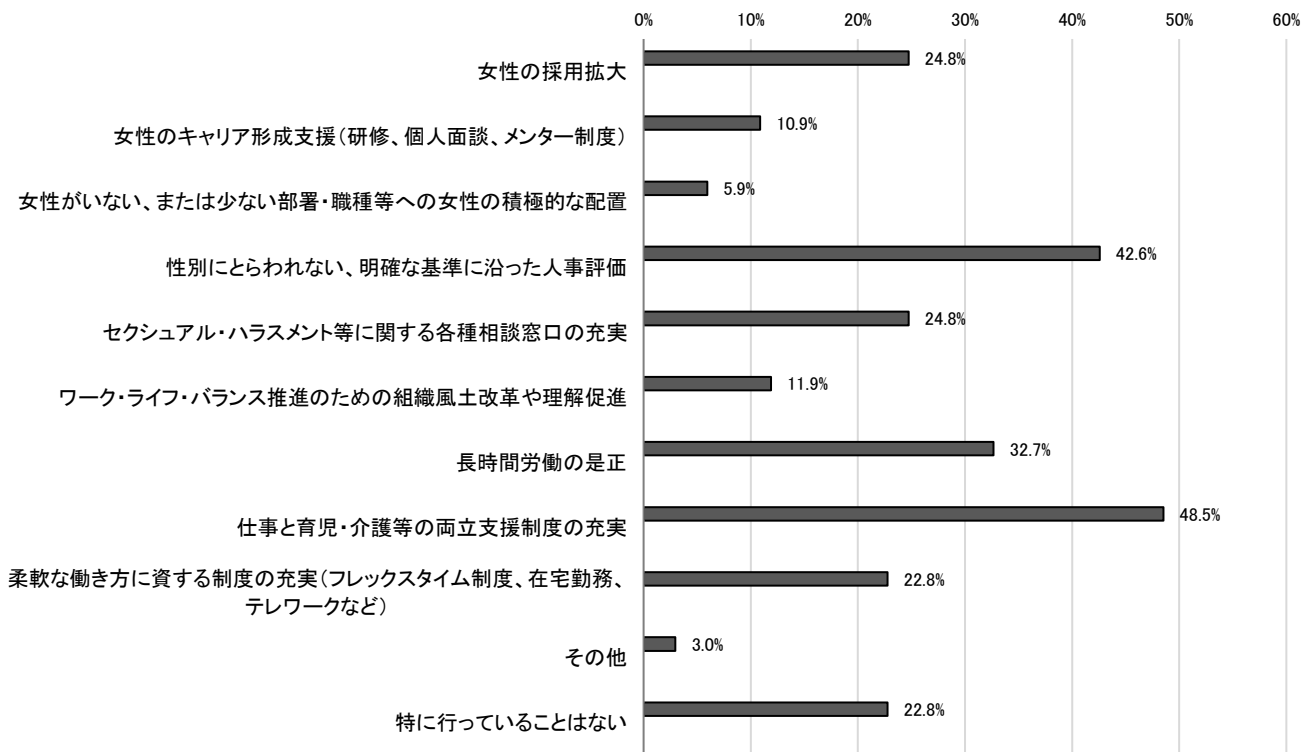


1. 女性の活躍推進の取り組みについて

【問】 女性の活躍推進に向けて、貴事業所で取り組んでいることはありますか。（選択はいくつでも）

[回答社数 101 社]

「仕事と育児・介護等の両立支援制度の充実（短時間勤務、看護休暇など）」（48.5%）が最も多く、次いで「性別にとらわれない、明確な基準に沿った人事評価」（42.6%）、「長時間労働の是正」（32.7%）などの順となっている。

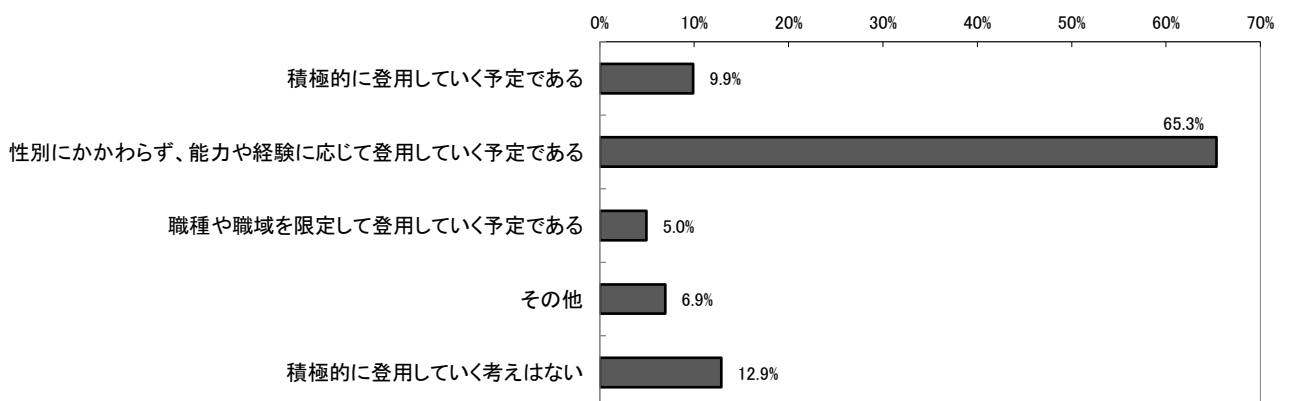


【問】 貴事業所では、今後の管理職の登用にあって、女性を積極的に登用しようと考えていますか。

(1 つだけ選択)

[回答社数 101 社]

「性別にかかわらず、能力や経験に応じて登用していく予定である」（65.3%）が最も多く、次いで「積極的に登用していく考えはない」（12.9%）、「積極的に登用していく予定である」（9.9%）などの順となっている。

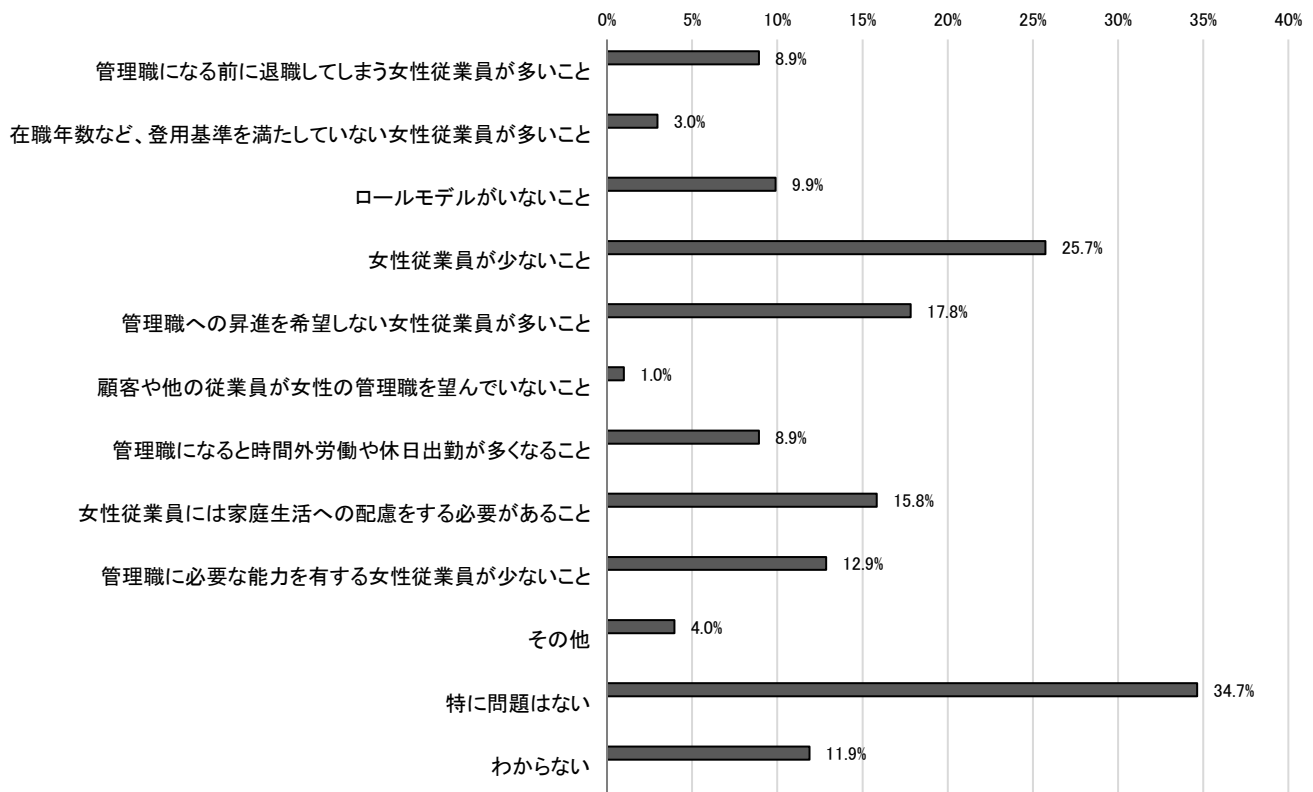


【問】 管理職へ女性を登用することについて、貴事業所で課題となっていることがありますか。

(選択はいくつでも)

[回答社数 101 社]

「特に問題はない」(34.7%)が最も多く、次いで「女性従業員が少ないこと」(25.7%)、「管理職への昇進を希望しない女性従業員が多いこと」(17.8%)などの順となっている。



2. 育児や介護休業制度の状況について

【問】 貴事業所における近年の育児休業制度の取得の状況について

育児休業を取得した従業員数について、男性はここ3年間では年々増加しており、配偶者が出産した人のうち6割弱の人が取得している。女性は、ここ3年間では出産した人のほぼ全員が取得している。

平均取得期間については、女性は1年前後となっているが、男性は2カ月未満となっている。

		男性	女性
令和4年度	出産、または配偶者が出産した従業員の人数	34人	26人
	上記のうち、育児休業を取得した従業員の人数	20人	23人
	育児休業の平均取得期間	1.4ヵ月	12.1ヵ月
令和5年度	出産、または配偶者が出産した従業員の人数	41人	20人
	上記のうち、育児休業を取得した従業員の人数	24人	20人
	育児休業の平均取得期間	1.3ヵ月	13.3ヵ月
令和6年度	出産、または配偶者が出産した従業員の人数	47人	16人
	上記のうち、育児休業を取得した従業員の人数	26人	16人
	育児休業の平均取得期間	1.63ヵ月	10.4ヵ月

育児休業の直近3年間の合計取得者数は、前回調査（R2）では男性10名、女性128名であったのに対し、今回調査では男性70名、女性59名であった。男性の取得者数は、大幅に増加している。

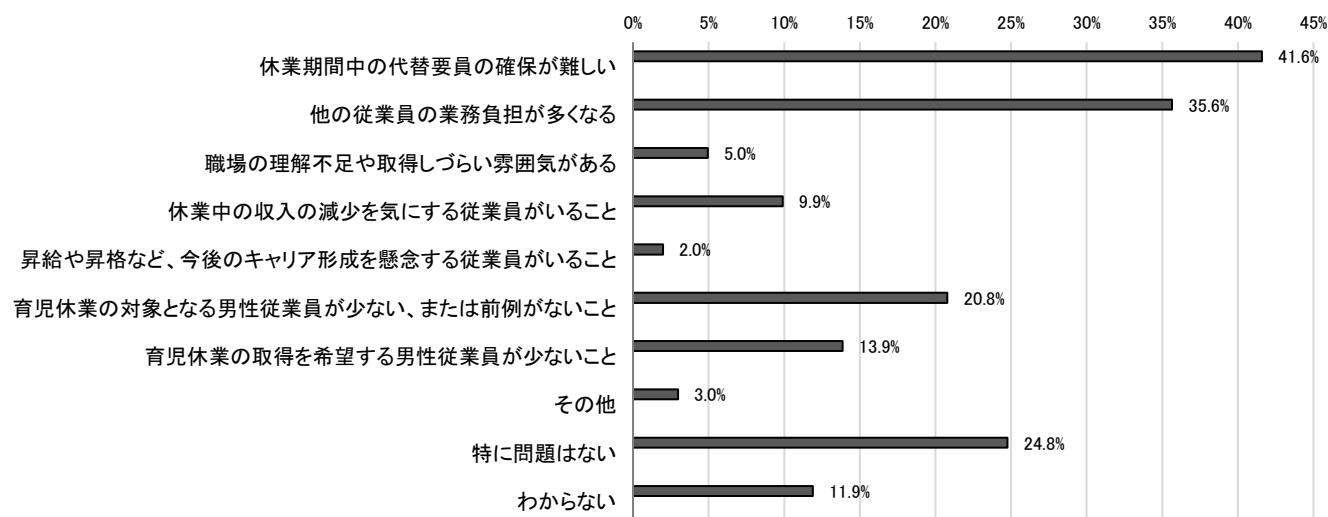
	男性	女性	合計
平成30年度	3人	54人	57人
令和元年度	4人	48人	52人
令和2年度	3人	26人	29人

【問】 男性従業員の育児休業の取得を進めていくうえで、貴事業所で課題となっていることはありますか。

（選択はいくつでも）

[回答社数 101社]

「休業期間中の代替要員の確保が難しい」（41.6%）が最も多く、次いで「他の従業員の業務負担が多くなる」（35.6%）、「特に問題はない」（24.8%）などの順となっている。



【問】 貴事業所における近年の介護休業制度の取得の状況について

介護休業を取得した従業員数について、ここ3年間では男性が1～3人、女性は1～2人となっている。
平均取得期間についても、男性は0～1ヵ月、女性は0～2ヵ月となっている。

		男性	女性
令和4年度	介護休業を取得した従業員の人数	1人	1人
	介護休業の平均取得期間	0.0ヵ月	2.0ヵ月
令和5年度	介護休業を取得した従業員の人数	2人	2人
	介護休業の平均取得期間	0.0ヵ月	1.5ヵ月
令和6年度	介護休業を取得した従業員の人数	3人	2人
	介護休業の平均取得期間	1.0ヵ月	0.0ヵ月

※取得したと回答していても、平均取得期間を「0」で回答しているため0.0ヵ月となっている部分がある。

介護休業の直近3年間の合計取得者数は、前回調査（R2）では男性4名、女性4名であったのに対し、今回調査では男性6名、女性5名となった。取得者数は、男女ともにほとんど増加がみられない。

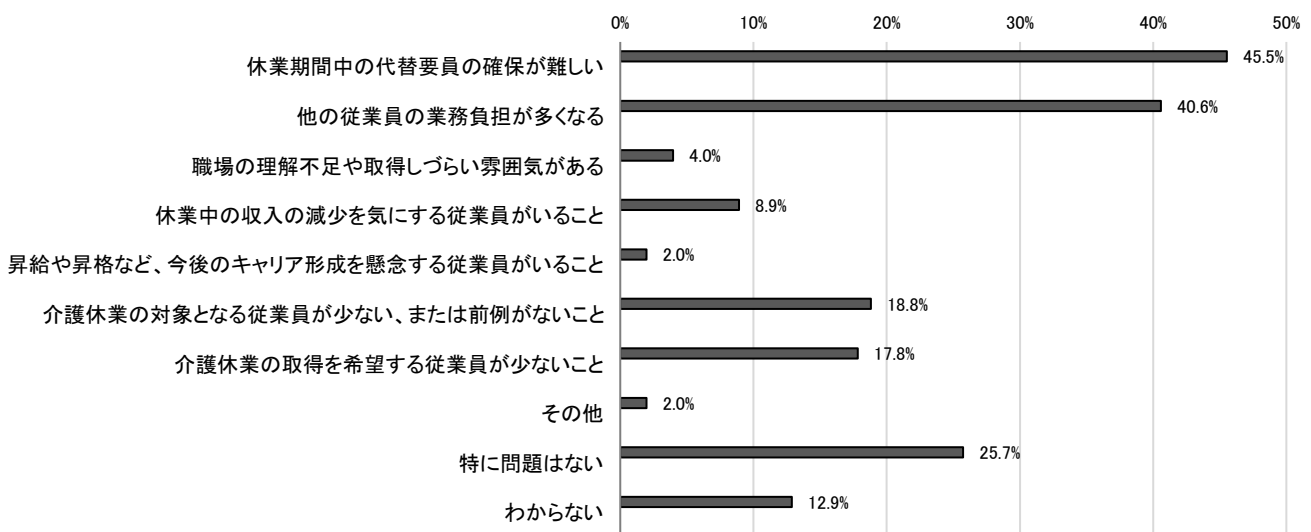
	男性	女性	合計
平成30年度	1人	1人	2人
令和元年度	2人	1人	3人
令和2年度	1人	2人	3人

【問】 男性従業員の介護休業の取得を進めていくうえで、貴事業所で課題となっていることはありますか。

（選択はいくつでも）

[回答社数 101社]

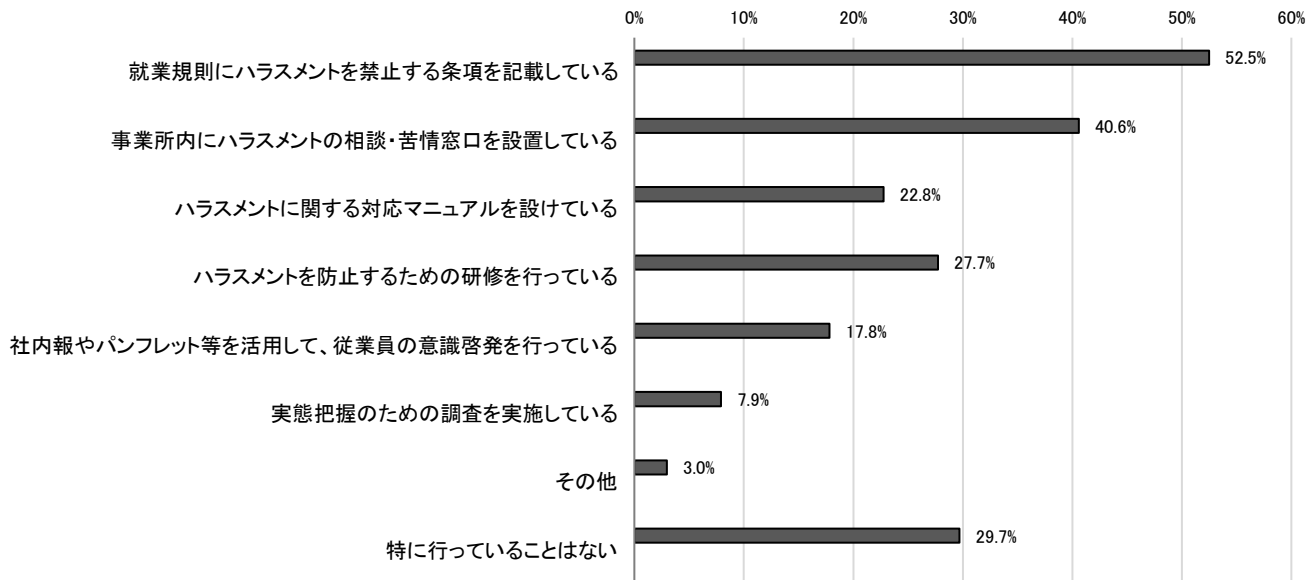
「休業期間中の代替要員の確保が難しい」（45.5%）が最も多く、次いで「他の従業員の業務負担が多くなる」（40.6%）、「特に問題はない」（25.7%）などの順となっている。



3. ハラスメントへの取り組みについて

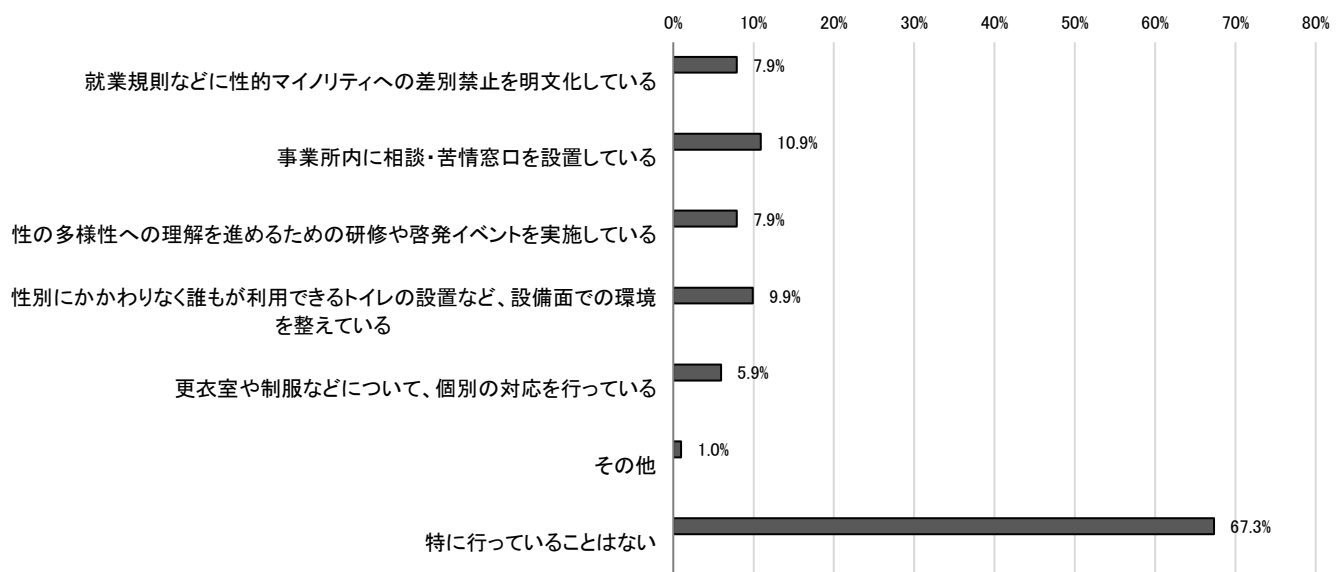
【問】 職場のハラスメント（セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、マタニティ・ハラスメントなど）を防止するために、貴事業所で取り組んでいることはありますか。（選択はいくつでも） [回答社数 101 社]

「就業規則にハラスメントを禁止する条項を記載している」（52.5%）が最も多く、次いで「事業所内にハラスメントの相談・苦情窓口を設置している」（40.6%）、「特に行っていることはない」（29.7%）などの順となっている。



【問】 LGBTQ などの性的マイノリティへの配慮、または差別を防止するために、貴事業所で取り組んでいることはありますか。（選択はいくつでも） [回答社数 101 社]

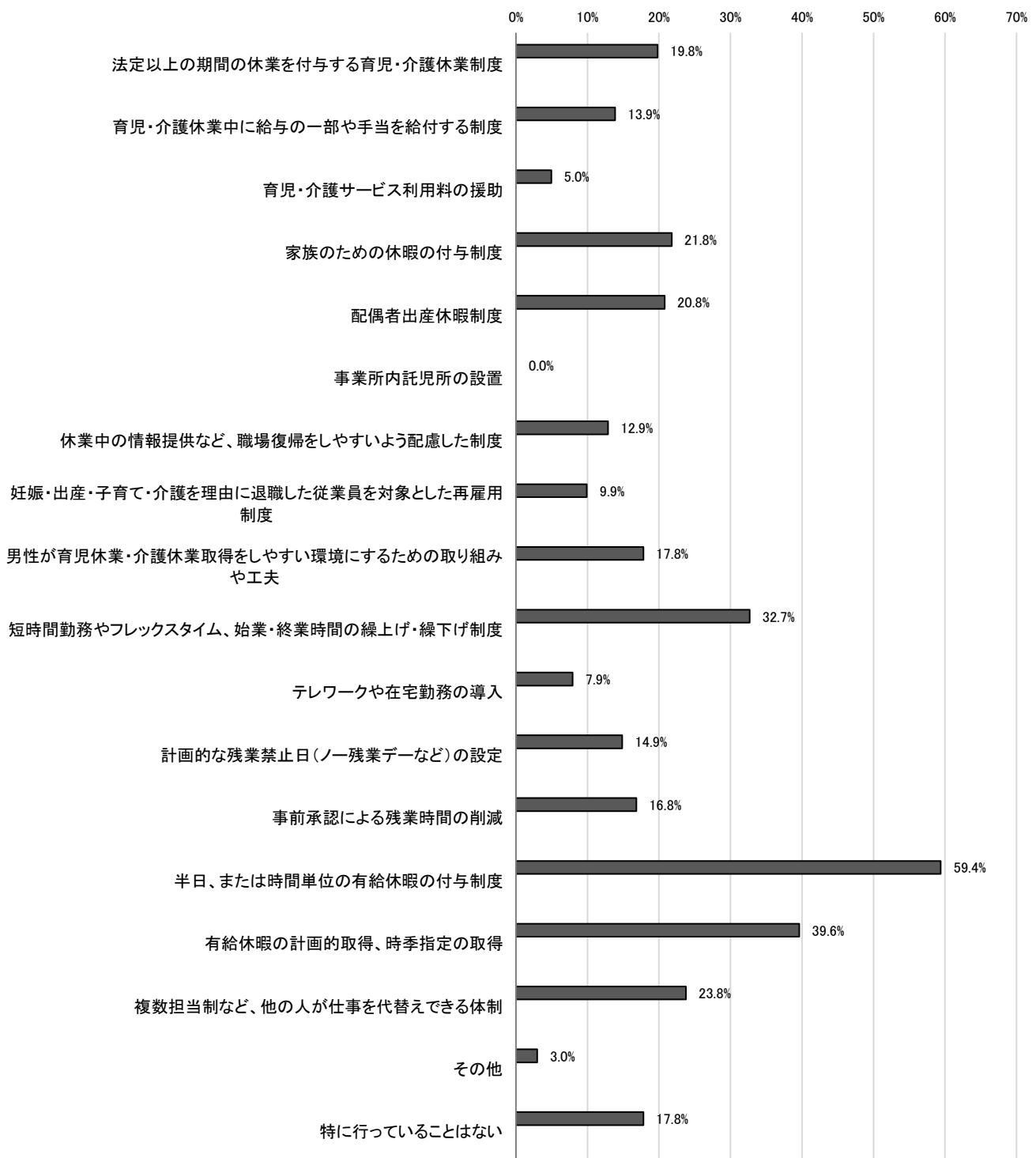
「特に行っていることはない」（67.3%）が最も多く、次いで「事業所内に相談・苦情窓口を設置している」（10.9%）、「性別にかかわらず誰もが利用できるトイレの設置など、設備面での環境を整えている」（9.9%）などの順となっている。



4. 男女がともに働きやすい環境づくりについて

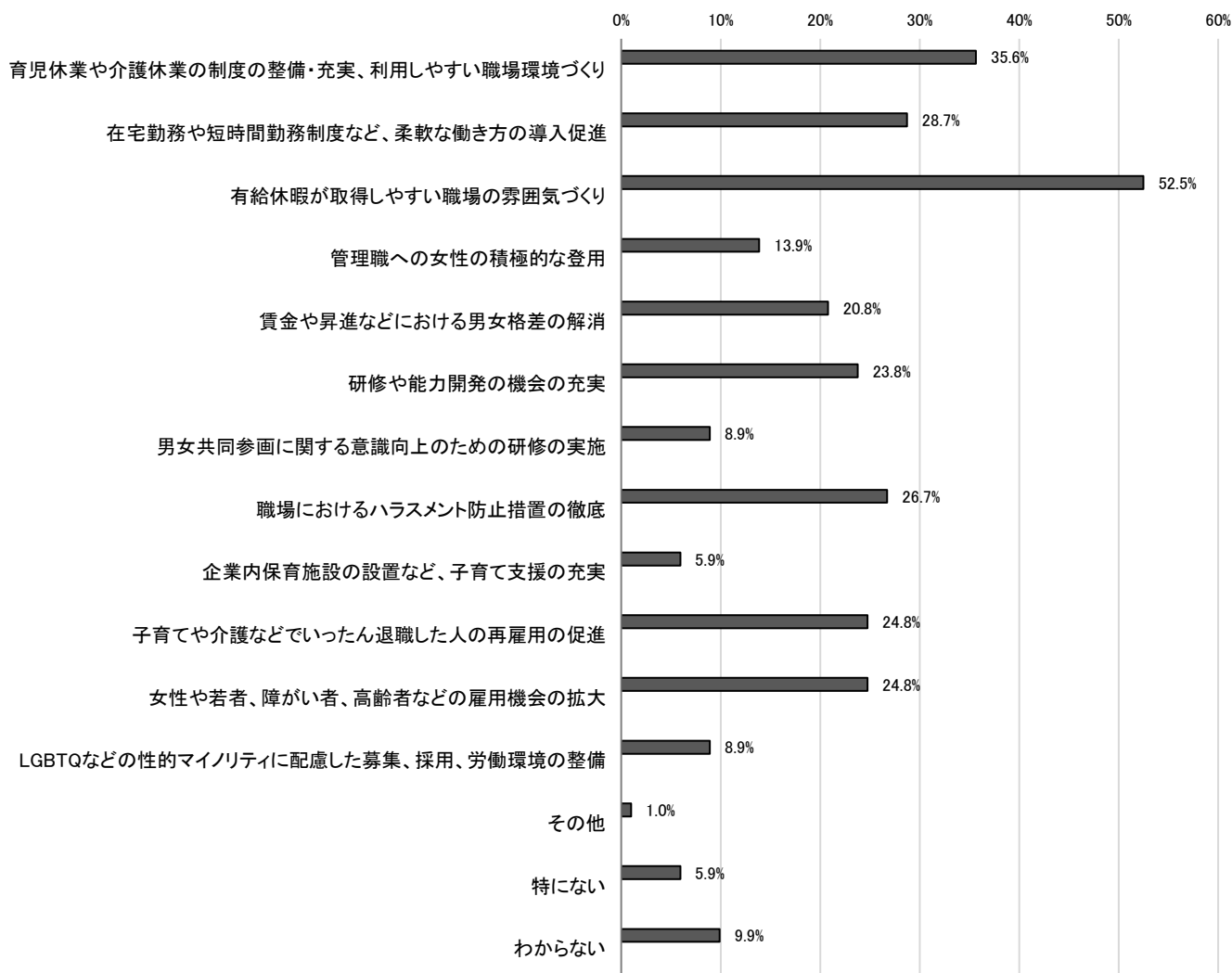
【問】 従業員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）推進や、育児・介護支援のため、貴事業所で取り組んでいることはありますか。（選択はいくつでも） [回答社数 101 社]

「半日、または時間単位の有給休暇の付与制度」（59.4%）が最も多く、次いで「有給休暇の計画的取得、時季指定の取得」（39.6%）、「短時間勤務やフレックスタイム、始業・終業時間の繰上げ・繰下げ制度」（32.7%）などの順となっている。



【問】 貴事業所において、すべての人が性別等にかかわらず、多様な働き方を実現するために、今後どのようなことに力を入れていく必要があると思いますか。（選択はいくつでも） [回答社数 101 社]

「有給休暇が取得しやすい職場の雰囲気づくり」（52.5%）が最も多く、次いで「育児休業や介護休業の制度の整備・充実、利用しやすい職場環境づくり」（35.6%）、「在宅勤務や短時間勤務制度など、柔軟な働き方の導入促進」（28.7%）などの順となっている。



【問】 国や岡山県、高梁市が定めている企業認定等の制度をご存じですか。(①～⑥でそれぞれ1つだけ選択)

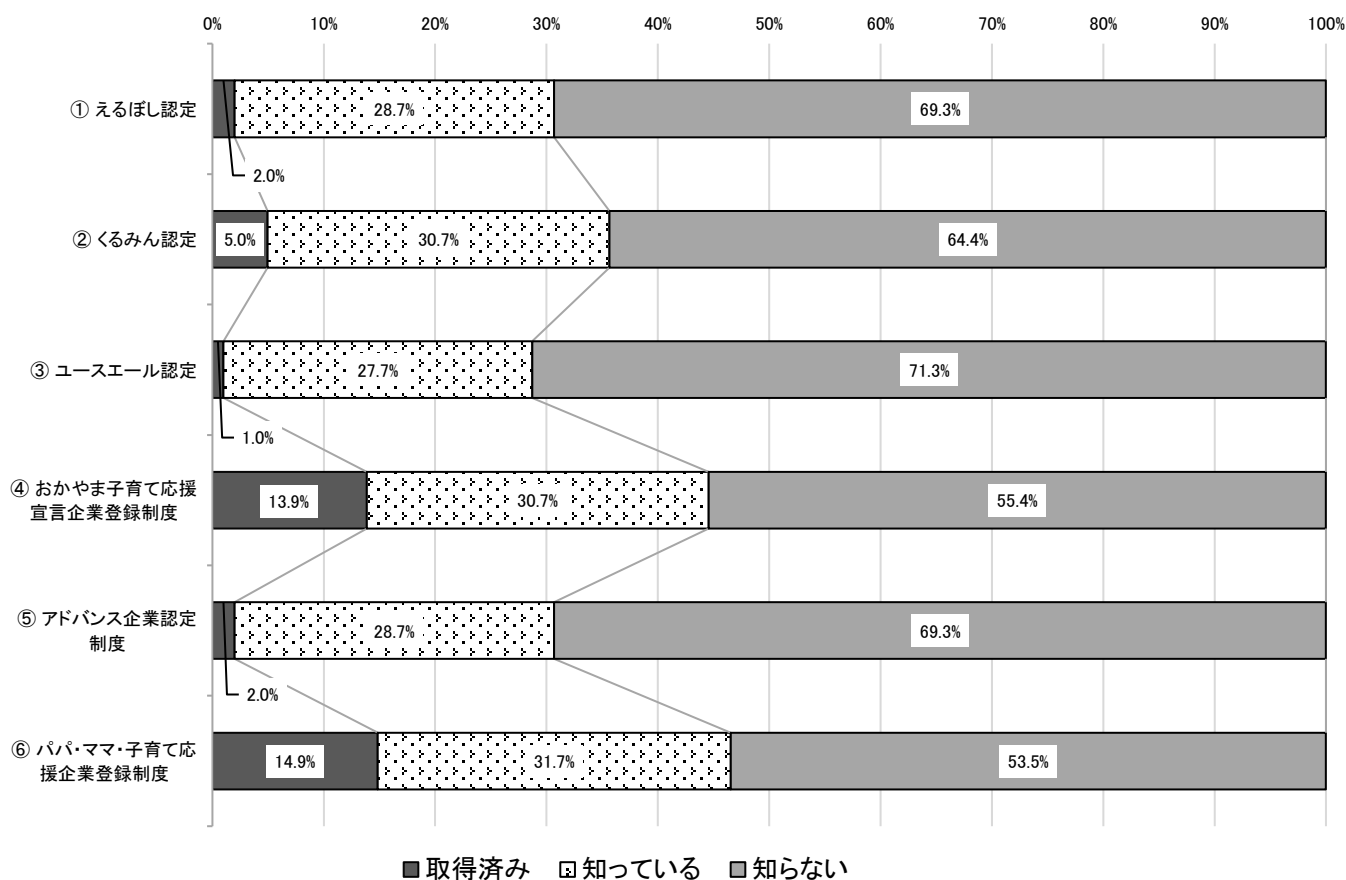
[回答社数 101 社]

「知らない」と回答した事業所が、各制度とも5割を超えている。

一方、「知っている」は、高梁市の「パパ・ママ・子育て応援企業登録制度」(31.7%)が最も多く、次いで「おかやま子育て応援宣言企業登録制度」、「くるみん認定」(ともに30.7%)で、他の制度も3割弱となっている。

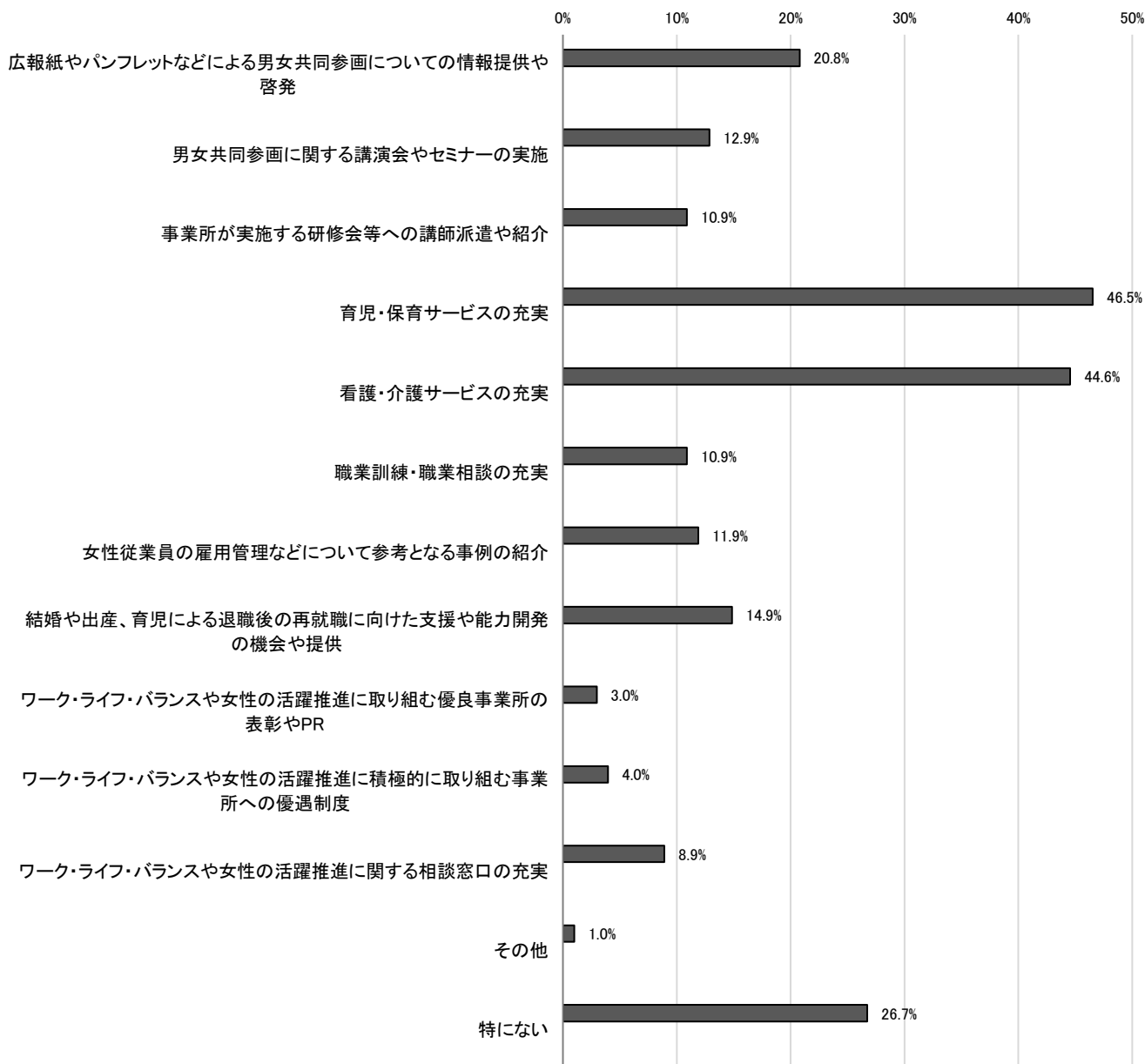
「取得済み」については、「パパ・ママ・子育て応援企業登録制度」(14.9%)が最も多く、次いで「おかやま子育て応援宣言企業登録制度」(13.9%)、「くるみん認定」(5.0%)などの順となっている。

企業認定等の制度の認知度



【問】 性別等に関わらず誰もが活躍できる職場環境や、多様な働き方を実現するために、貴事業所として高梁市の施策に望むことはどのようなことですか。（選択はいくつでも） [回答社数 101 社]

「育児・保育サービスの充実」（46.5%）が最も多く、次いで「看護・介護サービスの充実」（44.6%）、「特にない」（26.7%）などの順となっている。



自由記述意見

- （管理職へ女性を登用するうえでの課題）求人しても人が来ない。 [サービス業（他に分類されないもの）]
- （男性従業員の育児休業や従業員の介護休業取得を進めるうえでの課題）従業員の少ない企業は無理。他への負担が多すぎる。これは従業員が多い大企業がする事。日本は99%が中小企業、国は現場の実態を全く把握していない。 [不動産業、物品賃貸業]
- 人口減少で従業員不足のこの時代 男女共同参画を言っていられないのが実情。 [卸売業、小売業]
- 高梁市の中で求職者バンク（登録制にして仕事を探している人を見つけられる）制度が欲しい。女性、育児者のみでもいいかと。 [製造業]
- 高齢者が社会参加できる工夫・PRが望まれる。 [その他]
- 移住者や外国人の採用ができる環境も整備して欲しい。 [医療、福祉]
- 男女関係なく適材適所。 [サービス業（他に分類されないもの）]
- 柔軟な働き方、公正な評価、働きやすい職場環境。 [サービス業（他に分類されないもの）]
- 数十年前に比べると、社会全体は大きく変化してきていることを実感する。一朝一夕とはいかないまでも、歩みを止めないことが大切だと感じている。 [建設業]
- 人権問題としての認識の土台にたった数々の施策、その場しのぎの対策になっていないか？ [運輸業、郵便業]
- 子育てと仕事が両立できる組織風土をつくり、皆で協力できる職場づくりを目指している。男女共に関係なく意欲と能力で評価する仕組みも重要だと思う。 [医療、福祉]
- 当社では女性が多く活躍しているため、男女間に意識の区別が無く共同参画がほぼ当たり前になっている。
[医療、福祉]